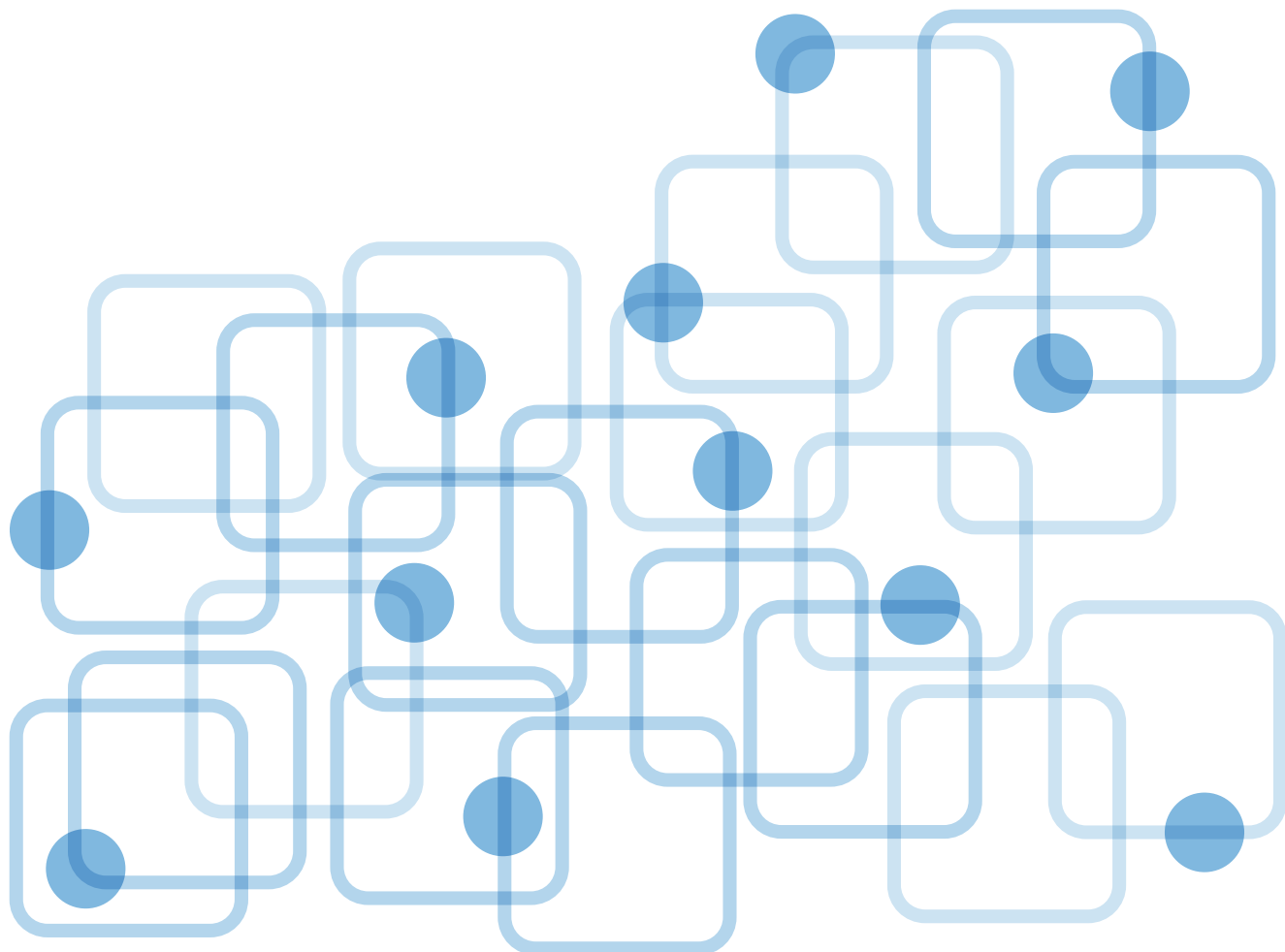


# つくばにおけるまち育て事業モデル

—持続可能なまちづくりの仕組み—





# つくばにおけるまち育て事業モデル

—持続可能なまちづくりの仕組み—



## はじめに

国の法人改革により、当財団は茨城県から認可を受け平成 24 年 4 月に一般財団法人としてスタートしました。その際、公益目的事業「不特定かつ多数の者の利益の増進に寄与するもの」が財団事業の主たる事業と位置付けられました。当財団では、財団の定款、有するノウハウ、地域社会の要請などから、この公益目的事業の柱としてまち育て事業（市民協働のまちづくり支援）を選択し現在に至ります。

現在、3つのモデル事業実施と1つの関連事業に参加しており、本稿はその内容と仕組みについて述べるとともに、現状の到達点、課題等について整理したものです。

まちづくりは一過性のものではなく、未来永劫続いて行くものであり、そのために持続可能な仕組みづくりが必要となります。

そこで各事業の持続可能性に着目し、その特徴や差異を述べながら様々な形態に対応できる仕組みを見出していきたいと思えます。

第一章では持続可能なまちづくりの仕組みと市民協働のまちづくりを進める上での留意点について、第二章では具体的な事例について記述してありますので、まち育ての原理的な事柄とその具体例を知っていただき今後のまちづくりに少しでも寄与できたらと思えます。

成熟社会をさらに豊かにするためには、まちづくりに市民や企業の力を存分に発揮していただくことが求められており、そのことは市民も行政も企業も元気になることにつながると考えております。当財団ではまち育て事業を通して、そうした場づくり、きっかけづくりをすることを目指しております。もちろん我々だけでは人材もノウハウも決定的に不足しておりますので、専門家や NPO と連携しより質の高いまち育てを目指している事もあわせて申し上げておきたいと思えます。

一般財団法人つくば都市交通センター  
理事長 伊藤 節治



## 目 次

### 第1章 持続可能な仕組みと留意点

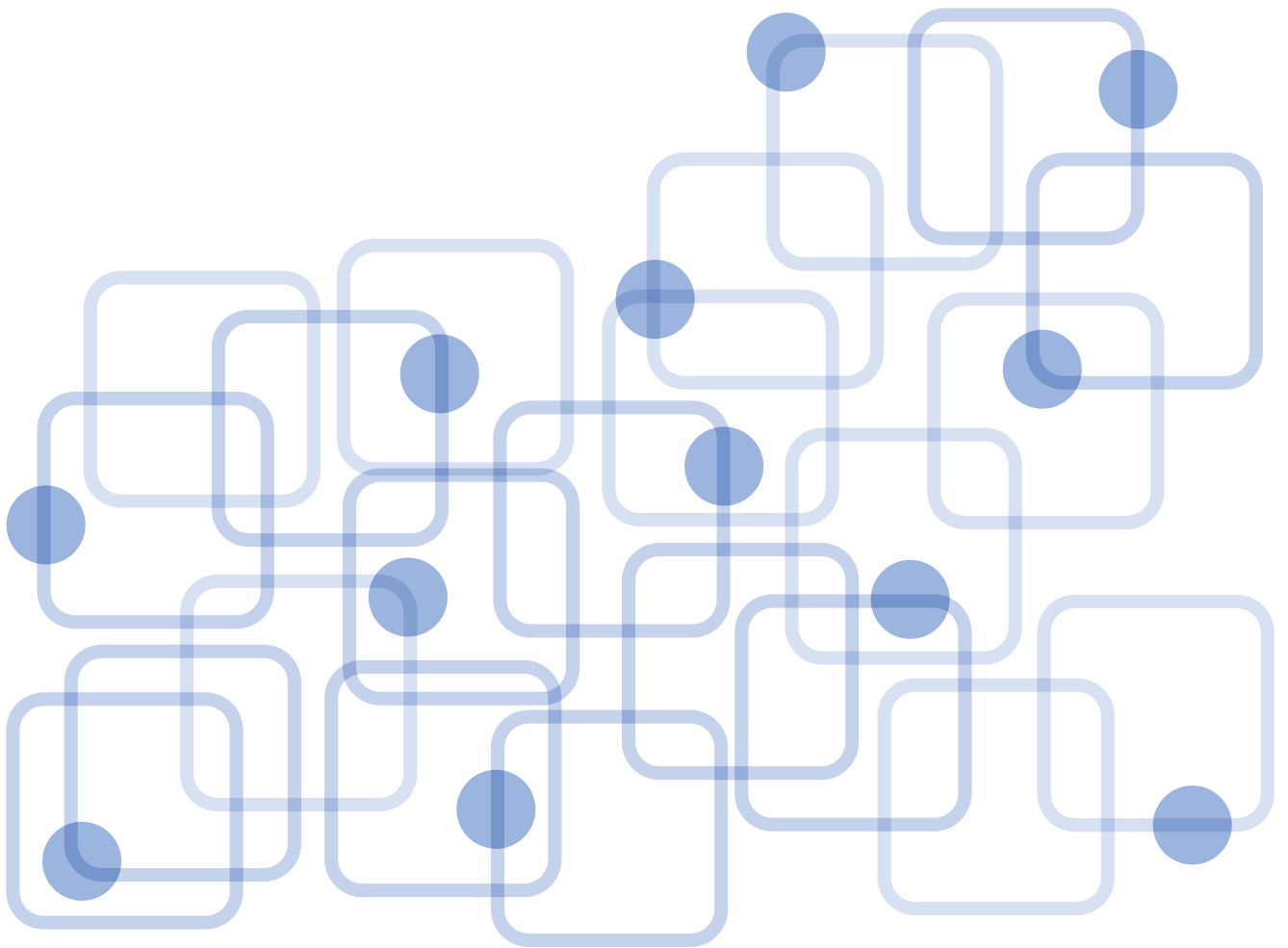
- 1 3つのモデル事業と1つの関連事業についての概要 . . . . . 1
- 2 ビジョンの必要性 . . . . . 2
- 3 ヒト・モノ・カネ . . . . . 2
- 4 留意点 . . . . . 4

### 第2章 事例紹介

- 1 葛城地区「研究学園グリーンネックレスの会」 . . . . . 7
- 2 葛城地区大規模緑地「里山クラブ」 . . . . . 51
- 3 音楽によるセンター活性化「音の宝箱」 . . . . . 87
- 4 関連事業「葛城地区企業交流会」 . . . . . 121



## 第 1 章 持続可能な仕組みと留意点





## 持続可能な仕組みと留意点

一般財団法人つくば都市交通センター 理事長  
元 独立行政法人都市再生機構 埼玉地域支社長  
伊藤 節治

### 1 3つのモデル事業と1つの関連事業についての概要

この章ではまち育てを進めていくために必要な事柄をその要素ごとに記述するとともに、筆者の経験したまち育てを進める上で知っておいてほしいことを、留意点としてまとめてありますので参考にしてください。

まず、本論に入る前に、イメージをつかんでいただくため現在取り組んでいる3つのモデル事業と1つの関連事業について概要を記します。

#### (1) 葛城地区「研究学園グリーンネックレスの会」

…環境美化、音楽イベント、歴史サロンなど実施

住民アンケートによるモニター募集・ワークショップ・予備的な会によるシンボルプロジェクトの実施、これらを通じて担い手を発掘するとともに組織化を図りました。

更にまちなみ講座などを通じてスキルアップを図っています。

財団職員もワークショップのファシリテーターを務めたり、プロジェクトを手伝ったり、講座の企画運営をしながらノウハウを蓄積しています。

#### (2) 葛城地区大規模緑地「葛城地区大規模緑地里山クラブ」

…里山再生を目指し茨城県所有の大規模緑地における市民協働による維持管理など実施

将来の活動母体を想定して里山クラブを立ち上げホームページ、チラシなどで会員募集するとともに、口コミにより地域で活動する担い手を勧誘。定期的な森の散歩、お手入れなどを通じてビジョンの浸透、交流、スキルアップを図っています。

財団職員もビジョンづくりから現地の活動まで NPO と連携し実施しています。

#### (3) 音楽によるセンター活性化「音の宝箱企画運営会議」

…市民、演奏家、地元活動団体、2つの財団による音楽祭実施

当財団が事務局を支援し、地域で活動する人を口コミで勧誘し企画運営

会議を立ち上げ、ビジョン・プログラム作り、PR、音楽祭を実施。担い手はすでに多くの経験を積み、それぞれノウハウを持っておりそれらを活動に活かすよう会議を重ね調整しました。

#### (4) 関連事業「葛城地区企業交流会」

…企業の特徴を生かした連携と、交流会独自の美化活動などを実施

まち育ては市民のみならず地域に立地する企業も参加し地域協働で進めることが望ましい形です。

そこで、葛城地区において地域貢献に興味を示す企業に呼びかけ、現在11社が参加し交流会を実施しています。市民活動に必要なチラシ印刷への協力や花苗の提供といったそれぞれの企業の特徴を生かした連携と、交流会独自の美化活動などを実施しています。

当財団としては市民の方々と企業をつなぐ役割を果たしていくつもりです。

それでは次に、まち育てを進めていくために必要な事柄を順次述べていきます。

## 2 ビジョンの必要性

どんなまちに住みたいのか、何のために活動するのか、こうした素朴な疑問を始めの段階から整理しておくことが大変重要だと思います。

皆さんボランティアでの活動ですから何のためにやっているのか、これをするによってどんなまちになっていくのかを言葉やイラストなどで整理し、皆で共有することが当初から必要となります。

勿論活動をして行くにつれ多少の変化は生じますので柔軟性はあっていいと思いますが、活動が深まれば様々な課題、仲間の間での意見の相違が起こります。そうした時に活動の原点となるビジョンに立ち返ることによってこうした課題を乗り越えることができると考えます。

ビジョンこそ活動の原点・個人個人のモチベーションを維持するものだと思いますので大変重要です。

## 3 ヒト・モノ・カネ

どんな事業でもヒト・モノ・カネをマネジメントすることが重要と言われますが、まち育て事業でも同様3要素がうまく機能しないと、持続可能な

活動は困難と考えられますので、そのことについて触れたいと思います。

## (1) ヒト

まず活動をする担い手発掘と育成が必要となりますが、更に活動がマンネリに陥らず、質の高い活動を維持するために、支援する側も常にその方法を担い手とともに検討し実施してゆく必要があります。したがって支援する側の人材育成も必須と考えます。

前述した3つのモデル事業の概要の項では、特にヒトの要素を中心に記しています。

## (2) モノ

活動には様々なモノが必要となります。小は美化活動の際の移植コテから大は肥料を運搬する軽トラまで、またイベントに使うPAやいすなど様々なモノを準備しなければなりません。これらの多くは現在会員所有のものを借用しております。持続可能な仕組みとするためには、ものによっては会員頼りだけでは難しいような気がします。

当財団では次のカネのところで述べますが、こうした経費の一部を負担できるような仕組みを考えております。

また直接的なモノではありませんが、打合せなどを行う居場所の確保も重要な課題です。現在は信用金庫の無料開放会議室や、パンやさんのイートインを借りたり、当財団会議室を開放したりしてしのいでおりますが、公民館など公的施設も開設が期待されています。

## (3) カネ

市民活動にはそれに必要な資金が必要となりますが、活動・プロジェクトにかかる費用と、会を運営するための費用に分かれます。一般的に公共団体などが支援する場合、プロジェクトへの補助の場合が多く、目に見えにくい会の運営費などには支援が難しいことが多いようです。そこで我々の目指す仕組みにはこうした目に見えない費用のねん出も考慮し組み込むこととしました。

以下に概要を述べます。

当財団は、つくば市の市民活動支援制度であるアイラブつくば基金に寄付し、各活動団体はここからプロジェクト資金の一部を確保しています。なお音楽活動など文化振興活動については（公財）つくば文化振興財団への当財団からの

寄付金が活用されています。

また、葛城地区において試行中ですが、活動団体と協働によるまち育て事業を実施しており、当財団からの負担金により会の運営費用の一部を生み出しています。

このように、人の発掘・育成・組織化、日常的な相談、事業資金及び会運営資金の確保など活動全般にわたり、市民活動に同伴しながら課題を見つけその解決の道筋を探りながら持続可能な仕組みづくり構築を目指しております。

## 4 留意点

### (1) まちづくりのビジョン関連

まちづくりのビジョンを明確にし、それを地域で共有化することが必要

まちづくりの目標、目標を達成するための計画を会員で議論し、共有化することにより、目標に向かっていく会の一体感エネルギーが生まれ、また目標を達成した時の充実感が得られ、さらに他者からの理解が深まり自信、誇りにつながると思います。

### (2) 会の運営関連

会には会長、事務局といった一定の組織らしさが必要

役員会での課題提起（議事）、会の進行、議事録作成、活動周知などが適切になされることにより会の運営が円滑になります。活動を持続させるためには一定の決め事が必要であり事務局機能（事務局長、広報担当、会計担当など）は重要です。

ただし過剰な組織化は逆効果。議事録などは簡単な議事概要でよく、詳細にこだわることは無用。会社経営ではありませんのでほどほどに。和気あいあいと楽しく集い語らうのが目的です。

会には一定の社会的認知「ステータス」が必要

活動が地域の人に認知、評価されているということは励みになります。つくば市からの補助を受けることによって「アイラブつくば補助団体」というステータスの持つ意味は思った以上に重要です。

小さな成功体験が会にエネルギーを与える

議論→課題共有→解決策提案→実行→評価→議論というサイクルが短期間に

回転することにより全体にリズムを生み、まちづくりの意味を体験的に共有し力を与えます。

**住民はちょっとでいいから背中を押してほしい**

住民の方々は公共団体の財政状況をよく理解され、金銭的には多くは望んでいません。活動中に生ずるさまざまなことの相談、アドバイスを求めています。ちょっとしたお金と十分なコミュニケーションがあれば、住民活動は持続的に実行されていくと思います。

**活動参加の動機はそれぞれであり個人の意思を最大限尊重する必要がある**

「広報に興味がある」、「力仕事ならできる」、「皆で集まり話をするのが楽しい」――。会員の人たちのつぶやきです。例えば「環境を良くする」という目標のもとに集まりながらも、目標もさることながら自分の得意を生かし、会の活動を支えることに価値を見出しており、こうした視点も住民活動においては重要だと思います。

それぞれが持ち味を生かし、会の活動に、そして地域に貢献していると実感できることが大切です。力仕事が得意な人、チラシ作りが得意な人、話が得意な人それぞれの得意を生かせばいいし、だれもが主役になれるということがこうした活動では重要だと思います。

その上で、持続可能なさらに高次のまちづくりを目指せばいいのではないかと思います。

### (3) 専門家の役割関連

**専門家による講演、講座、アドバイスは効果的**

住民から見れば、専門的な知見を得られ活動の質が高まる、また外部の視点も取り入れているという自負が自信を深めている面があります。専門家から見ればややもすれば独りよがりになりがちな活動を防ぎ、住民の意識向上、スキルアップを図ることにより、より高次のまちづくりが実現できます。また平等である会員間での意見対立により思考停止がまま見られますが、アドバイスによりそうした状況が打破できます。

さらに、住民と行政という、時には対峙する関係にある両者の間に立って、中間支援的な役割を果たし活動を円滑化することなども必要です。こうした住民活動の目指すところは、活動を通してコミュニティを作れるかどうか、そのことによって持続可能なまちづくりができるのかだと思います。

#### (4) 効率よりプロセス重視

参加して何かを仲間と楽しみながら行っていくというプロセスが重要

市民活動は自発的に集まった人が気持ちよく活動をするということが基本であり、また活動を通してコミュニティ作りを目的とする場合が多いと思います。そう考えると会社経営と異なり、効率より、参加することの意義が大変大きなものとなります。従って参加し何かを仲間と楽しみながら行っていくというプロセスが大変重要になると思います。

また結果が良ければ充実感も大きいとは思いますが、結果にあまりにこだわり過ぎると息苦しくなりますので、反省し次の楽しみとするぐらいに考えたほうが良いと思います。

#### (5) むすび

住民活動にはいくつかの種類があり、趣味の会であったり、地縁で結ばれた自治会であったり、地域環境の改善のために集まった会などに分類されると思います。

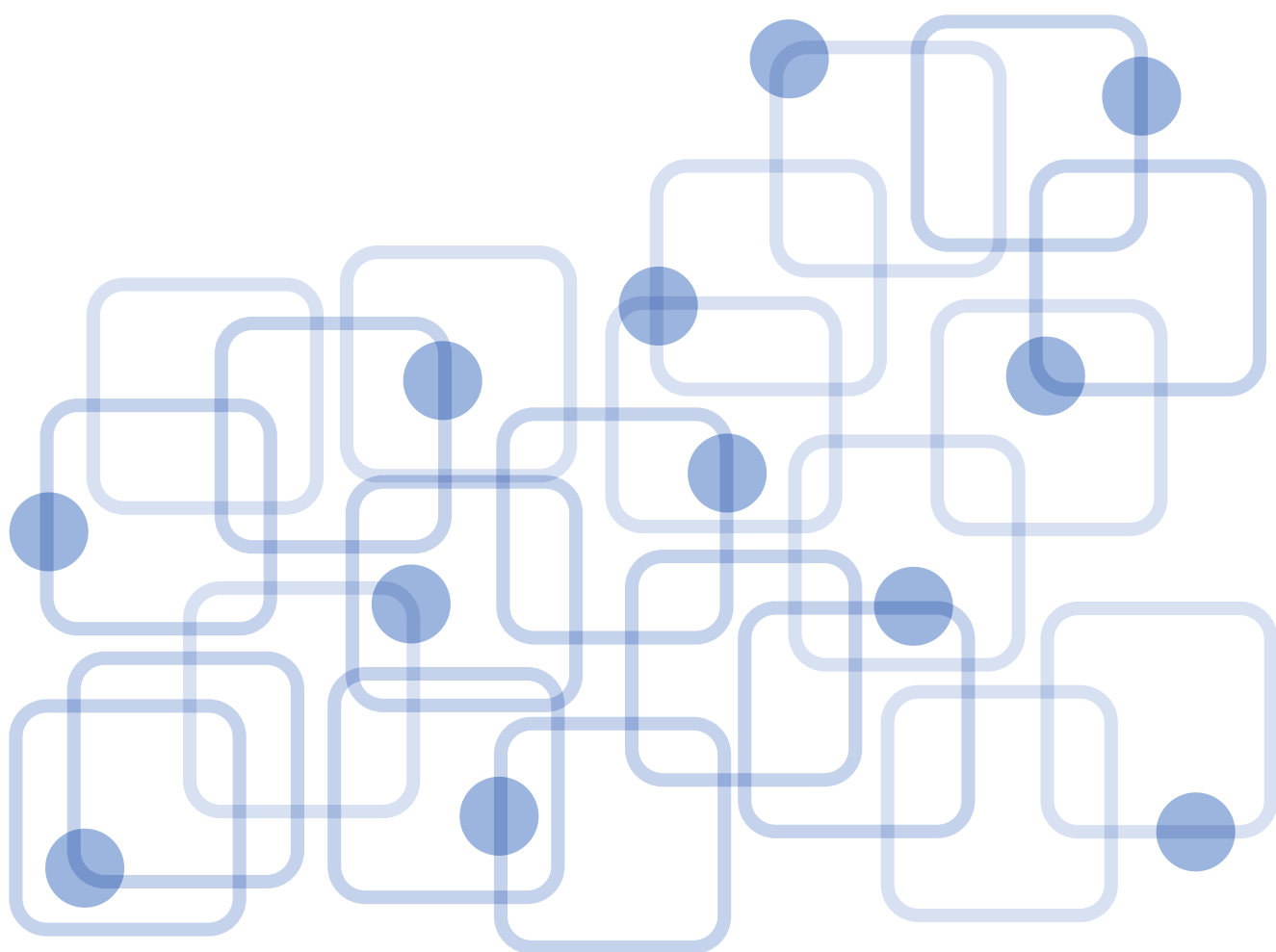
自治会の加入率が低下しコミュニティ形成がうまくいかない、という話をよく聞きます。自分のまちは自分でよくするという住民意識の高まりは、自治会だけでは受け止められなく、「グリーンネックレスの会」のような目的意識が明確な活動団体が必要とされているのだろーと思います。

自治会は、地域において重要な役割を果たしていることも事実ですが、隣近所意識が高いため合意形成が難しく、誰もが納得できる平均的な課題解決に落ち着かざるを得ないようです。それに比し、ある目的のもとに活動する団体は意思決定が早く、即行動が取り柄です。

今後さらに広範囲にまちづくりを進めていくためには、活動団体と自治会との連携の仕方を含め、それぞれの特徴を生かしながら「人の集まり」をいかに糾合しエネルギーを結集できるかにかかっていると思います。

まち育て事業で得られた、ビジョン・会の運営・専門家の役割などにかかわる教訓、ヒントは、恐らくより広範な活動も含め、あらゆる住民活動に共通な事柄のような気がします。より多くの知恵を注入し新たなまちづくりの形が見えてくることを期待したいと思います。

## 第2章 事例紹介





## 1 葛城地区「研究学園グリーンネックレスの会」

一般財団法人つくば都市交通センター

企画業務部まち育て事業チーム チームリーダー 櫻井 豊

現在、当財団が進めている3つのモデル事業の中で、最初に着手したのが葛城地区での取り組みです。

この取り組みの初期の最大の特徴は、ゼロから市民活動団体を組成し、活動を開始したということになります。これらについては昨年度発行の TUTC ライブラリー 44 号で詳細に述べていますので、本稿においては当初の経緯等を簡単に触れながら、それ以降の1年間の動き、今後の課題等についてまとめてまいります。

### (1) 地域の方々とビジョンをつくり、活動団体が誕生

平成 23 年度、当財団はつくば市、UR、市民、地域と連携し、このモデル事業を開始しました。換地処分後のまちづくりを何とかしたいという、つくば市、UR の意向を踏まえたものです。

葛城地区は、TX（つくばエクスプレス）の研究学園駅が最寄駅となる、UR 都市機構が沿線開発の一環として土地区画整理事業により開発した面積 484ha のニュータウン。沿線開発の最大規模を誇り、2.5 万人とする計画人口に対し、現在人口は 1.1 万人を超え、商業施設等の進出も目覚ましいものがあります。

#### ① アンケートでモニターを募集し、勉強会を開始

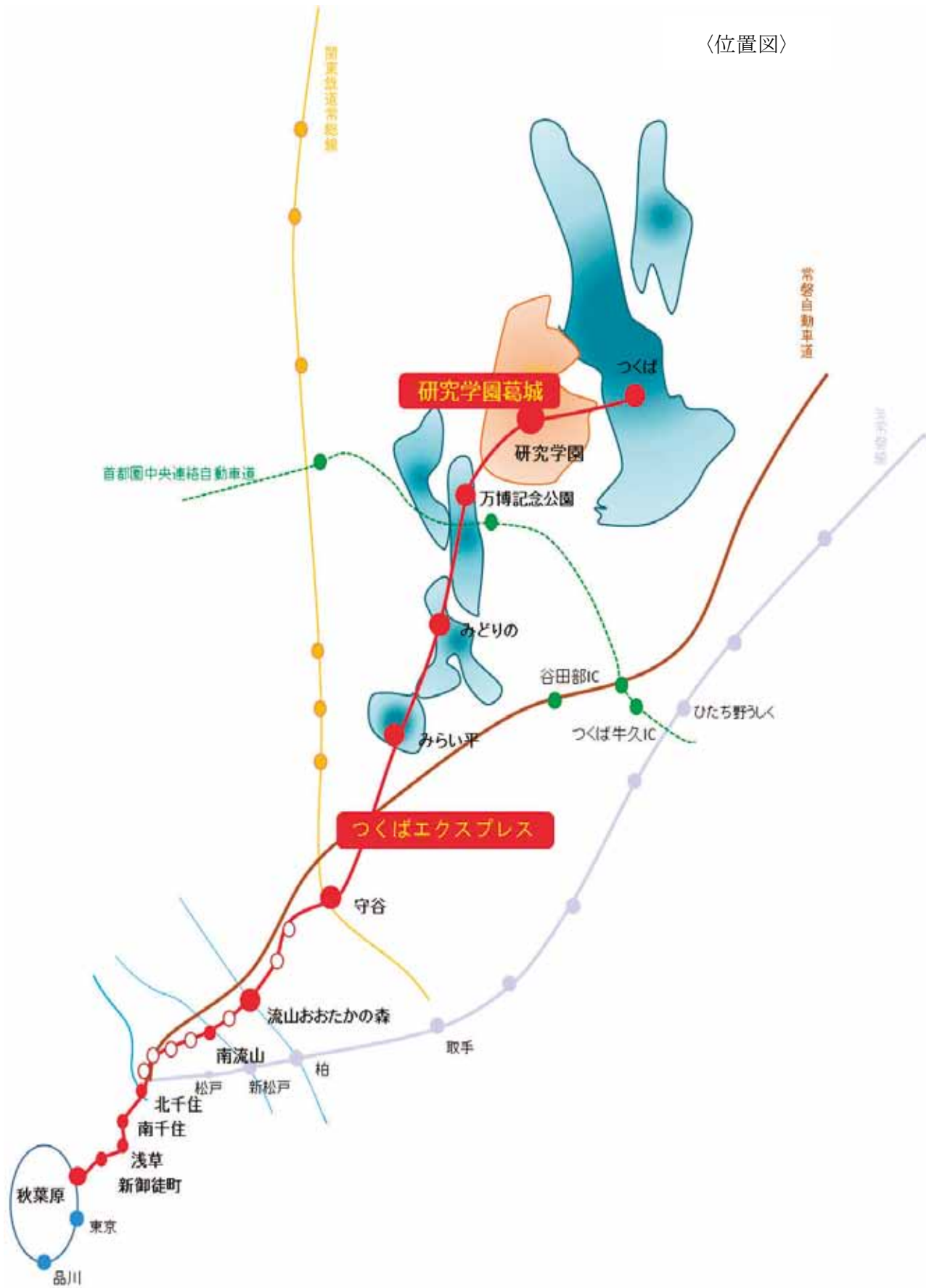
まず、この地域にお住まいの方が地域活動に関してどのような考えを持っていたのか、アンケート調査で把握することから始めました。

平成 24 年 2 月、つくば市長との連名で実施。約 3 千世帯に配布（新規に参入された方は 2,330 世帯、従来からお住まいの方 623 世帯）し、回答総数は 741 世帯（回答率 25%）と、たくさんの方から考えを伺うことができました。

回答の内容で、地域活動等への参加意向については、「広報などを通じて情報のみを知りたい」が4割で最も多く、次いで「セミナーやワークショップなどの地域活動に積極的に参加したい」、「アンケートやインターネットであれば意見を述べたい」が2割前後。「あまり関わりたくない」という考えは7.8%と低い数値でした。

では、地域活動のワークショップやセミナーなどに奮って参加してもらおうと、アンケートの最後でモニター希望者を募ったところ、130 名の方が応じてくれました。

〈位置図〉



このモニターの方々を対象に、まちづくりに関する勉強会を開催することにしました。そのためには専門のノウハウ等が必要ですので、都市計画の専門家や NPO 等とビジョン研究会を設置し、勉強会に対する準備とフィードバックを繰り返しながら、それぞれを連動させて進めていきました。

〈ビジョン研究会の経緯及び内容〉

| 年 月               | ビジョン研究会における検討内容等                                                                                |
|-------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 平成 24 年 5 月 25 日  | <b>葛城ビジョン研究会（プレ研究会）</b> （p.m.第 1 回勉強会）<br>・平成 24 年度の進め方<br>・ビジョンの検討分野、役割分担<br>・活動スケジュール         |
| 平成 24 年 6 月 28 日  | <b>第 1 回葛城ビジョン研究会</b><br>・事例研究（みどり系その 1）…birth より                                               |
| 平成 24 年 7 月 17 日  | <b>第 2 回葛城ビジョン研究会</b> （第 2 回勉強会後）<br>・事例研究（みどり系その 2）…birth より<br>・ビジョンについての検討                   |
| 平成 24 年 8 月 22 日  | <b>第 3 回葛城ビジョン研究会</b><br>・事例研究（センター系）…計画工房より<br>・事例研究（歴史文化系）…TUTC より<br>・第 3 回勉強会（まちあるき）の方法について |
| 平成 24 年 9 月 24 日  | <b>第 4 回葛城ビジョン研究会</b><br>・まちづくりビジョンの骨子（中間骨子）確認<br>・ビジョンの全体フレームの整理、確認<br>・第 3 回勉強会（まちあるき）に関して    |
| 平成 24 年 10 月 30 日 | <b>第 5 回葛城ビジョン研究会</b><br>・シンボルプロジェクトの実現方策について<br>・第 4 回勉強会内容と資料イメージの確認                          |
| 平成 24 年 11 月 19 日 | <b>第 6 回葛城ビジョン研究会</b><br>・第 4 回勉強会の内容説明及び確認（各者より）<br>・第 4 回勉強会の進め方                              |
| 平成 25 年 1 月 22 日  | <b>第 7 回葛城ビジョン研究会</b><br>・第 5 回勉強会の資料確認（各者より）<br>・第 5 回勉強会の進め方<br>・ビジョンの全体フレームの確認               |
| 平成 25 年 2 月 25 日  | <b>第 8 回葛城ビジョン研究会</b><br>・各ワークショップのまとめ<br>・今後の進め方（W.S.及び H25 年度まち育て事業）<br>・H24 年度のまとめ、総括        |

〈みんなで始めるまち育て勉強会の経緯及び内容〉

〈研究会〉

|                                              |                                |                                                                                                                                                                                                            |                            |
|----------------------------------------------|--------------------------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|----------------------------|
| 平成 24 年 5 月 25 日<br>13:30~15:00<br>参加者 33 名  | 第 1 回 勉強会                      | 葛城地区でのまちづくりについて<br>【主な内容】<br>・住みよいまちづくりについて<br>・アンケート報告、事例紹介<br>(越谷レイクタウン、葛城地区の活動)                                                                                                                         | 研 5/25                     |
| 平成 24 年 7 月 17 日<br>14:00~15:30<br>参加者 15 名  | 第 2 回 勉強会                      | 地域資源マップづくり<br>【主な内容】<br>・地域資源マップを見ながらまちづくりへの提案等意見を出し合う。<br>・ワークショップ形式(2 グループ)                                                                                                                              | 研 6/28<br>研 7/17<br>研 8/22 |
| 平成 24 年 10 月 23 日<br>13:15~16:30<br>参加者 26 名 | 第 3 回 勉強会                      | 地域資源まちあるき<br>【主な内容】<br>・モニターから提案いただいた地域資源のうち 13 ヶ所をポイントとし、バス・徒歩にて現地視察。                                                                                                                                     | 研 9/24<br>研 10/30          |
| 平成 24 年 12 月 4 日<br>14:15~16:30<br>参加者 24 名  | 第 4 回 勉強会                      | 地域資源マップの共有<br>【主な内容】<br>・第 3 回勉強会までに得られた地域資源情報、それらに対する意見や提案等を整理した地域資源マップを見ながら、まちづくりビジョンづくりについて説明。<br>・やってみたい活動やプロジェクト等について話し合い。<br>・ワークショップ形式(4 グループ)                                                      | 研 11/19                    |
| 平成 25 年 2 月 8 日<br>14:30~16:30<br>参加者 25 名   | 第 5 回 勉強会                      | 葛城まちづくりビジョン提案・<br>テーマ別ワークショップ<br>【主な内容】<br>・まちづくりビジョン(案)の説明。<br>・第 4 回勉強会後にモニターに対して実施した、興味のあるテーマについてのアンケートに基づき、みどり、タウンセンター、歴史・文化の 3 グループに分け、ワークショップ形式にて話し合い。<br>・それぞれのテーマにおける具体的なシンボルプロジェクトについて意見交換、課題確認等。 | 研 1/22<br>研 2/25           |
| 平成 25 年 3 月<br>(郵送)                          | 勉強会終了のお知らせ・今後のワークショップについての案内通知 |                                                                                                                                                                                                            |                            |

## ②まちづくりビジョンを作って共有

どんなまちづくりを進めていくのか、目標達成のためにどんな計画を立てるのか、目標達成の仕組みは——、みんなでビジョンを共有していくことが必要です。

勉強会と研究会を通して、まずビジョンを完成させました。

### 葛城まちづくりビジョン「グリーンネックレス構想」

葛城地区及びその周辺の地域資源を結ぶと緑のリングのようになるため、そこから、ビジョンが目指す姿として名づけました。

・コアビジョン・まちづくりの目標・目標達成のための計画・目標達成の仕組みからなります。

ビジョンだけだと絵空事になりがちですので、目標をきちんと立て、それを実現するための計画を作り、組織や資金といった下部構造も示そうということで、上記のような4つの構成になりました。

#### 「コアビジョンについて」

ビジョンという言葉はいろいろな意味で使われていますが、ここでは「住みよいまちづくり国際賞『リブコム』」※の理念を準用し次のようにまとめました。「葛城地区の優れた地域資源を評価・維持向上させ、新旧の文化・余暇活動・健康的なライフスタイルなどが持続的に享受できるコミュニティづくりを目指します」

平たく言えば、地域資源を生かし子子孫孫まで気長に住みよいまちづくり・地域社会づくりをしようということになります。

※「リブコム (the International Awards for Liveable Communities)」。景観、歴史・文化、持続可能なコミュニティなど6つの評価項目において、世界各地のまちづくりを評価する、UNEP（国連環境計画）が承認する国際表彰制度

#### 「まちづくりの目標について」

まちづくりの基準として、国際的に評価されてきているリブコムの6つの基準に準じ、本地域の特性を生かしたまちづくり目標を以下のようにわかりやすく設定しました。

- 1 市民協働のまちづくり
- 2 健康的なライフスタイルの実現
- 3 環境配慮への取り組み
- 4 歴史文化資源の評価、活用
- 5 景観の向上
- 6 まちづくりビジョンの共有化

### 「目標を達成するための計画について」

まちづくりは広範囲に渡りますのでそれを整理するためにまず、葛城3原則を作りました。

市民協働が基本ですから何でもできるわけではありませんので、第一原則として「できることから始めよう」とハードルを下げました。さりとて現実重要なテーマがあり、活動団体としての体力に応じてやれることはやっ払いこうということで、第二原則として「新たなテーマを発掘しよう」と将来につなげました。第三原則は「まちづくりビジョンを共有しよう」としました。これは個々のまちづくり活動がややもすると視野狭窄に陥ったり、マンネリ化したりしがちですので、多くの人に常に先を見据え広い視野を持っていってほしいという趣旨で設けました。

勉強会でこうした議論を通じ3つのテーマ「みどりを育み地域に展開」「タウンセンターの活性化」「歴史文化・地域資源の発掘評価」がにじみ出てきました。そしてテーマごとに目標、シンボルプロジェクト、実現シナリオを掲げより実現性の高い計画を作りました。

シンボルプロジェクトについては、各目標を達成するために象徴的で、取り組みやすいプロジェクトを選定し、とにかくまちづくりの実感をつかんでもらうことが狙いです。また、実現シナリオはプロジェクトの実現のための方法論と将来に向けて筋道を簡単に示しました。

### 「目標達成の仕組みについて」

市民協働によるまちづくりを基本とし、それを支援するための仕組みを検討することとしました。

#### 1 市民活動団体の誕生を促します

テーマごとのワークショップを通じて活動団体の誕生を促します。

#### 2 活動団体の自立を支援します

専門家による活動支援等を行い、活動団体の自立を促します。

#### 3 NPO、活動団体代表、地域企業、研究会メンバー等趣旨に賛同する者からなるまちづくりプラットフォームを設置し、次のことを実施—団体間交流、シンボルプロジェクトの促進・支援、新たなテーマの発掘、まちづくりのPR

#### 4 資金等

当財団の公益目的支出、つくば市のまちづくり関連資金、寄付金などを組み合わせて活用していくこととしました。

### ③3つの会が誕生

ビジョンが出来上がったら、次はどのように実行に移していくか、ということになります。

平成 25 年に入ると、ビジョンに掲げたテーマ別に分かれ、シンボルプロジェクトの準備と実施に取りかかりました。そして、その過程を通して、担い手の発掘と会の組織化も図ることになります。誕生したグループは、研究学園グリーンネックレス「緑の会」、「町の会」、「カルチャーの会」の3つです。

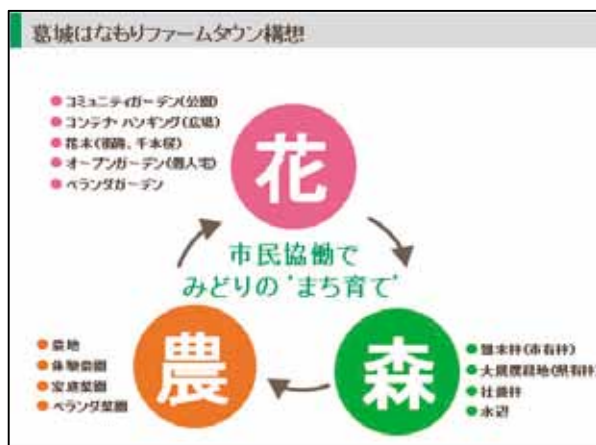
ビジョンに掲げたシンボルプロジェクトはテーマ別の計画に沿って例示したものですので、具体の実施にあたってはいろいろと準備が必要です。どんなことから始めるか、どんなことならできそうか——。まず、ワークショップを開いて、参加者それぞれの考え、思いを共有しました。ワークショップの支援、取りまとめは、ビジョン研究会のメンバーである都市計画等の専門家と当財団がそれぞれ担当しました。

そして、次のように、各会メンバーと話し合いを重ねてプロジェクトが実現していきました。

### ●緑の会「葛城はなもりファームタウン構想」と花壇づくり

構想についてのワークショップ

| ワークショップ<br>みどりいっぱいのもちづくり「花」「森」「農」を育もう！                                                                                                                      | 日 時<br>参加人数                           | 内 容                                            |
|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|---------------------------------------|------------------------------------------------|
|                                                                                                                                                             | 平成 25 年 9 月 7 日（土）<br>14:00～16:30 6 名 | 1. 自己紹介<br>2. まちづくりビジョンについて他<br>3. みどり系の構想について |
| <p>目的：これからグループで取り組んでいく方向性をメンバーで共有</p> <p>成果：葛城はなもりファームタウン構想という大きな方向性をメンバーで共有し、「花」「森」「農」それぞれの観点で今後具体化していきたいことなどを意見交換。まずタウンセンター地区での花壇づくり等からスタートさせることを確認した</p> |                                       |                                                |



## 民有地を利用した花壇づくり活動に向けた実践型ワークショップ

| ワークショップ<br>花壇づくり                                                                       | 日 時<br>参加人数                                       | 内 容                                                    |
|----------------------------------------------------------------------------------------|---------------------------------------------------|--------------------------------------------------------|
|                                                                                        | 第 1 回<br>平成 25 年 10 月 4 日 (金)<br>10:00～12:30 8 名  | 花壇デザインを考えよう<br>1. 花壇の現状についての意見出し<br>2. 花壇デザイン案について意見交換 |
|                                                                                        | 第 2 回<br>平成 25 年 10 月 18 日 (金)<br>10:00～15:00 9 名 | 花壇に花を植えよう<br>1. 花植え手順の確認、指導、作業開始<br>2. 今後のお手入れ等について    |
| 目的：民有地での（ポンパドウル）花壇づくり WS<br>成果：地権者の了承を得て、花植え活動を開始<br>維持管理についてもグループの体制を整えて対応していくことを確認した |                                                   |                                                        |

## 組織強化、活動計画作成等ワークショップ

| ワークショップ<br>活動計画、規約<br>づくり等                                           | 日 時<br>参加人数                                           | 内 容                                                                                |
|----------------------------------------------------------------------|-------------------------------------------------------|------------------------------------------------------------------------------------|
|                                                                      | 平成 25 年 11 月 24 日 (日)<br>9:30～12:00 6 名               | 1. 活動方針等                                                                           |
|                                                                      | タウンとの合同WS<br>平成 25 年 11 月 25 日 (月)<br>9:30～11:45 10 名 | 1. 花壇づくりの振り返り<br>2. タウンセンターのみどり活動をどのように進めていくか 他                                    |
|                                                                      | 平成 26 年 2 月 8 日 (土)<br>10:00～12:00 7 名                | 1. 今までの取組み状況報告<br>(アダプト・ア・ロードへの登録、<br>ウエルカムフラワーcityつくばへの花<br>苗申請など)<br>2. 規約、活動計画等 |
| 目的：平成 25 年度の振り返りと平成 26 年度活動計画作成<br>成果：次年度活動計画及び規約を作成し、グリーンの会として動き出した |                                                       |                                                                                    |

## 公共花壇等の整備に向けたガーデニング講座ワークショップ

| ワークショップ<br>公共花壇等整備                                                                          | 日 時                                   | 内 容                                           |
|---------------------------------------------------------------------------------------------|---------------------------------------|-----------------------------------------------|
|                                                                                             | 平成 26 年 3 月 9 日 (日)<br>9:00～11:00 7 名 | ガーデニングミニ講座<br>1. 公共花壇についての基礎知識<br>2. 公共花壇事例紹介 |
| 目的：公共花壇や街路樹柵への花植えについての基礎知識を学ぶ<br>成果：市役所との調整を行い、助成制度なども勉強して公共花壇や街路樹柵での花植え<br>を実施、維持管理活動を開始した |                                       |                                               |

## ●タウンの会「タウンセンターまちづくり構想」と音楽イベント

### タウンセンターのまちづくり構想作成のためのワークショップ

| タイトル                                                             | 日時、参加人数                          | 内 容                                                                                             |
|------------------------------------------------------------------|----------------------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 第1回<br>ワークショップ                                                   | 平成25年4月22日(月)<br>14:30~16:45 10名 | 1. 自己紹介<br>2. 提案事項に対する現状と課題のチェック<br>3. 意見交換・ワークショップ                                             |
| 第2回<br>ワークショップ                                                   | 平成25年6月7日(金)<br>14:30~16:30 11名  | 1. まち歩きオリエンテーション<br>2. 意見交換・ワークショップ                                                             |
| 第3回<br>ワークショップ                                                   | 平成25年8月7日(水)<br>14:00~16:30 7名   | 1. タウンセンターまちづくり構想作成について<br>2. 今後の活動方針                                                           |
| 樹木調査                                                             | 平成25年9月20日(金)<br>9:30~11:30 5名   | 1. 樹木調査(街路樹の樹種、生育状況等)<br>2. 生育状況が良くない樹木や場所(枯木等)に対する改善策<br>3. 道路・沿道空間の景観向上、街路樹・植栽帯、緑化スペースの管理への助言 |
| 目的：グループとしてこれから取り組んでいく活動について意見交換<br>成果：まち歩きや樹木調査を実施し、まちの現状と課題を再確認 |                                  |                                                                                                 |

### イベントの開催と振り返りワークショップ

| タイトル                                                                                                                                                                   | 日時、参加人数                                  | 内 容                                                                            |
|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|------------------------------------------|--------------------------------------------------------------------------------|
| 第4回<br>ワークショップ                                                                                                                                                         | 平成25年10月2日(水)<br>14:00~16:00 9名          | 1. まちづくり構想ータウンセンター活性化計画(案)ーの概要について<br>2. メンバーより活動報告 他                          |
| イベント第1弾<br>「パンとワインと音楽と」                                                                                                                                                | 平成25年10月22日(火)<br>16:00~18:00<br>参加者計62名 | タウンセンター地区内のボンパドウルとの共催(会場スペース提供、パンの準備)、筑波ハムの協力のもと、つくばの食と音楽のミニコンサートを楽しむ交流イベントを開催 |
| 第5回<br>ワークショップ<br>(グリーンとの合同WS)                                                                                                                                         | 平成25年11月25日(月)<br>9:30~11:45 10名         | 1. ボンパドウルイベント「パンとワインと音楽と」を振り返って<br>2. グリーンとタウンとの連携した活動について 他                   |
| 第6回<br>ワークショップ                                                                                                                                                         | 平成26年1月24日(金)<br>14:00~                  | 1. これからの活動方針、年間計画について<br>2. イベント案の検討 他                                         |
| 第7回<br>ワークショップ                                                                                                                                                         | 平成26年2月13日(木)<br>11:30~                  | 1. 4月イベント「パンとワインと音楽と」の開催概要について<br>2. 開催に向けたスケジュールについて                          |
| 目的：最初の取り組みとして、交流づくり、賑わいづくりイベントを開催することにし、その成功に向けて準備<br>成果：店舗等の理解と協力を得て第1弾イベント「パンとワインと音楽と」を開催これを継続し、定着させていくために、次回開催に向けての準備にも取りかかった<br>グループとしての体制づくりについては、メンバー拡充を含め、今後の課題 |                                          |                                                                                |

## ●カルチャーの会 まち探検と「自慢マップ」づくり

### 自慢マップ作成に向けたワークショップ

| タイトル                                                                                                                                                                | 日 時<br>参加人数                              | 内 容                                                                                                                               |
|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|------------------------------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 第 1 回<br>ワークショップ                                                                                                                                                    | 平成 25 年 3 月 27 日 (水)<br>13:30～15:30 11 名 | 1.グループ化について<br>2.マップのイメージについて 他                                                                                                   |
| 第 2 回<br>ワークショップ                                                                                                                                                    | 平成 25 年 5 月 22 日 (水)<br>13:30～15:30 11 名 | 1.探検隊の報告<br>2.マップの事例紹介<br>3.自慢マップ作成のための検討資料提示<br>(ア)歴史文化・地域資源、おすすめビ<br>ューポイント等の整理、散歩コー<br>スの設定<br>4.つくば市地域まちづくり団体への<br>グループ登録     |
| 第 3 回<br>ワークショップ                                                                                                                                                    | 平成 25 年 7 月 8 日 (月)<br>9:30～12:00 10 名   | 1.活動団体登録完了報告<br>2.自慢マップの第 1 次案の提示と説明<br>3.小冊子の編集について                                                                              |
| 第 4 回<br>ワークショップ                                                                                                                                                    | 平成 25 年 9 月 9 日 (月)<br>9:30～12:00 7 名    | 1.葛城地区のまちづくりパンフレット<br>配布、補足説明<br>2.グループの愛称、名刺等について<br>3.自慢マップの第 2 次案の提示と説明<br>4.散策コースマップについて<br>5.印刷部数、配布方法、費用等<br>6.小冊子の進捗について 他 |
| 第 5 回<br>ワークショップ                                                                                                                                                    | 平成 25 年 10 月 28 日 (月)<br>9:00～12:00 10 名 | 1.市役所にてまちづくり推進団体への<br>まちづくり支援についてのガイダンス<br>2.散策ルートテスト歩行                                                                           |
| 第 6 回<br>ワークショップ                                                                                                                                                    | 平成 26 年 2 月 7 日 (金)<br>10:30～12:00 6 名   | 1.研究学園自慢マップの進捗確認作業<br>2.散策マップコース決定<br>3.印刷に向けたスケジュール確認等                                                                           |
| 第 7 回<br>ワークショップ                                                                                                                                                    | 平成 26 年 3 月 6 日 (木)<br>10:30～12:00 5 名   | 1.研究学園自慢マップ最終校正作業<br>2.配布作業に向けた役割分担等確認                                                                                            |
| <p>目的：シンボルプロジェクト（自慢マップづくり）の推進とともに、<br/>グループとしての体制固めを行う</p> <p>成果：自慢マップと散策ルートマップを作成し、地域に配布<br/>作成にあたっては、つくば市のアイラブつくば制度に申請し、補助金を受けた<br/>つくば市地域まちづくり団体へのグループ登録を行った</p> |                                          |                                                                                                                                   |

## (2) 活動実績を積んで、コミュニティと自信が芽生える

プロジェクトを実施すると、いろいろと反省点も見えてきますが、メンバーはそれ以上に達成感と自信を持たれたようで、また、お互いの交流も深まっていきました。

活動はシンボルプロジェクトをきっかけとして、内容も規模も広がりを見せ始めます。

### ●グリーンの会

グリーンの会は、公共区間や民有地の花壇づくりを精力的に進めます。民有地については、オーナー等と協議し、経費を負担していただき、デザイン企画から植え付け、管理を会で行います。公共空間は駅前の街路樹柵について、つくば市のアダプト制度（公共施設里親制度などとも一般にいられている。対象エリ



アを養子に見立て、市民がわが子のように愛情をもって美化活動等を行い、行政がこれを支援する制度）に申請し管理しています。

会では、このような取り組みを通して駅前を中心に地域を花と緑できれいにしていこうと考えています。平成 26 年春から秋にかけての駅前での水やり活動は 130 回にも及び、この他、地元の畑を借りてのたい肥づくりや一部、花苗栽培も手掛けるなど精力的に活動しています。但し、メンバーだけでは体力的にも限外がありますので、今後は、メンテナンスの実施を含め、多くの賛同者を増やしながらか地域への展開を図っていくことの検討が必要と考えられます。

また、毎冬恒例となっている駅前イルミネーションについて地域の主催者側からお声が掛かり、平成 26 年度から参画するようになりました。このことなどは、日頃の活動が地域から認められてきたということであり、駅前で花壇の水やりをしていると「いつもきれいにしてくれてありがとう」などと声を掛けられ、地元の新聞にも活動が記事として取り上げられました。

### ●タウンの会

タウンの会は、つくばの食と音楽をテーマにしたミニイベント「パンとワインと音楽と」を平成 25 年度から 26 年度にかけて 3 回開催。駅前のパン屋さんを会場に、

お店のご理解とご協力のもと実施しました。

平成 27 年度は、日程調整等の関係で会場を変え（市施設・豊里ゆかりの森）、新しい趣向で開いています。時期は 4 月、琴とピアノのアンサンブルでタイトルは「森の桜と音楽と」。桜酵母を使用した日本酒、桜餅なども用意し、来場者は春を満喫していました。



さらに夏の大型音楽イベントとして平成 26 年度から「トワイライト音楽祭～よろずの灯り～」をスタートさせました。これはタウンの会が中心ですが、グリーン



ネックレスの会全体の取り組みとして地域の NPO 団体や地区協議会等と実行委員会を組織して、駅前広場を会場に開催。ジャズバンドやサクソフォンアンサンブルなどに出演いただき、ステージの横には地域の子供さん達が絵を描いた竹灯籠が並べられます。この地域の夏のイベントとして定着させようと 27 年度もパワーアップして開催しています。規模が大きくなるに

伴い、今後はこれまでの反省から、運営体制を明確にし、早くから準備に入っていくことになります。



## ●カルチャーの会

カルチャーの会は、自慢マップづくりを通して地域の歴史、文化、名所等を調べてきましたが、もっと広く、もっと深掘りして、そして、そのことをより多くの方に知ってもらおうと、地元の方にお話しを伺う集まりを開くことにしました。みなさんに気軽に集まってもらうため、名称は郷土史サロンとしました。

平成 26 年 10 月 30 日に第 1 回開催。最初は市内で公民館講座などを数多く担当している方にご登壇いただき、つくば全体の歴史をおさらいしました。第 2 回は翌 27 年 1 月、この地区の開発エリアの大半を占めていた日本自動車研究所において、

同研究所の歴史についてお聞きするとともに、建設当時の貴重な記録フィルムなども拝見。第3回は3月につくば科学万博記念財団で万博当時の状況を中心にお話を伺いました。

5月に開いた第4回で地元にくからお住まいの方々にお話しただきましたが、今後はこのように地区内の各方面の地元の方のお話しを聞く機会を増やしていきたいと考えています。



### ●全体会

このように各会の活動が活発になってきましたが、お互いの交流は必要ですし、全体として、情報発信をしたり、他団体と連携することなども重要です。平成26年2月に全体会の規約を作成。各会を独立した会とした上で、全体会は「グリーンネックレス構想を実現するために活動する団体の集まり」と位置づけ、各会と全体会の関係を整理しました。

全体会の取り組みは、平成26年4月に地元の団体等と共催でまちづくりセミナーを開催。100名を超える来場者があり、グリーンネックレス構想と各会の活動状況などを発表し、これをきっかけに新たなメンバーの加入などもありました。

そして、セミナーだけではなく、定期的に会の情報を発信していこうと、広報誌を発行していくことにしました。「グリーンネックレス NEWS」と命名し、平成27年2月、創刊。代表のあいさつ、各会の活動状況やメンバー紹介欄などを設けるとともに、まちレポートと題して地域的话题を取り上げたり、地域に関係する者の寄稿を盛り込むなどメンバーの手作りとしては読み物としてかなりの内容になっています。年間4回発行を目指し、5月に第2号、7月に第3号と続きましたが、発行が続くにつれ課題も出てきており、現在はその検討と対策の真っ最中です。

## (3) 会と財団の関係

### ①これまで

当財団として、この事業への取り組みは平成23年度末、つくば市と共同で実施した地域住民の方を対象にしたまちづくりに関するアンケート調査がスタートです。このアンケートを経て、モニターの方々を対象に平成24年度、勉強会を開催。専門家の力を借りて、モニターの方々とまちづくりビジョンをまとめました。

平成25年度はテーマ別にワークショップを開催。専門家と当財団が活動グルー

プの組成とシンボルプロジェクトの実施について、メンバーと一緒に考え、支援しながら一つ一つ手掛けていきました。

そして平成 26 年度になると、誕生したそれぞれのグループは自らプロジェクトを企画、運営するようになり、財団はそれを支援してきました。

このような経緯で取り組んできていますが、課題も当然、出てきています。

○ヒト…より多くの仲間づくりが課題ですが、これを純粋なメンバー拡大としてだけとらえるのではなく、幅広く理解することが必要と思われます。

例えば、中心となって活動を推進したいという人から都合のつく時にちょっとしたボランティア活動をしたいという人まで、また、活動の中でも会計ならできる、力仕事なら任せて、など自分の得意と興味のある分野で一緒にやっていきたいという人もいます。それぞれの方の思いを受け止め、發揮してもらいながら活動を進めることが肝心です。

○モノ…第 1 章でも触れられているように、基本はメンバー所有のものを借用しており、持続可能な仕組みとするためには次項のような各種資金の活用が必要です。

また研究学園駅前周辺は公的な集会場所や気軽に集まることのできる居場所が少ないのが課題の一つと言われています。

そういった状況の中、会議室を無料で使わせてくれたり、チラシ印刷や花苗提供など自らの得意分野を活かして地域活動等に協力してくれる企業等が出てきています。こういうことがさらに広がり、地域が連携していく、ということが重要と考えます。

○カネ…公共団体の補助金や全国規模で公募を行っている財団法人等の補助金制度を活用していくことが一般的であり、グリーンネックレスの会もこれら制度を活用しています。

当財団は、地域の活動団体等の地域貢献活動が円滑に進むよう、つくば市のアイラブつくばまちづくりの制度と公益財団法人つくば文化振興財団の芸術文化活動支援事業に対して特定寄附を行っています。

但し、一般的に補助金は直接的なプロジェクトに対して補助するものが多く、会の運営費への補助は厳しいのが現状です。

## ②新たな関係性の構築を目指す協働事業

以上のような課題を踏まえ、グリーンネックレスの会と当財団は平成 27 年度、新たな関係性構築に向けた取り組みを開始しました。

当財団の取り組むまち育て事業は市民活動のまちづくりを支援していくことであり、そのためには持続可能な仕組みづくりについて絶えず検討していかなければなりません。持続可能な仕組みは、繰り返しになりますが、ヒト・モノ・カネをマネージメントすることが重要です。

そこで当財団はこの課題解決に向け協働で事業を行い、会との新たな関係性の構築を目指すことにしました。会にとって安定的資金の確保と自立の促進を図るとともに、当財団としても会の持つ地域のネットワークや情報を活用していくことができる、パートナーシップの関係です。

『協働事業「平成 27 年度研究学園まち育てプロジェクト」』と称するこの取り組みは、・新たな担い手発掘 ・スキルアップ ・新たなテーマ発掘——を目的に、対等な関係で事業を進めていきます。具体的には、企画、分析を両者で行い、事業の運営主体は会が、それに伴う経費や作業費用の負担は財団が対応することにしていきます。

他地域の事例等も参考にしながら検討を進めてきたこの協働事業の実施を通じて、新たな担い手を発掘するとともに、専門家を招いた講座の開催等でスキルアップを図っていく考えです。そして、資金面の課題に対しては、直接的なプロジェクト経費だけでなく会の行う作業に伴う費用についても財団が会に支出することにより、会は運営資金の一部を確保することができるようになります。

これは現在そして今後にかけてのヒト、モノ、カネの課題に対応する取り組みといえます。状況等に応じて見直しなどしながら進めていくことによって今後の持続可能な仕組みづくりの根幹をなしていくものとなり、この協働事業が現在の一つの到達点ではないかと考えています。

さて、この協働事業について、ここまでは会と財団の関係性を強調して述べてきましたが、このプロジェクトは決して内向きな取り組みではなく、地域にお住まいの方や事業者の方など広く対象に、地域への愛着、誇り、一体感を醸成していき、交流の促進を図っていこうとするものです。

事業は「まち育て講座」と「まち育て調査」。まち育て講座には 2 種類の企画があります。一つは、ガーデニング等の専門家を招き 4 回の講座を開催するもので、広く地域の参加を呼びかけ、まち歩きなどを行いながらまちなかのみどりの現状と課題を把握し、公共空間や民有地でのガーデニングの実践を行おうというもの。も

う一つは、後述するアンケート調査の結果を踏まえて実施する講座となっています。

まち育て調査では、アンケート調査と事例調査を行うことにしています。アンケート調査は、平成 23 年度につくば市と当財団が共同で実施したアンケート調査の第 2 回に位置づけられるもので、葛城の開発エリア及び隣接する既存エリアの方々を対象に実施。地域活動に関する意識や参加状況についてお伺いし、その経年変化も見ていくことにしています。そして本アンケートのもう一つのねらいは、当財団が開催または協力して実施するまち育て講座やイベントについての情報を希望者に発信して新たな仲間づくりを促進することです。現に平成 23 年度の第 1 回アンケートでは 130 名の方にモニター登録していただき、その中からグリーンネックレスの会の主要メンバーが出てきています。今後も数年間隔で継続して実施していくべきものと考えています。

事例調査は、各地の地域活動の状況を実際に現地に赴き学んでいこうとするもので、毎年継続していきながら広範な交流、ネットワークづくりにも役立てていけたらと考えています。

役割分担は、まち育て講座では、講座の企画をまず両方で決めます。そして会は会場準備から当日の運営までを担当し、財団は専門家の講師招聘を担当。広報活動は両方で実施し、会はチラシ配布や近隣への声掛け、財団は施設への案内掲示、ホームページでの呼びかけなどを行います。

アンケート調査では調査内容設計と結果分析は両者で行い、調査票の配布作業が会、回収と集計が財団というようにしました。事例調査は財団が候補地に打診し、会が選定して調査レポートを作成するという分担です。

これらに伴う必要経費は財団が負担するとともに、会が行うこれら項目の作業に伴う費用についても財団が会に支出することにしました。

そして、これら事業の実施を通して得られた成果は、会と財団で共有するものとなります。

次に、今年度の協働事業の進捗について記していきます。

### ③協働事業 まち育て講座「花とみどりのまちなみづくりセミナー」

専門の講師を招聘し開催。4 回の連続講座で、地域の住民や事業者など広く参加を呼びかけました。住民の方の参加は得られましたが、事業者の方々は趣旨はご理解いただけた方が多かったものの、時間の都合等で参加までには至りませんでした。

○第 1 回 平成 27 年 5 月 30 日（土） 9：30～12：00

「みどりのチカラ＝まちの力！」

- ・駅周辺のまち歩き
- ・まち歩き後のアイデアのシェア

○第2回 平成27年6月13日(土) 9:30~12:00

「まちなか花壇のお手入れにトライ！」

- ・ポンパドウル前の花壇、街路樹植栽柵のメンテナンス作業体験
- ・アイデアや感想のシェア

○第3回 平成27年7月26日(日) 9:30~12:00

「どんなまちなみを作ろうか！～アイデアまとめ～」

- ・アイデアのまとめ グループ W.S
- ・モデル花壇デザインのアイデア出し

○第4回 平成27年10月25日(日) 9:30~12:00

「アフターフォロー&メインストリートでコンテナ花壇植栽」

- ・民間地で事業を行っている事業者にも協力してもらい、モデルとして実践

まち歩きをして、参加者からは「もっと木陰がほしい」「雑草が目立つ」などの意見が出され、「季節感」や「風が感じられる」まちになるといいな、という声などが上がりました。

そして、コンテナ花壇づくりについても検討しました。これは、駅前の不動産店がモデル店舗としてご協力いただけることになり、店舗の軒先にコンテナ花壇を設置し、そのデザインを参加者みんなで考えようというもの。

この店舗をきっかけに、徐々に賛同者が増えて、将来、花とみどりでいっぱいになるまちにしていきたいという取り組みです。

コンテナと花木の費用は店舗に負担していただき、デザインと植え付けを専門家の力を借りながら参加者と店舗で決めていきます。水やり等のメンテナンスも店舗にお願いすることになりますが、ローコストローメンテを基本方針として花木の種類を選定しながらも決して見劣りのしない、否、逆に誇れるような花壇づくりにすることがこの取り組みのポイントであり、モデルとして展開しやすい形ではないかと考えています。

この取り組みのスタートは、平成25年10月に実施した地区内のパン屋さんの花壇づくりで、この実績と評価があって今回の講座とモデル店舗の実現につながっています。

さらに、今年の取り組みの最中に、駅前にある全国チェーンのホテルから玄関前の花壇のデザインと植え付けのオファーも飛び込んできました。徐々にではありますが、このモデルが広がる気配を見せ始めています。

さて、今回のモデルコンテナですが、参加者から出されたテーマ設定は以下のようになっています。

「お客様の癒し／前を通る人が振り返る／ウェルカムな雰囲気／品格／

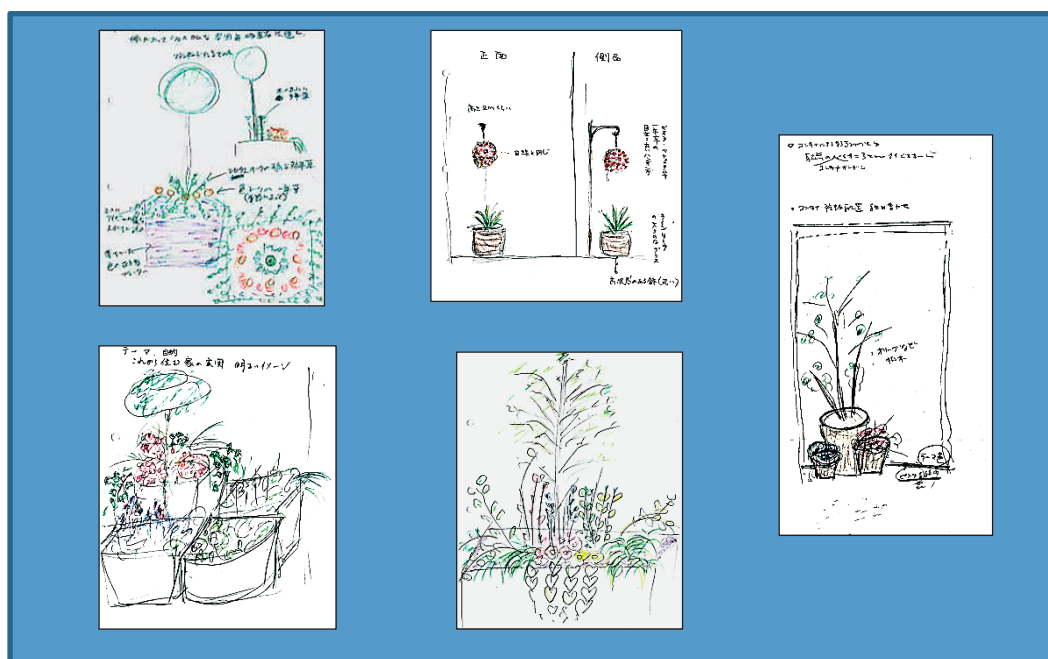
手入れが簡単できれい／駅前のパイオニア／今後の見本…」など

デザイン案も楽しいもの、凝ったものなどアイデア満載です。これをベースに店舗と専門家でコストを踏まえながら実現性を検討してもらい、みんなで植え付けを行って完成させました。

花木は、月桂樹をシンボルツリーに、常緑低木とクリスマスローズ、ゼラニウム、ヘデラなどの常緑多年草、ユーパトリウムなどの宿根草を組み合わせ、一年草としてキンギョソウ、パンジーが彩ります。

四季を通じて楽しめながらも、季節感も出せる。植え付けも正面と裏を最初に決めて、シンボルツリーを中心に、育った時のことを想定しながら全体のプロポーシオン、カラーコーディネートまでも考えて、と様々なことを学びました。

(参加者から出されたデザイン案の一部)



(モデル店舗のコンテナ花壇づくり)



コンテナと苗木、土等を準備

「こんなに入るの？」というほどの花苗

まずは、

シンボルツリーを位置決めして



花苗は…

安心して下さい。はいってます



なかなかのものです

#### ④協働事業 まち育て調査「まち育てアンケート」

平成 27 年 7 月から 8 月にかけて、開発地区とその周辺にお住まいの方々を対象に、地域活動に関する意識や参加状況についてお聞きするアンケート調査を行いました。約 4,500 世帯に配布し、748 件の回答（回答率 16.7%）が得られました。配布については、周辺地区は区会のルートを活用しましたが、開発地区は自治会の構成が低い状況などからグリーンネックレスの会によるポスティングを行いました。

回答者の年齢構成では、男性は前回調査（平成 24 年 2 月）では 60 歳代以上が最も多かったのですが、今回は 30～40 歳代の回答が目立ちます。女性は前回同様、30 歳代が全体の約 4 割を占めています。

以下、各設問についてみていきます。

##### ○地域活動参加の有無の変化

現在お住まいの地区で、なんらかの地域活動（自治会、地域の任意団体等の活動、防災・防犯活動など）に参加したことがあるかの問いについては、「参加したことがある」が 37.8%で、「参加したことがない」40.1%を若干下回っています。

| 【今回】           |     |       | 【前回】 |       |
|----------------|-----|-------|------|-------|
|                | 回答数 | 構成比   | 回答数  | 構成比   |
| 1: 参加したことがある   | 292 | 37.8% | 344  | 44.8% |
| 2: 参加したことがない   | 310 | 40.1% | 243  | 31.6% |
| 3: 活動そのものがない   | 17  | 2.2%  | 30   | 3.9%  |
| 4: 活動そのものを知らない | 136 | 17.6% | 124  | 16.1% |
| 5: 主催したことがある   | 14  | 1.8%  | 13   | 1.7%  |
| 無記             | 4   | 0.5%  | 14   | 1.8%  |

前は、「参加したことがある」が 44.8%と高く、「参加したことがない」の 31.6%を大きく上回っていました。前回の結果を開発地区と周辺地区に分けて見てみると、周辺地区で「ある」の回答は 7 割を超える高い数値を示し、一方、開発地区で「ある」の回答は約 3 割という結果でした。今回は配布数に占める開発地区の比率が人口増に伴い増えたこともあり、そのことが、この逆転現象の一因になっているのではないかと考えられます。

## ○地域活動に参加したことがない方の理由

今回は地域活動に参加したことがない方に焦点を当てて、その要因はどんなところにあるのかを探ることにしました。

最も多かった回答が「興味はあるが参加するきっかけがない」39.6%で、次いで「仕事が忙しく参加できない」27.3%となっています。

|                         | 回答数 | 構成比   |
|-------------------------|-----|-------|
| 1:仕事が忙しく参加できない          | 98  | 27.3% |
| 2:家族の都合(子育て・介護等)で参加できない | 56  | 15.6% |
| 3:興味はあるが参加するきっかけがない     | 142 | 39.6% |
| 4:活動そのものに興味がない          | 63  | 17.5% |

## ○きっかけがない、という具体的な理由

では、「興味はあるが参加するきっかけがない」という方の、その具体的な理由は何なのか、さらに深掘りしてみました。

結果は、「地域にどのような活動団体があるか分からない」が最も多く42.2%、「都合が合えば(曜日、時間帯など)参加したい」が3割弱となっています。

|                                           | 回答数 | 構成比   |
|-------------------------------------------|-----|-------|
| 1: 地域にどのような活動団体があるか<br>分からない              | 97  | 42.2% |
| 2: 誘われたことがないので参加していない                     | 35  | 15.2% |
| 3: 一人で参加することに不安がある。<br>一緒に参加する仲間がいれば参加したい | 22  | 9.6%  |
| 4: 都合が合えば(曜日、時間帯など)参加したい                  | 66  | 28.7% |
| 5: その他                                    | 10  | 4.3%  |

これらのことから、多くの方は地域活動に興味をお持ちで、参加のお考えもあることから、どのように知ってもらって、参加してもらうか、検討を重ねていく必要があります。

また、「誘われたことがないので参加していない」、「一緒に参加する仲間がいれば参加したい」という回答は、上位二つに比べると少数ですが、より多くの方々に

まちづくりに参加してもらうには重要な要素であり、活動団体を知ってもらうのと併せて、参加しやすい状況づくり、呼びかけの工夫なども検討していく必要があります。

#### ○地域活動団体の認識状況

この地区で地域活動をしている団体の認識状況は低く、「知らない」が7割を超えています。

研究学園グリーンネックレスの会についても、74.9%の方が「知らない」と回答し、「知っている」と回答した方は21.9%という結果でした。

それでは、「知っている」と回答した方は、何でもってお知りになったのか。グリーンネックレスの会では広報誌「研究学園グリーンネックレス NEWS」を発行しています。これまで3～4か月に1回、都合3号発行しており、約3千部を公共施設、店舗等のほかメンバーが地区内にポスティングしています。それをご覧になってお知りになったという方が38.6%で最も多く、「駅周辺の花植え（街路樹柵の花植えなど）」26.7%、「トワイライト音楽祭などの音楽イベント」16.9%となっています。

|                            | 回答数 | 構成比   |
|----------------------------|-----|-------|
| 1: 駅周辺の花植え(街路樹柵の花植えなど)     | 63  | 26.7% |
| 2: トワイライト音楽祭などの音楽イベント      | 40  | 16.9% |
| 3: 郷土史サロン                  | 4   | 1.7%  |
| 4: 広報誌「研究学園グリーンネックレス NEWS」 | 91  | 38.6% |
| 5: その他                     | 29  | 12.3% |
| 無記                         | 9   | 3.8%  |

## ○関心のあるまちづくりのテーマについて

実際に参加してみたいテーマについては、「まちの賑わいづくり（音楽イベントなど）」26.3%、「美しいまちなみづくり（花植えやお掃除など）」25.8%と、これらに関心が高いことが分かりました。

|                                            | 回答数 | 構成比   |
|--------------------------------------------|-----|-------|
| <b>1: 美しいまちなみづくり</b><br>(花植えやお掃除など)        | 297 | 25.8% |
| <b>2: 美しい里山づくり</b><br>(森のお手入れ、植樹など)        | 173 | 15.0% |
| <b>3: まちの賑わいづくり</b><br>(音楽イベントなど)          | 302 | 26.3% |
| <b>4: 親しみのあるまちづくり</b><br>(通りの愛称検討など)       | 84  | 7.3%  |
| <b>5: 地域を知る、調べる</b><br>(郷土史サロンの開催、マップ作りなど) | 129 | 11.2% |
| <b>6: その他</b>                              | 76  | 6.6%  |
| <b>無記</b>                                  | 89  | 7.7%  |

## 第2回葛城・研究学園地区まち育てアンケート調査報告(平成27年)

## 1) つくば市と共同にて調査を実施

葛城・研究学園地区にお住まいの方々に、地域活動に関する意識や参加状況についての調査を行う。  
平成24年2月に実施したアンケートの2回目となる。1回目を機に醸成された市民活動団体のグリーン  
ネックレスの会と協働して実施した。

## 2) 調査期間、と回答状況

イ) 平成27年7月より配布開始し、回答回収を同年9月に完了した。

|    |      |        |                |      |            |        |
|----|------|--------|----------------|------|------------|--------|
| ロ) | 配布総数 | 4,481件 | (1) 区会ルートによる配布 | 451件 | (2) ポスティング | 4,030件 |
| ハ) | 回答総数 | 748    | 件              | 回答率  | 16.7%      |        |

## 3) 調査結果

～地域活動について～

## ① 現在お住まいの地区で、なんらかの地域活動に参加したことがありますか？

|              | 回答数 | 構成比   |                | 回答数 | 構成比   |
|--------------|-----|-------|----------------|-----|-------|
| 1: 参加したことがある | 292 | 37.8% | 4: 活動そのものを知らない | 136 | 17.6% |
| 2: 参加したことがない | 310 | 40.1% | 5: 主催したことがある   | 14  | 1.8%  |
| 3: 活動そのものがない | 17  | 2.2%  | 無記             | 4   | 0.5%  |

## ② 「2: 参加したことがない」と答えた方にお聞きます。その理由は何ですか？

|                          | 回答数 | 構成比   |
|--------------------------|-----|-------|
| 1: 仕事が忙しく参加できない          | 98  | 27.3% |
| 2: 家族の都合(子育て・介護等)で参加できない | 56  | 15.6% |
| 3: 興味はあるが参加するきっかけがない     | 142 | 39.6% |
| 4: 活動そのものに興味がない          | 63  | 17.5% |

## ③ 「3: 興味はあるが参加するきっかけがない」と答えた方にお聞きます。

|                                       | 回答数 | 構成比   |
|---------------------------------------|-----|-------|
| 1: 地域にどのような活動団体があるか分からない              | 97  | 42.2% |
| 2: 誘われたことがないので参加していない                 | 35  | 15.2% |
| 3: 一人で参加することに不安がある。一緒に参加する仲間がいれば参加したい | 22  | 9.6%  |
| 4: 都合が合えば(曜日、時間帯など)参加したい              | 66  | 28.7% |
| 5: その他                                | 10  | 4.3%  |

～当地区で地域活動をしている団体について～

## ④ この地区で地域活動をしている団体をご存知ですか？

|           | 回答数 | 構成比   |         | 回答数 | 構成比   |
|-----------|-----|-------|---------|-----|-------|
| 1: 知っている  | 127 | 17.0% | 3: 知らない | 557 | 74.5% |
| 2: 入会している | 54  | 7.2%  | 無記      | 10  | 1.3%  |

## ⑤ 「研究学園グリーンネックレスの会」をご存知ですか？

|           | 回答数 | 構成比   |         | 回答数 | 構成比   |
|-----------|-----|-------|---------|-----|-------|
| 1: 知っている  | 164 | 21.9% | 3: 知らない | 560 | 74.9% |
| 2: 入会している | 12  | 1.6%  | 無記      | 12  | 1.6%  |

## ⑥ 「研究学園グリーンネックレスの会」をお知りになったきっかけは何ですか？

|                           | 回答数 | 構成比   |
|---------------------------|-----|-------|
| 1: 駅周辺の花植え(街路樹柵の花植えなど)    | 63  | 26.7% |
| 2: トワイライト音楽祭などの音楽イベント     | 40  | 16.9% |
| 3: 郷土史サロン                 | 4   | 1.7%  |
| 4: 広報誌「研究学園グリーンネックレスNEWS」 | 91  | 38.6% |
| 5: その他                    | 29  | 12.3% |
| 無記                        | 9   | 3.8%  |

～情報の受信希望～

## ⑦ 今後、葛城・研究学園地区で一般財団法人つくば都市交通センターが開催、または協力して実施するまち育て講座やワークショップ、セミナー、イベントなどについての情報をご連絡させていただいてもよろしいでしょうか？

|    | 回答数 | 構成比   |     | 回答数 | 構成比   |     | 回答数 | 構成比   |
|----|-----|-------|-----|-----|-------|-----|-----|-------|
| はい | 222 | 29.7% | いいえ | 400 | 53.5% | 無記入 | 126 | 16.8% |

## 葛城・研究学園地区まち育てアンケート調査報告(平成24年)

## 1) つくば市と共同にて調査を実施

TX沿線に出来た新しいまちである葛城・研究学園地区が、豊かで暮らしやすい魅力あるまちとして育っていくための支援をするため、同地区に住まわれている方々の、地域活動に関する意識調査をアンケート形式にて実施した。

## 2) 調査日と対象地区

イ) 調査、配布日 = 平成24年2月

ロ) 配布総数 2953件

(1) 在来の居住者 623件

つくば市の区会ルートによる配布

(2) 新規の居住者 2330件

ポスティング

ハ) 回答総数 741件 回答率 25.0%

## 3) 調査結果

～地域活動について～

## ① 現在お住まいの地区で、なんらかの地域活動に参加したことがありますか？

|              | 回答数 | 構成比   |                | 回答数 | 構成比   |
|--------------|-----|-------|----------------|-----|-------|
| 1: 参加したことがある | 344 | 44.8% | 4: 活動そのものを知らない | 124 | 16.1% |
| 2: 参加したことがない | 243 | 31.6% | 5: 主催したことがある   | 13  | 1.7%  |
| 3: 活動そのものがない | 30  | 3.9%  | 無記             | 14  | 1.8%  |

## ② 今後、地域活動等があった場合、参加したいと思いますか？

|     | 1: セミ<br>ナーや<br>ワーク<br>ショップな<br>どの地域<br>活動に積<br>極的に参<br>加したい。 | 2: セミ<br>ナーや<br>ワーク<br>ショップな<br>どの地域<br>活動に発<br>起人として<br>自ら立ち<br>上げたい。 | 3: アン<br>ケートやイ<br>ンターネッ<br>トであれば<br>意見を述<br>べたい。 | 4: 広報<br>などを通じ<br>て情報の<br>みを知りたい。 | 5: あまり<br>関わりたく<br>ない。 | 6: その<br>他<br>無記入 |
|-----|---------------------------------------------------------------|------------------------------------------------------------------------|--------------------------------------------------|-----------------------------------|------------------------|-------------------|
| 回答数 | 175                                                           | 11                                                                     | 154                                              | 319                               | 61                     | 65                |
| 構成比 | 22.3%                                                         | 1.4%                                                                   | 19.6%                                            | 40.6%                             | 7.8%                   | 8.3%              |

～モニター募集～

## ③ 今後、葛城・研究学園地区での地域活動のワークショップやセミナーなどの案内をさせていただくモニターを募集しています。

| 総数     | はい    | いいえ   |
|--------|-------|-------|
| 741    | 130   | 611   |
| 100.0% | 17.5% | 82.5% |

#### (4) これまでに乗り越えてきた課題と、今、直面している課題

##### ①これまでの課題

これまでに出てきた課題は、前述したようなヒト・モノ・カネそれぞれに関連してあります。

○何か地域活動をしてみたい、住みよいまちにするために、まずどうしたらいいのか

…平成 24 年のアンケートをきっかけに勉強会を開催。座学だけでなく、みんなでまち歩きをしながら地域資源と課題を見つけ、どうしていくかを話し合いました。そして、まちの将来像、まちづくりビジョン「グリーンネックレス構想」を専門家と一緒に作り、共有し、活動に入っていました。

○スキルアップを図りたい

…外部から専門家を呼んで、講座、ワークショップを開催。そして、実際の花壇づくりや郷土史発掘などにつなげていきました。

仲間の発掘、育成と併せ、今後も継続してスキルアップは必要です。

○もっと仲間を増やしたい

…平成 26 年 4 月、多くの住民の方々等の参加のもとセミナーを開催。広くグリーンネックレスのことを知ってもらい、新たなメンバーも入ってきました。まだまだメンバー拡充は必要で、日々の活動を通して、仲間づくりをしていかなければなりません。

○資金

…行政等の各種補助、地域の協賛、協働事業による当財団の経費負担など。

会は、会が自ら実施する特定のイベント、活動などに対しては、つくば市のアイラブつくばやつくば文化振興財団の支援、地域等からの協賛金を活用しています。そして、当財団はつくば市や振興財団のこれらの制度に対して特定寄附を行っています。

一方、会と財団の協働事業「まち育てプロジェクト」は、「担い手の発掘と育成」、「担い手のスキルアップ」、「新たなテーマの発掘」——を目的に掲げ、この目的の達成に向けて協働で事業を進めるものであり、財団はこれに関する事業費を負担することにしています。

これらのことから、イベント、活動などで結果を出すために必要な経費（例えば、マップづくりの印刷費、音楽イベント開催費、花壇づくりの花苗代など）については行政等の資金を活用し、将来に向けての仲間づくりや育成、新たなテーマ発掘など持続可能な仕組みづくりに資するものについては協働事業として当財団が事業費を負担していくということになります。

## ②「グリーンネックレス NEWS」発行をめぐる課題

前述した広報誌「研究学園グリーンネックレス NEWS」については、平成 27 年 2 月に創刊され、これまでに 3 号まで発行されてきました。会の広報委員会が編集し発行していますが、実質的には取材から記事作成、編集まで、委員会をリードする一人の者がそのほとんどを切り盛りしています。

発行部数は約 3,500 で、公共機関や地区内の事業所等に置かせてもらっているほか、地区内のお宅へのポスティングも行っています。このポスティングは、多くのメンバーに協力してもらって実施しているのですが、この負担が大きいという声が多く聞こえてくるようになりました。

また、編集方針についても意見がかみ合わないことが目立つようになり、校正は多くの者の目を通して、ということで何度もチェックをするのですが、これもメンバーにとっては大変な作業になってきてしまいました。

そもそも発行の目的は、メンバーの拡大・認知度の向上を目指した広報活動の充実としており、そうであるならブログ等の活用でいいのでは、という考えもあります。

サイズは A3 を二つ折りにした（A4 の 4 頁）もので、会の活動の PR・募集のほか、まちづくりの動き、地区に関連する人の寄稿文などで構成されていますが、もっと記事を絞ってイベント等の開催前にタイムリーに発行すべき、という意見も出されました。

そして、現在は今年夏から秋にかけての役員会で何度も議論し、A4 サイズでイベントや会の紹介をタイムリーに発行していくことが決まり、配布範囲も無理をせず、出来る範囲でポスティングや施設等への配備をしていくことになりました。

これらの経緯を振り返ってみますと、広報誌の必要性については概ね合意されているという土壌はあるのですが、労をいとわず地区のまちづくりの動きなども情報収集しながら部数も出来るだけ多く発行したいという思いと、そこまでやるのはどうかという思いの温度差が大きいように思われます。

当財団のまち育て事業は、市民活動のまちづくりを支援していくということであり、市民活動には一人ひとりがいろいろな思いで参加しています。そうした思いを出来るだけ汲み取ることも市民活動の一つの意義であると考えられます。

グリーンネックレス NEWS については会の議論により一つの結論を得、当財団としてもこの議論を通じていろいろなことを学びました。その中でも現在、特に財団が考えていることは、これまで広報誌については発行目的を会の活動の PR を主

に検討してきたのですが、今後の住民の増加や様々なまちづくりの可能性を考える  
と会の活動にとらわれることなく、もっと広くまちづくりを考え仲間を増やしてい  
く「戦略的ツール」として位置づけてもいいのではないかとということです。

今回のアンケートでも、会のことを知ったきっかけで最も多かったのがグリーン  
ネックレス NEWS です。新しく決まった NEWS とともに、地域のまちづくり広報  
についてもあらためて検討する必要があると思われます。これまで広報誌づくりを  
中心となって進めてきたメンバーの考えるような、会の活動のほか、まちづくりの  
動き、郷土史サロンを機にカルチャーの会メンバーがまとめている地域の歴史のこ  
と、また、この地区で当財団等が関わっている大規模緑地での活動、企業交流のこ  
となど、まさに「戦略的ツール」になり得るものであり、当財団としては新たな協  
働事業の一つとして考えていく予定です。

これまで広報誌づくりを中心となって進めてきたメンバーは、「なかなかみなさ  
んの理解を得ることが出来なかった」と話しています。一人ひとりの思いはそれぞ  
れであり、それぞれがみなさんからの理解を得ようと努めるとともに、一人ひとり  
は他の人の思いにも出来る範囲で協力していくということが必要だと思います。グ  
リーンネックレスの会は持続的なコミュニティづくりが目標であり、この原点に立  
ち戻るいい機会になったともいえます。



### ③全体の会の分かりにくさと、第四の会「アートの会」の誕生

平成27年、2回目となったトワイライト音楽祭。成功裏に終了しましたが、これからの運営体制などについて課題が出ました。

トワイライト音楽祭は、グリーンネックレスの会が中心となり、地域のNPO団体や地区協議会、地元住民等と実行委員会を組織して開催していました。

ところで、全体のグリーンネックレスの会と各会の関係ですが、全体の会の規約では「まちづくりビジョン グリーンネックレス構想を実現するために活動する団体の集まり」と定め、「目的に賛同し本会が了承した団体」で構成されています。グリーンの会、タウンの会、カルチャーの会はそれぞれの活動について自ら決めて実行していき、共通での取り組みが必要なグリーンネックレスNEWSや市社会福祉協議会のボランティアフェスタ参加などは全体の会で決定して取り組んでいくことにしています。

トワイライト音楽祭も全体の取り組みとして位置づけていましたが、このことが、外部の団体からは非常に分かりにくい構造に写っているようです。というのは、全体の会専属で動く事務局メンバーというのは存在せず、各会のメンバーが兼務している状態だからです。

トワイライト音楽祭のように、ある程度の規模のイベントになりますと、多くのメンバーの協力体制が必要になります。各会の代表は、それぞれ各会に持ち帰って参加可能メンバーを集めたり、自分の会の活動との日程調整などをしなければなりませんので、全体の役員会の中でスパッと決めることができません。そのような状況の中で、タウンの会が外部との窓口になっていたというようなことが混乱の主だった要因のようです。

そこで、タウンの会メンバーで、音楽イベントを中心となって進めてきたメンバーから新たな提案がありました。音楽イベント等を中心に進める会を新たに設け、そこがトワイライト音楽祭やその他の音楽イベント等を主催し、内容を決め、その会の呼びかけにより、他の各会や地域の団体は協力・協賛するという形をとる、というものです。

提案は了承され、提案者がその会の代表となりました。四つ目となった会の名称は「アートの会」。もちろん音楽祭などではこれまでどおり他の会のメンバーの協力を得ながら実行していきませんが、進めていくのはこの会に一元化され、対外的にもアートの会が前面に立って交渉等を行っていくことになりました。

なお、アートの会では、ミニ音楽イベントも充実させていく考えで、現在、「つくばママコン」を継続開催中です。小さなお子様連れで、プロの演奏家の音楽を気兼ねなく楽しみ、お母さんたちの交流も図れる「ママのためのコンサート」。平成 27 年度内に 4 回開催し、コンサートの他、絵本の読み聞かせや自力整体などもプログラムに組み込んでいます。毎回好評で、リピーターと口コミですぐに予約が埋まってしまう。



#### ④協働事業の、もう一つのまち育て講座の見直し

今回のアンケートで、地域活動に参加したことがない4割の回答者のうち、最も多かった理由が「興味はあるが参加するきっかけがない」というもの。

そして、「きっかけがない」という具体的理由の1番は「地域にどのような活動団体があるか分からない」から。

それでは、きっかけづくりとして、興味のある方にご案内して、まちづくりに関する交流会を開こうということになりました。協働事業のまち育て講座の一つとして開催するものですが、堅苦しくならないよう「気軽に、楽しく、できることから」として、タイトルも「研究学園まち育てカフェ」としました。

交流会は、平成27年10月から12月にかけて、月1回ペースで計3回開催することにしました。1回目は、アンケート結果報告とグリーンネックレスの会の活動紹介の後、「あなたが住みたいまちって、どんなまち？」と題して、全員でこの地区のいいところ、ちょっと残念なところなどを話し合います。これをまとめて第2回は、「私たちにできそうなまちづくりについて考えてみよう」として、自分たちでやってみたいこと、やれそうなことなどのアイデア出しをします。第3回は、それまでの2回の内容の進展具合を踏まえて、ということにしました。まち育て講座の目的は、担い手の発掘と育成、新たなテーマの発掘ということですので、この交流会をきっかけに新たな仲間の拡大と、新しく取り組むテーマを見つけ出すことまでいければ、という考えで準備しました。

会場は、地区内の信用金庫の会議室。地域の会合などで無料で使用することができ、週末も使用が可能です。グリーンネックレスの会もいつも使わせていただいております。会場場所のあまり多くない当地区においては貴重な場所です。

今回のアンケートには、今後、葛城地区で当財団が開催、協力して実施する講座、セミナーなどについての連絡希望者は222名にものぼりました。ちなみに、前回のアンケートでは130名の方がモニターに登録していただいております。この222名の方を中心に、それ以外にも当財団ホームページなどで交流会開催を案内しました。

ところが、参加の申し込みをいただいたのは、6名という状況でした。前回アンケートで130名のモニターを対象に案内した勉強会（平成24年5月から平成25年2月にかけて）では、平均25名前後の参加を得られたので、今回の参加者の少なさは何が要因となっているのか考えなければなりません。

・開催日時の設定

今回アンケート回答者の年齢別ボリュームゾーンは前回とほぼ同じような傾向にあり、多いのは30歳代から40歳代で、特に30歳代女性の割合が目立って高い状況です。

【平成27年アンケート 回答者の年齢別内訳】

|       | 男性        |       | 女性  |       |
|-------|-----------|-------|-----|-------|
|       | 回答数       | 構成比   | 回答数 | 構成比   |
| 748   | 315       |       | 387 |       |
| 20歳未満 | 1         | 0.1%  | 1   | 0.1%  |
| 20歳代  | 15        | 2.0%  | 40  | 5.3%  |
| 30歳代  | 97        | 13.0% | 168 | 22.5% |
| 40歳代  | 80        | 10.7% | 96  | 12.8% |
| 50歳代  | 51        | 6.8%  | 33  | 4.4%  |
| 60歳代  | 37        | 4.9%  | 30  | 4.0%  |
| 70歳代～ | 30        | 4.0%  | 14  | 1.9%  |
| 無記入   | 55 (7.4%) |       |     |       |

今回の交流会開催においては、この点に着目し、若い世代のまちづくりへの参加も促進させようと考えました(平成24年の勉強会では比較的高齢の方の参加が多い状況でした)。アンケートの自由回答欄には「小さい子供がいるのですが、研究学園駅周辺には図書館、児童館などが無いので、子供も参加できる楽しめる地域活動があったらどんどん参加したいと思っています」、「子育てをしている若い世代が活動できるものを提案、または集めて話し合い、盛り上げていければ」などの意見があります。

こういうことを考慮し、その方々が比較的参加しやすいと思われる休日の昼間に交流会の開催日時を設定しました(平成24年勉強会は平日昼間に開催)。しかし、参加者からお聞きすると、これら子育て世代は、休日はお子さんの習い事など既に予定が入っていることが多いようです。逆に平日はお仕事の関係で難しく、この世代の方々にたくさん集まっていただくというのはなかなか困難なのではないか、ということが考えられます。

また、連続3回開催となると、全部は参加できないので最初から参加を諦める人もいないのか、という指摘もありました。

子育て世代を含む若い世代の方々には、情報発信をし続けながらも参加できる時に参加していただくということを中心に考えていく必要があると思います。

#### ・テーマ設定

前は、まちづくりに関する「勉強会」でしたが、今回は参加者みんなでどんな活動、まちづくりをしたいかなどを語り合う「交流会」としました。

このことが案内された側にとっては、分かりにくい、または、自ら活動しようということにいきなり入っていくのには抵抗がある、などにとらえられたのではないのでしょうか。

案内チラシには、「ママ友が欲しい」、「子供と一緒に参加できる活動ないかなあ」、「おすすめスポットを教え合いたい」などと例示もしたのですが、やはり若い世代の参加は前述したように日程的に、また時間的余裕の点からも厳しかったのではないかと思います。

#### ・地区の変化

前回の参加者にお聞きすると、「その当時（平成 24 年）はこれからこの街がどのようなになっていくのかが分からず、参加していろいろと知りたかった。けれども、今は、まわりに施設も充実してきて生活上のいろいろな選択肢が増えてきたからでは」というような指摘がありました。

さて、これらのことから、今回の交流会は第 1 回の開催において、参加者のみなさんとざっくばらんに話し合い、今後に向けて検討しました。そして 2 回目以降については仕切り直しということで、参加者にご了承をいただいて開催内容、日時を見直すことにしました。

今後も広い世代の方々に参加いただけるよう検討していくことは必要ですが、現在のグリーンネックレスの会のメンバー構成もそうであるように、中心となっているのは、お勤めの定年直後世代ということではないかと思います。そのポスト定年世代を含めた世代への積極的アプローチをしていくことが必要でしょう。

いずれにしろこの問題は、当原稿を作成している間も現在進行形で検討が進められており、会のメンバーとじっくり話し合いながら次の手を考えてまいります。

## (5) まとめ

ここまで経緯と現状を述べてきましたが、そこから、どのように次年度に向けて進めていくのか。グリーンネックレスの会は、各会の活動が活発化しており、新たにアートの会が誕生したように、それぞれの会の独自性がより強まっています。日々の活動を通して内部の結束がより強固になってきている会もあります。素晴らしいことではありますが、反面、他の会との交流が希薄になってきている状況も見受けられます。

財団としては、絶えずこういった変化を見逃さず、適切な支援に結びつけていくことが重要と考えています。

一例として、毎月定例的に開催していた全体の役員会について、全体で取り組む活動が少なくなってきた状況などから見直しの必要性が生じています。しかし、役員会は各会が集まる貴重な機会ですから、これからは今まで以上に交流を深められるような場にしていくことが大事です。そのためには、役員会という名称も含めて、もっと和やかで、いろんな人が楽しく話すことのできる機会に変えていくことをメンバーと一緒に検討していきたいと考えています。

また、各会の会員間においてさえも、交流が希薄になっている問題はあるようです。御多分に洩れずグリーンネックレスの各会もメールを使った連絡が浸透しており、それに伴い顔を合わす機会が減ってきているようです。もっとフェーストゥ フェースで付き合わなければ、という声も聞こえてきます。これまでも実施されてはいますが、懇親会のような機会を増やしていくことも必要かもしれません。

変化ということでは、グリーンネックレスの会を取り巻く環境の変化も注視していかなければなりません。

ベースの部分では、葛城地区は人口の増加、企業等の進出が目覚ましく、それに伴い、新たな仲間候補もたくさんいるはずです。新たな市民活動団体の誕生があるかもしれません。企業との連携の可能性もより高まってきます。さらには、地区内で今後の開校が計画されている小学校、本冊子の次項で述べている葛城地区大規模緑地の里山クラブの動きなどもあります。これらの状況の変化に対しても、広い意味での交流ということになると思いますが、いろいろな形での連携、協力関係の構築など交流のあり方を模索していきたいと考えています。

以前、役員会で議論が行き詰った時に、あるメンバーが「一度、原点に戻ってみましょう」と発言されました。このまちをよくしていくにはどうしたらいいか

とみんなで考え、「葛城地区の優れた地域資源を評価・維持向上させ、新旧の文化・余暇活動・健康的なライフスタイルなどが持続的に享受できるコミュニティづくりを目指します」とコアビジョンを定め、シンボルプロジェクトを決めて「よし動こう」となった原点に時に立ち戻りながら、周りの変化に柔軟に対応していく姿勢が、これからの会の持続、発展により強く求められているように思います。

そのため、平成28年度に向けては、交流を一つのキーワードに、様々な変化に対応していきたいと考えています。

資料①

「森の桜と音楽と」 イベントチラシ

琴とピアノのアンサンブルミニコンサート in ゆかりの森

# 森の桜と音楽と

「パンとワインと音楽と番外編」

4/4(土)  
13:30～15:00  
(受付開始13:10～)

琴とピアノのアンサンブルを  
森の桜とともに楽しみください。

【演奏者】  
ピアノ : 根本マリサ  
琴 : 岩崎瑤子

会場: 豊里ゆかりの森 管理棟ホール  
(駐車場は宿舎あかまつの駐車場をご利用ください。)

料金: 1,000円 (事前申込み 各コース15名)

申込み時にどちらかのコースをお選びください。

★ほんのりコース: さくら酵母を使った地元のお酒  
★ほんわかコース: 地元のお店の桜餅 ※お車を運転される方はこちらのコースをお選びください。  
どちらのコースにも“桜葉入り煎餅”とお茶がついています。

かわいも桜の器付♪ (器はお持ち帰りいただけます)



主催: 研究学園グリーンネックレス タウンの会  
共催: つくば文化振興財団 印刷協力: 理想科学工業株式会社  
お申込み・お問合せ先:  katsuragitown@gmail.com

**トワイライト  
音楽祭 2015**

~よろずの灯り~

入場無料・雨天中止

**8月1日  
14:30 ~ 20:00**

**研究学園駅前広場**

**トワイライト音楽祭 実行委員会**

研究学園グリーンネックレスの会 NPO研究学園・葛城  
研究学園駅センター地区協議会 研究学園商店会 市民有志

後援 つくば市 つくば市教育委員会

協賛 公益財団法人つくば文化振興財団

デザイン setuko kawanami

研究学園グリーンネックレスまちづくり広報誌

# グリーンネックレスNEWS

発行者 研究学園グリーンネックレスの会  
編集者 研究学園グリーンネックレス広報委員会

2015年 7月 第3号





駅前広場を特設ステージに、昨年は延べ600名の来場があり好評でした

## トワイライト音楽祭

8月1日(土)午後 研究学園駅前

よりの灯

真夏の夕暮れを音楽で  
研究学園グリーンネックレスの会は、「トワイライト音楽祭2015」を、8月1日(土)午後2時30分より、研究学園駅前で開催します。

音楽祭は、数百年の万灯と多彩な音楽で、研究学園の人々と街を元気にするお祭りです。

### 一プログラム

- 14:30 短冊にお願い事を書こう
- 16:35 ピアノ・サクソDuo  
+ライブペイント
- 17:00 サクソ四重奏
- 17:30 点灯式
- 17:45 アフリカン・パーカッション
- 18:45 JAZZ Piano trio
- 19:00 ジュニア・ストリング・アンサンブル
- 19:30 抽選会



総合プロデューサー  
ピアニスト根本マリサさん

プログラムは多彩  
つくば市在住の根本マリサさんのプロデュースにより、つくば市出身の5組のアーティストがクラシックからジャズまで演奏します。

### 参加者募集

#### 竹灯ろうワークショップ

日時 7月24日(土)26日  
AM10時~PM4時  
会場 イーアスつくば2階  
センターコート

音楽祭に飾る竹灯ろうに好きな絵や願い事を書いてみましょう。  
竹灯ろうと絵筆は、会場に用意されています。お気軽においでください。

音楽祭のトリを飾るのは、つくば市内の小学生のアンサンブルです。  
飲食店の出店と抽選会  
駅前地区の飲食店による軽食や飲み物の販売も予定されています。  
「抽選会」もありますので、たつぷりと楽しむことが出来ます。  
住民のつながりの場に・・・

『研究学園地区には祭りが無いことから、子供たちに誇れる「故郷の祭り」として開催します。また、祭りを通して住民のコミュニケーションや商店との繋がりも活発になることを願っています』  
山崎誠治音楽祭実行委員長

~ 1 ~

## グリーンネックレスNEWS



つくばちゃんねる blog

研究学園グリーンネックレス・グリーンの会

花壇へ花苗の植付けをしました  
6月6日(土)、前日からの雨もあがり、さわやかな晴天のもと、研究学園駅前の花壇で夏への「衣替え花植え」が行われました。

つくば市の制度「ウエルカム フラワーCITYつくば事業」を活用して支給された花苗及び会員が育てた花苗を植樹升や、ホテルベストランド前の花壇などに植えました。

参加者は全員で、花の配色や草丈の成長等を考え、苗を植える位置を決めました。配置が決まれば、後はおしゃべりしながら手を動かすだけです。始めるときには、苗のポツ



夏は水遣りが大変です・・・  
皆さんも応援してくださいね

トは約350個もあり、数に圧倒されましたが、3時間ほどで花壇ができました。

「皆で協力すると、ひとり分の労働の割に、大きな達成感を得られますね」との感想も寄せられました。

家族で参加しています

会員の中には花好きの息子の付き添いとして入会し、「花のことは何もわからないのですが、楽しく作業ができました。息子と一緒に植えた苗と一緒に植えられたので嬉しいです。自分で種から育て、自分で植えた苗が、これからどのように育っていくのか、息子と楽しみにしています」と笑顔で語ってくれました。



研究学園の城址

研究学園地区の史跡に、戦国時代のもので伝えられている河内城があります。場所は、蓮沼川の東側で、TSUTAYAの北側付近の一角がその辺りです。

今は、民家と畑ですが、お城の防壁の役目をしていた土塁のあとが数十メートルにわたって見られます。掘りの部分はほとんど埋まっています。土塁だと言われなければ判らないのですが、明らかに土塁の姿を残しています。

歴史書(谷田部の歴史)を紐解くと、以下のように記されています。

『貞享(一六八〇年代)の絵図にみえる河内西村から篠村までの地域が河内城と考えられる。河内城は小田氏の与党で、古河公方の旗本柳橋豊前守の娘婿である野中頼左衛門

門尉入道頼奇の居城であった』

同時代に河内城の南側には、神田屋敷と呼ばれる館がありました。

「茨城県遺跡地図平成13年度版」では、字籍にある遺構を「河内城」、宇古屋敷の遺構を「神田屋敷」と分けて登録されています。



カルチャーの会では、郷土史語り起こしのため探検隊をつくり地元の歴史にゆかりのある方々にお話を伺いました。

## 郷土史サロン

研究学園の周辺には、ほかに小野崎城跡もあり、大きな土塁がはつきり判るほど残っています。面野井には、幕末の歴史に名を残した水戸天狗党の若い志士の墓もあります。

このような地元の歴史の跡を見て、学んだりするコミュニティの場が、研究学園「郷土史サロン」です。

## グリーンネックレスNEWS

## 葛城大規模緑地に里山クラブ発足！

研究学園  
まちレポート

TX 研究学園駅から徒歩 20 分のところに、茨城県有地の「葛城大規模緑地」があります。ここは、自然林が多く残り、隣接する民有林と合わせると 24ha もの大きな緑地で、多様な動植物の生息地になっています。この緑地は「地域住民に愛される里山公園」をめざし市民参加型の公園づくりをしていこうと、今計画がされているところです。それに先立ち、「葛城里山クラブ」が発足しました。5 月末には、そのためのキックオフイベントが開催され、親子連れを中心に 50 名近くの方が参加し、緑地の散策や野草を摘んでの天ぷらなどを楽しみました。

これからは、毎月第 2 日曜日にインストラクターと共に「里山散歩」などのイベントを開催します。来春には「マイツリー植樹」などの企画も予定しています。緑地は立ち入りが禁止されていますが、里山クラブでは特別に許可を得て、散策や下草刈などの活動を行っています。

現在「葛城里山クラブ」の会員募集中です。



## 【葛城里山クラブについてのお問い合わせ】

葛城里山クラブ事務局(一般財団法人つくば都市交通センター内)

Mail: machisodate@tutc.or.jp Tel: 029-861-0500

\*「葛城里山クラブ」は、一般財団法人つくば都市センターと特定非営利活動団体つくば緑地フォーラムが、茨城県の委託事業として運営しています。



キックオフイベントに多くの家族が参加しました

## 会員インタビュー

グリーンの会 二木 重光さん

## 入会のきっかけを教えてください

我が家の、芝生だけの殺風景な庭を変えたくて、ガーデニング教室で寄せ植えを学びました。

おかげで、庭も玄関回りも草花で賑やかに飾り立てることが出来たのです。このように自分の住む処が花の香りが溢れる素晴らしい街になるといいなと思っていました。

また、地域に関わることをやりたいとも考えていた時期に、会員募集を知り直ぐ参加しました。

## 会での活動はいかがですか？

サラリーマンで忙しい年代なので、花壇の手入れは週末の都合がつくときに参加しています。



参加するときは、時々子供も一緒に連れて行きます。家で遊ぶことが好きなので、なるべく外に連れ出して、水遊びのつもりで花に水遣りなどを手伝わせています。花を飾るプランターも会員の手作りですが、その作業にもついてきてくれます。会の活動には、家族もついていけるので、子供がいる方も気楽に参加できるのが何よりですね。

会のブログの担当をしています。活動の様子や花と畑、街の話題も載せていきます。ぜひ見てください。会でやりたいことは何ですか？

もっとメンバーが増えて駅前だけでなく、沿道にも花が植えられることを望んでいます。私の故郷、長野県安曇野のように、町全体に花と緑で溢れている風景にしてみたいと、大きな夢を描いています。

更に、この街のコミュニティが発展し、季節ごとに様々なイベントが開かれる街に、そして子供たちが誇れる故郷となるように、力を尽くしていきたいと考えています。

## グリーンネックレスNEWS

研究学園地区は平成17年にTXが開通してからは、目覚ましい発展があります。昨年には、土地区画整理事業が終了しましたが、まだまだ開発の余地があり発展の途上です。特に、研究学園駅前には、駅前の顔となるものが無いことや、駐車スペースの問題など課題は山積です。幸

研究学園駅センター地区協議会は、平成23年春に設立され、同年5月につくば市まちづくりグループに登録されました。目的は、研究学園駅前の活性化や賑わい作りにあります。



会長 高野 勝

研究学園駅センター地区協議会  
研究学園駅前商店会

まちづくりリーダーの提言  
TXで一番の  
素敵な駅前に

コンセプトは「憧れの街」「素敵な駅前」です。そのために地区の住民の皆さんやグリーンネックレス、駅前イルミネーション実行委員会の皆さんと一緒に知恵を絞り、汗を流し合いながら、TX沿線で一番素敵な駅前といわれるような環境づくりに努力を重ねてまいります。

い昨年は駅前地区の商店や事業主の皆さんと研究学園駅前商店会を結成することが出来ました。これを機に協議会・商店会が一緒になって活性化策を行ってまいります。その一つが街コンといわれる若い男女に出会いの場の提供です。すでに「つくコン」として年二回開催しておりますが、毎回千名を超える参加者で大好評です。この街の環境やそれぞれの商店のおもてなしが、若い人たちに共感を与えることが、人気がすたれない理由だと思います。若いお客様の評価をいただきながら、駅前地区の環境や商店会のおもてなしを、更に高めていくことが大事と考えています。

その一つが街コンといわれる若い男女に出会いの場の提供です。すでに「つくコン」として年二回開催しておりますが、毎回千名を超える参加者で大好評です。この街の環境やそれぞれの商店のおもてなしが、若い人たちに共感を与えることが、人気がすたれない理由だと思います。若いお客様の評価をいただきながら、駅前地区の環境や商店会のおもてなしを、更に高めていくことが大事と考えています。

い昨年は駅前地区の商店や事業主の皆さんと研究学園駅前商店会を結成することが出来ました。これを機に協議会・商店会が一緒になって活性化策を行ってまいります。その一つが街コンといわれる若い男女に出会いの場の提供です。すでに「つくコン」として年二回開催しておりますが、毎回千名を超える参加者で大好評です。この街の環境やそれぞれの商店のおもてなしが、若い人たちに共感を与えることが、人気がすたれない理由だと思います。若いお客様の評価をいただきながら、駅前地区の環境や商店会のおもてなしを、更に高めていくことが大事と考えています。

## 会 員 募 集

## タウンの会

音楽会やお祭りなどのイベントのスタッフを求めています  
島田までご連絡ください

mail : katsuragitown@gmail.com  
facebook  
「研究学園グリーンネックレスタウンの会」

## グリーンの会

駅前で花の手入れが出来る方と一緒にやりませんか  
山本までご連絡ください  
mail

yshinji@green.ocn.ne.jp



安福寺山門 カルチャーの会  
桐生顕さんのスケッチ画



常陽銀行

つくば新都市支店

2015.8.4 TUE

OPEN!

より便利に。より身近に。  
この街の未来のために。



## 資料④

「花とみどりのまちなみづくりセミナー」 まち育て講座チラシ

研究学園グリーンネックレス まち育て講座

# 花とみどりで彩る “まちなみ”づくり セミナー

連続3回+1

参加費 無料！  
定員：30名

共催 研究学園グリーンネックレスの会／一般財団法人つくば都市交通センター  
協力 NPO法人 NPO birth／NPO法人 Green Works

この通りを  
花とみどりで  
いっぱいにはしませんか？

【講座内容】  
みどりの力を実感し、自分たちでまちなみをより美しく、心地よい空間にしていきたいための、連続セミナーです。  
こうした、こうなったらいいな、などなどみなさまのご意見をまちづくりにつなげてみませんか？

第1回 5月30日(土) 9:30～12:00 みどりの力＝まちのチカラ！ (＠水戸信用金庫会館2階/駅前周辺)  
第2回 6月13日(土) 9:30～12:00 まちなか花壇のお手入れにトライ！ (＠ボンパドール花壇周辺/水戸信用金庫会館2階予定)  
第3回 7月26日(日) 9:30～12:00 どんなまちなみをつくらうか？～アイデアまとめ～ (＠水戸信用金庫会館2階予定)  
第4回 10月25日(日) 9:30～12:00 アフターフォロー＆メインストリートでコンテナ花壇に挑戦！ (詳細は第1～3回セミナーで)  
※できるだけすべての会にご参加ください。

印刷協力: 理想科学工業株式会社  
PORPHIS EX9050にて印刷しました

## まちなみづくりセミナー 講師紹介

NPO法人 NPO birth 事務局長 佐藤賢美氏  
NPO法人 Greenworks 理事 三浦晋澄氏

1955年10月に、市民協会でコミュニティガーデンとして、研究学園駅地区のパン屋さん「パンパドール」の花壇づくりワークショップを実施。グリーンネックレスの会のクリーンのメンバーを指導し、街頭草を中心とした、ローメンテ、ローコストの花壇づくりを実施した。

## まちなみづくりセミナー 内容

【第1回】みどりの力＝まちのチカラ！  
・まちなみを花とみどりで彩る大切さについて  
・駅周辺のまち歩き  
・まち歩き後のアイデアのシェア

【第2回】まちなか花壇のお手入れにトライ！  
・ボンパドール花壇、新緑花壇のメンテナンス作業体験  
・アイデアや感想のシェア

【第3回】どんなまちなみを作ろうか？～アイデアまとめ  
・アイデアのまとめ グループワーク

【第4回】アフターフォロー＆メインストリートでコンテナ花壇挑戦  
・連続セミナー後、まちなみづくりに関して実際にやってみることも、やり始め  
・民間地で事業を行っている事業者に協力してもらい、モデルとして実施

## ◆申込みフォーム◆

下記内容を添えて、E-Mailでお申込みください。締め切り 5/28(木)

|             |             |
|-------------|-------------|
| お名前         |             |
| ①お名前        |             |
| ②住所         |             |
| ③電話番号       | ④E-Mail(必須) |
| お会社<br>(任意) |             |

⑤参加可能な日に○をつけてください。 ※できるだけ早めにご参加ください。

第1回(5/30) 第2回(6/13) 第3回(7/26) 第4回(10/25)

駐車場について  
いずれの回においても駐車場のご利用はできません。お車で参加の方は、周辺の有料駐車場等をご利用ください。ご理解とご協力の程よろしくお願い致します。

# みんなで始める まち育て

気軽に、楽しく、できることから

**研究学園まち育てカフェ**

3回開催！

場所：水戸信用金庫2階 大会議室  
定員：約30名  
参加費無料 / 事前申込みが必要です

第1回  
10/25(日)  
14:00  
~16:00

第2回  
11/14(土)  
14:00  
~16:00

第3回  
12/12(土)  
14:00  
~16:00

新しいまちで何かしたいけど、どうすればいいの？楽しいことを一緒に始める仲間が欲しい、など、まちのことやまちづくりのことをみんなで集まってカフェ感覚でワイワイと語り合う、「まち育てカフェ」を開催します。  
“まちの未来を語り合いたい”、“ママ友が欲しい”、“子供と一緒に参加できる活動ないかなあ”、“おすすめスポットを教え合いたい！”などなど参加のきっかけは何でも！  
平成24年に立ち上がった地域活動団体「研究学園グリーンネックレス」のメンバーと一緒に交流しながらアイデアトークしましょう！

主催：研究学園グリーンネックレスの会・一般財団法人つくば都市交通センター  
申込み/問合せ：一般財団法人つくば都市交通センター まち育て事業チーム  
Mail: machisodate@tuttc.or.jp



## 2 葛城地区大規模緑地「里山クラブ」

一般財団法人つくば都市交通センター

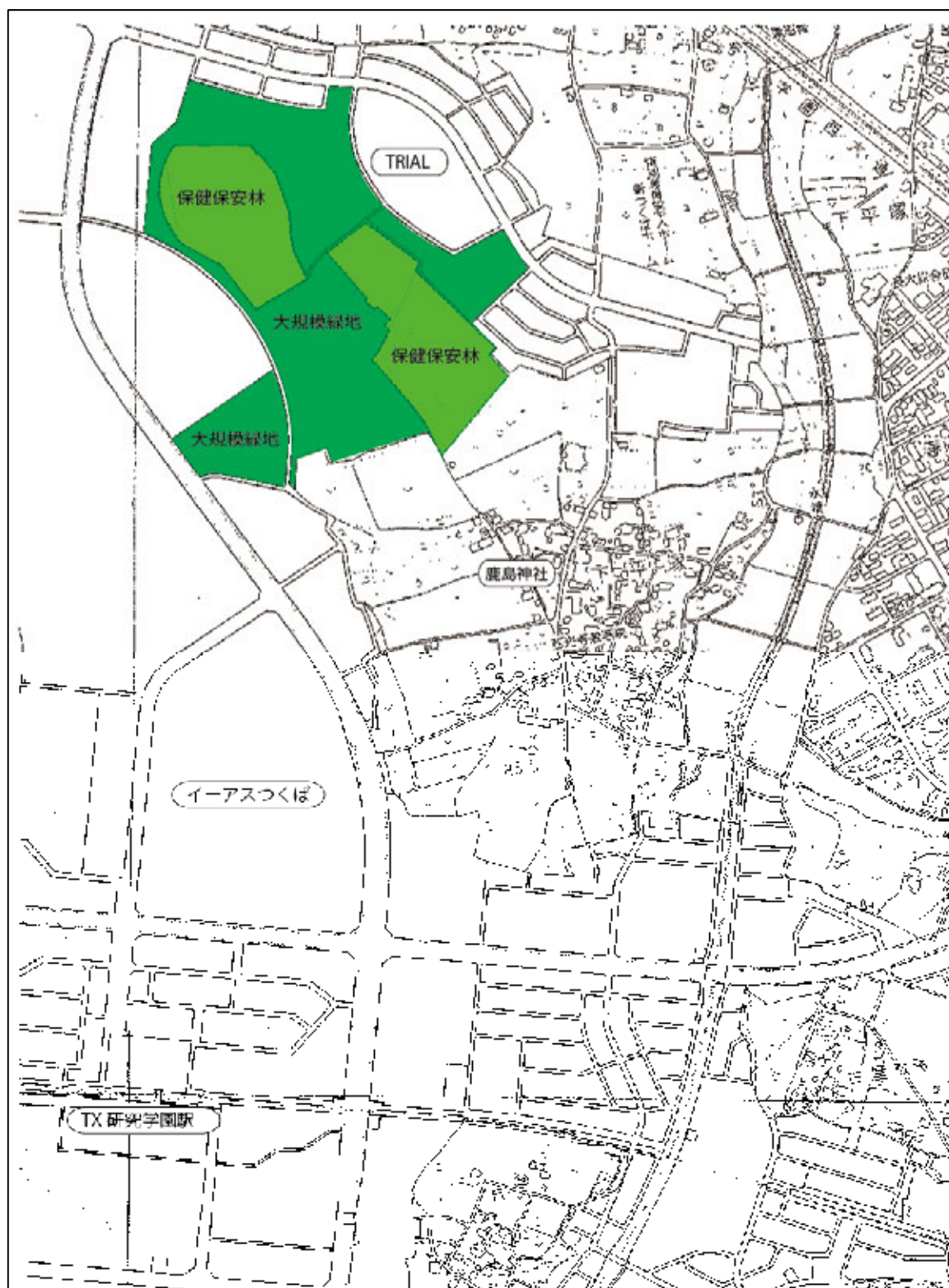
企画業務部まち育て事業チーム 切田 司

2 つめの事例は、茨城県からの受託事業として行っている葛城地区大規模緑地での取り組みです。緑地の整備と維持管理を市民協働で行っていくための仕組みづくりに平成 26 年度から取り組んでいます。

前半ではこれまでの活動について、後半ではこれまでの活動により分かった課題と対策について検討していきます。

### (1) 現況

葛城地区大規模緑地はつくば市学園の森にある約 14ha の茨城県県有地で、つくばエクスプレス沿線開発の区画整理事業で市街化区域の中に豊かな自然環境を残すために指定された土地です。つくばエクスプレス研究学園駅から徒歩 20 分という位置ながら、隣接する民有林（市街化調整区域、保健保安林に指定されている）と合わせると 24ha ものまとまった緑地となります。周囲を下平塚の昔ながらの集落と学園の森の新興住宅地、そして大型のスーパーに囲まれながらも、この地域に残された緑地として希少な動植物の生息地となっています。ここには、もともと周辺集落が里山として使用していた区域や、芝畑であった区域、自動車研究所の敷地だった区域など様々な来歴のある土地が含まれますが、現在は人の手が入らないためにクズ・篠竹の繁茂や、アカマツの密生などにより林内が暗くなり荒れている場所も多くなっています。このままでは、生物の多様性がなくなり自然としての価値が失われるだけでなく、見通しの悪い荒地は、事故や犯罪が起こるのではないかと周辺住民に不安を与える存在となってしまいます。隣接する民有林の一部では、約 10 年前から NPO 団体による里山の再生活動が行われており、見通しの良い林内では、植えた木々が成長し森が再生しつつあります。県有地と民有地が複雑に入り組んでいるという事情を考慮しつつも、ひとつの森として整備していくことが望まれる場所です。



《葛城地区大規模緑地 位置図》

## （２）平成 26 年度 ビジョン及び行動計画の作成

茨城県では、この緑地の維持管理に地域住民が継続的に関わっていく事を期待していました。そのための組織作りの計画に、葛城地区で住民によるまちづくり活動を行う「研究学園グリーンネックレスの会」を発足から支援してきた実績のある当財団が手を上げることとなりました。

### ①地域の人を交えたワーキンググループの設置

利用者の視点に立った緑地の利活用計画を作成するために、地域住民や専門家からなるワーキンググループをつくり、4回の会議を開催しました。このワーキンググループには市民代表として、葛城地区で市民活動を行っている2つの団体からそれぞれの代表の方にご参加いただきました。また、環境保全の専門家として隣接する民有林（保健保安林）で10年以上活動をしているNPO つくば環境フォーラムの代表、まちづくりの専門家としてUR やつくば市職員の方に参加していただきました。

第一回の会議では、この緑地をどのような場所にしていくのかについて、全体のビジョンと個別の目標を策定し、それぞれの目標を実現する具体的な行動計画を作成することが決まりました。全体のビジョンは、今ある豊かな自然を守りつつ、市民がその価値ある自然と触れ合うことができ、また人と人のふれあいの場ともなるような場所にしていくという観点から「豊かな自然をみんなで楽しみ学び守り育て、地域住民に愛される里山公園」となりました。そして、「美しい里山景観の復活」「生物多様性の保全」「自然とのふれあいの場の創出」という3つの目標を立て、そのための行動計画づくりに取り組みました。行動計画では、平成23年に県により作成された整備計画を土台とし、緑地全体を保全ゾーンと活用ゾーンにゾーニングして、ゾーンごとに「目標植生、整備方針、整備ならびに維持管理計画」を立てていくことになりました。保全ゾーンは希少動物のすみかとなるように整備しつつ利用者の進入は制限し、一方、活用ゾーンは自然的要素を残したエリアと公園的要素を持たせたエリアに分類して整備して、そのどちらも利用者が里山公園として利用できるように開放するという計画となりました。

第二回の会議では第一回で決定した方針に沿って行動計画の細部を検討し、早急に対処すべき課題の整理を行いました。また、緑地の維持管理について、市民が自分たちの森として愛護することをめざして、市民による整備作業を取り入れ、結果としてすべてを業者発注で管理する場合に生じる多額の費用の節減も実現できるようにという提案がなされました。整備作業を専門の業者と市民側で分担し、市民側が担う部分に関しては市民参加による活

動団体（葛城地区大規模緑地里山クラブ。以下、里山クラブ）を組織するという、実際の維持管理作業を行う中心者として一定の技能を持った集団（葛城地区大規模緑地フォレスター。以下、フォレスター）を里山クラブ内に設置することも決まりました。フォレスターは緑地の管理を継続して行うために、専門的な知識や技術を有し、刈払機やチェーンソーなどの使用も想定して有償で活動することとなりました。

第三回の会議では、ゾーニングについての内容修正や、里山クラブとフォレスターの関係性とそれぞれの周知活動をどのようにするかなど、それまでに決められた概要を詰めていくような内容となりました。

そして最終回である第四回の会議では、各回に決定した内容を修正し、葛城地区大規模緑地の利活用計画として最終的なまとめを行いました。

各回の会議では、利活用計画の作成についての話し合いと並行して、イベントの企画提案、開催報告等も行いました。イベントの開催については次の項でくわしく説明します。

#### 《会議の概要》

| 日時                             | 内容                                                                                                        |
|--------------------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 平成 26 年 7 月 2 日<br>14:00～16:30 | 1. 全体説明<br>2. 既往計画の整理<br>3. 調査対象地の現状と課題<br>4. ビジョン、行動計画の作成方針説明と討議<br>5. イベントについて（企画案）                     |
| 8 月 26 日<br>14:00～16:30        | 1. 行動計画について<br>2. 利用・維持管理体制の整理<br>3. 早期実施項目の提案<br>4. 管理方法・利用ルール<br>5. イベントについて（実施報告と次イベントの計画）             |
| 10 月 21 日<br>15:00～17:00       | 1. 前回までの修正点<br>2. 次年度計画の詳細及び中長期の見通しについて<br>3. 維持管理体制の組織化について<br>4. 広報戦略について<br>5. イベントについて（実施報告と次イベントの計画） |
| 12 月 10 日<br>10:00～12:00       | 1. 最終まとめ（報告書の内容・標記について）<br>2. WG 各位からまとめの感想                                                               |

## 《ビジョン》

**豊かな自然をみんなで楽しみ学び守り育て、  
地域住民に愛される里山公園**

## 《目標》

## 美しい里山の景観の復活

- 緑地が有する価値を守り、里山的管理をしてその価値を高めるための整備と利用を図る
- 移入してくる若い世代と地元住民が地域に対する愛着心を共有し、共に継続的に活動する
- 周辺の民有保健保安林との連携をとって、地域住民が参加する活動を展開する

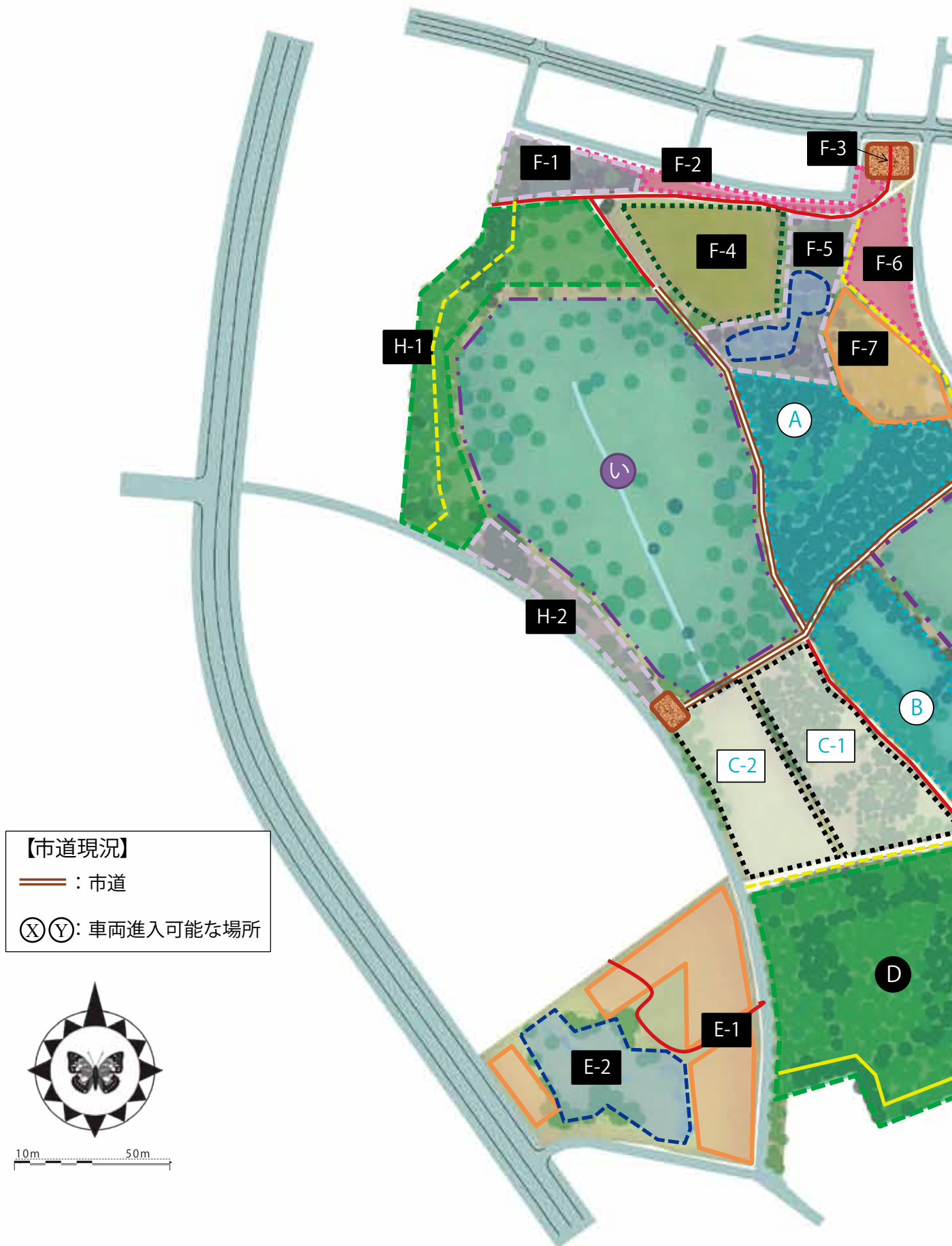
## 生物多様性の保全

- 自然の中で肌に触れて見知る、学べること（都市公園にはない価値）
- 周辺住民をはじめとする多くの者が、里山の自然と触れ合い、安らぎを得る場とする
- 日常的に人々が訪れ親しむ場の提供

## 自然とのふれあいの場の創出

- 作業や活動が生き物の保全につながる
- 保全ゾーン（貴重生物や里山の生物多様性を保全）と活用ゾーンにゾーニングする
- 維持管理活動の効果を調べる モニタリングを続けていく
- 保全と利用がバランスよく進む

# 葛城地区大規模緑地ゾーニング



## 【エリア区分け】

当該緑地

- A 保全ゾーン
- B 保全ゾーンやぶエリア
- C 保全ゾーンマツ林再生エリア
- D 活用ゾーン南雑木林散策エリア(自然的要素)
- E 活用ゾーン湿地エリア(自然的要素)
- F 活用ゾーン北芝生エリア(公園的要素)
- G 活用ゾーン東散策エリア(公園的要素)
- H 活用ゾーン西散策エリア(自然的要素)

保健保安林 ( - . - . - 内)

- い 保全ゾーン混交林エリア
- ろ 保全ゾーンやぶエリア
- は 活用ゾーン雑木林エリア(自然的要素)

## 【整備方針】

- 散策路を整備 (— 既存散策路)
- 市民協働で整備中の散策路
- 保全のために現状維持
- マツ林を再生
- 湿地(候補)
- 見通しのよい雑木林を復活、散策路を追加
- 見通しのよい雑木林を復活
- 芝生を維持
- 多目的広場を維持
- H25年度植樹地帯  
(下草刈りや補植により、引き続き雑木林の育成が必要)
- 散策路沿いを中心に植樹し、観賞用の林を育成

## ②イベントの開催

地域の人に当該緑地を知ってもらうために、また市民協働のための人材発掘の場として3回のイベントを開催しました。イベントの運営にあたってはワーキングにも参加していたNPO つくば環境フォーラムに依頼しました。

第一回の緑地の維持管理イベントでは筑波山などで森林整備等を行う市民活動団体のつくば森林クラブの皆さんの参加が得られ、刈払機と手刈りによる下草の除草作業と、散策路づくりを行いました。つくば森林クラブの皆さんからは、今後の活動にも参加したいとの意見をいただき、また、連携して活動している他団体への参加要請も可能であることが分かり、人材発掘という点で大きな成果を得ることが出来ました。

第二回の環境教育イベントでは、近隣の小学校にチラシを配布したところ、大変反応が良く、配布後すぐに申し込みがありました。最終的に定員を超える応募があり、この地域の環境教育への関心の高さがうかがえました。イベント開催後にとったアンケートでは、「一番楽しかった体験」についての回答が、保護者では「栗拾い体験」83%（18名中15名）、「自然観察ツアー」67%（18名中12名）、子供では「おひるごはん」73%（22名中16名）「もりをあるいたこと」55%（22名中12名）が上位となりました。また、子供向けのアンケートでは回答者の全員が「また来たい」と答えてくれて、好評であったことがうかがえます。自然観察や森のお手入れだけでなく、栗拾いや昼食会などの遊びの要素を入れたことで子供が森林保全への興味を持つきっかけとして有効なイベントになりました。このイベントでは緑地の近くにある「にれ工房」に、昼食会と交流会の会場を貸していただきました。

第三回の里山観察ツアーでは、イベント用に作成した散策マップを手に、緑地とその周辺の下平塚集落を散策しました。地域の歴史に詳しいガイドと、自然に詳しいガイドがポイントごとに興味深い解説を行い、参加者に好評でした。開催後のアンケートでは緑地の手入れについて94%の方が「整備が必要」と回答していることや、案内看板等の整備について80%の方が「整備が必要」と回答していることから、緑地の整備についての理解を得ようとした本イベントの趣旨は十分に伝わったとの手ごたえが感じられました。また、このイベントではマップの作成から当日のガイドまで研究学園グリーンネックレスのカルチャーの会にご協力いただきました。

3回のイベントでは、いずれもアンケートから「次回も参加したい」「都合が合えば参加したい」という回答が多く得られました。また、広報に関しては口コミが効果的だったことから、今後は今回の参加者への案内を中心に行い、その知人へと広がっていくことを期待できそうです。



## 維持管理イベント 参加者アンケート

平成 26 年 8 月 1 日（金曜日）

○参加者 33 名 ○回答者 20 名（男性 18 名 女性 2 名）

## 【1】今回のイベントは何で知りましたか？

|            |      |     |
|------------|------|-----|
| 1) 募集チラシ   | 1 人  | 5%  |
| 2) 仲間からの誘い | 10 人 | 50% |
| 3) 業務関連    | 8 人  | 40% |
| 4) その他     | 1 人  | 5%  |

## 【2】作業内容について

|          |      |     |
|----------|------|-----|
| 1) 刈払機作業 | 13 人 | 65% |
| 2) 手刈り作業 | 7 人  | 35% |
| 3) その他   | 0 人  | 0%  |

## 【3】作業量について

|        |      |     |
|--------|------|-----|
| 1) 多い  | 0 人  | 0%  |
| 2) 適切  | 14 人 | 70% |
| 3) 少ない | 6 人  | 30% |

## 【4】作業時間について

## ①開始時間について

|       |      |     |
|-------|------|-----|
| 1) 早い | 0 人  | 0%  |
| 2) 適切 | 3 人  | 15% |
| 3) 遅い | 17 人 | 85% |

## ②時間の長さについて

|       |      |     |
|-------|------|-----|
| 1) 長い | 0 人  | 0%  |
| 2) 適切 | 18 人 | 90% |
| 3) 短い | 2 人  | 10% |

## 【5】作業段取りと指示はどうでしたか？

|       |      |     |
|-------|------|-----|
| 1) 充分 | 6 人  | 30% |
| 2) 適切 | 14 人 | 70% |
| 3) 不足 | 0 人  | 0%  |

## 【6】この取り組みに今後も参加したいですか？

|               |      |     |
|---------------|------|-----|
| 1) 参加したい      | 7 人  | 35% |
| 2) 都合が合えば参加する | 13 人 | 65% |
| 3) 参加しない      | 0 人  | 0%  |

## 環境教育イベント 参加者アンケート

平成 26 年 10 月 4 日(土曜日)

## 《大人用》

○参加者 44 名(親子 15 組)

○回答者 18 名(男性 6 名 女性 12 名)

## 【1】今回のイベントは何で知りましたか？

|               |      |     |
|---------------|------|-----|
| 1) 学校からの配布物   | 15 人 | 83% |
| 2) お知り合いからの紹介 | 3 人  | 17% |
| 3) 業務関連       | 0 人  | 0%  |
| 4) その他        | 0 人  | 0%  |

## 【2】今回のイベントの中で参加申し込みのきっかけとなった(興味を持った)プログラムはどれですか。

|                  |      |     |
|------------------|------|-----|
| 1) 自然観察ツアー       | 13 人 | 72% |
| 2) 森のお手入れ体験      | 0 人  | 0%  |
| 3) 栗拾い体験         | 16 人 | 89% |
| 4) DVD 鑑賞、クラフト作り | 2 人  | 11% |
| 5) その他           | 0 人  | 0%  |

## 【3】今回のイベントの中で、一番楽しかった(興味深かった)体験はどれですか。

(複数回答可)

|                  |      |     |
|------------------|------|-----|
| 1) 自然観察ツアー       | 12 人 | 67% |
| 2) 森のお手入れ体験      | 2 人  | 11% |
| 3) 栗拾い体験         | 15 人 | 83% |
| 4) DVD 鑑賞、クラフト作り | 1 人  | 6%  |
| 5) その他           | 1 人  | 6%  |

## 【4】葛城地区大規模緑地について

## ①このような大きな緑地があることはご存知でしたか？

|           |      |       |
|-----------|------|-------|
| 1) 知っていた  | 11 人 | 61.1% |
| 2) 知らなかった | 7 人  | 38.9% |

## ②知っていたと答えた方にお聞きます。これまでに、この緑地に入ったことはありますか？

|           |     |       |
|-----------|-----|-------|
| 1) ある     | 7 人 | 63.6% |
| 2) 今回が初めて | 4 人 | 36.4% |

## 【5】今後もこの緑地で開催される自然観察イベント等に参加したいですか？

|                |     |     |
|----------------|-----|-----|
| 1) 参加したい       | 9 人 | 50% |
| 2) 都合が合えば参加したい | 9 人 | 50% |
| 3) 参加しない       | 0 人 | 0%  |

## <子供用>

○回答者 22 名(男性 13 名 女性 9 名)

○参加児童年齢

| 3 歳 | 4 歳 | 5 歳 | 6 歳 | 7 歳 | 9 歳 | 10 歳 |
|-----|-----|-----|-----|-----|-----|------|
| 1 人 | 4 人 | 1 人 | 6 人 | 2 人 | 6 人 | 2 人  |

【1】おもしろかったプログラムはどれですか？(複数回答可)

【2】つまらなかったプログラムはどれですか？(複数回答可)

|                 | 【1】おもしろかった |     | 【2】つまらなかった |     |
|-----------------|------------|-----|------------|-----|
| 森を歩いたこと         | 12 人       | 55% | 2 人        | 9%  |
| セイタカアワダチソウの引き抜き | 7 人        | 32% | 6 人        | 27% |
| 栗ひろい            | 7 人        | 32% | 0 人        | 0%  |
| オオムラサキの DVD     | 4 人        | 18% | 1 人        | 5%  |
| クラフトづくり         | 8 人        | 36% | 0 人        | 0%  |
| お昼ご飯            | 16 人       | 73% | 0 人        | 0%  |
| その他             | 2 人        | 9%  | 2 人        | 9%  |

【3】また参加したいですか？

|         |      |      |
|---------|------|------|
| 参加したい   | 22 人 | 100% |
| 参加したくない | 0 人  | 0%   |
| 無回答     | 0 人  | 0%   |

## 里山散策ツアー 参加者アンケート

平成 26 年 10 月 25 日(土曜日)

○参加者 15 名 ○回答者数 15 名(男性 9 名 女性 5 名 無記 1 名)

## 【1】今回のイベントは何で知りましたか？

|             |      |      |
|-------------|------|------|
| 1) チラシ      | 0 人  | 0%   |
| 2) 前回のイベントで | 0 人  | 0%   |
| 3) 関係者から    | 15 人 | 100% |
| 4) その他      | 0 人  | 0%   |

## 【2】里山は、森とその周辺の集落、田畑の景観とから成りますが、今回の印象は如何でしたか？

## ①森までの下平塚の街並み、沿道は？

|          |     |     |
|----------|-----|-----|
| 1) 感じ良い  | 9 人 | 60% |
| 2) 寂しい   | 3 人 | 20% |
| 3) 整備が必要 | 3 人 | 20% |
| 4) その他   | 0 人 | 0%  |

## ②下平塚の歴史資産は？

|         |     |     |
|---------|-----|-----|
| 1) 感じ良い | 8 人 | 53% |
| 2) 寂しい  | 5 人 | 33% |
| 3) その他  | 2 人 | 13% |

## ③森の中の散策の印象は？(\*複数回答者あり)

|          |     |     |
|----------|-----|-----|
| 1) 感じ良い  | 8 人 | 50% |
| 2) 寂しい   | 3 人 | 19% |
| 3) 整備が必要 | 4 人 | 25% |
| 4) その他   | 1 人 | 6%  |

## ④森の動物、植物について？(\*複数回答者あり)

|          |      |     |
|----------|------|-----|
| 1) 関心が有る | 15 人 | 94% |
| 2) 関心は無い | 0 人  | 0%  |
| 3) その他   | 1 人  | 6%  |

## 【3】里山づくりについて伺います。

## ①沿道に花を植える等の整備活動について

|          |     |     |
|----------|-----|-----|
| 1) 協力したい | 8 人 | 53% |
| 2) 協力しない | 1 人 | 7%  |
| 3) その他   | 5 人 | 33% |
| (無回答)    | 1 人 | 7%  |

## ②歴史資産等の解説案内板、道標について

|            |      |     |
|------------|------|-----|
| 1) 整備が必要   | 13 人 | 87% |
| 2) 必要と思わない | 0 人  | 0%  |
| 3) その他     | 2 人  | 13% |

## ③森の中を散歩したいですか？

|                   |     |     |
|-------------------|-----|-----|
| 1) 散歩したい          | 9 人 | 60% |
| 2) 明るく整備されれば散歩したい | 6 人 | 40% |
| 3) 散歩したい          | 0 人 | 0%  |
| 4) その他            | 0 人 | 0%  |

## ④森のお手入れ(草刈り)について(\*複数回答者あり)

|            |      |     |
|------------|------|-----|
| 1) 整備が必要   | 15 人 | 94% |
| 2) 必要と思わない | 0 人  | 0%  |
| 3) その他     | 1 人  | 6%  |

## ⑤森のお手入れ(植樹)について

|             |     |     |
|-------------|-----|-----|
| 1) 活動に参加したい | 7 人 | 47% |
| 2) 参加しない    | 1 人 | 7%  |
| 3) その他      | 2 人 | 13% |
| (無回答)       | 5 人 | 33% |

## ⑥森の中の案内板、解説板等について

|            |      |     |
|------------|------|-----|
| 1) 整備が必要   | 12 人 | 80% |
| 2) 必要と思わない | 2 人  | 13% |
| 3) その他     | 0 人  | 0%  |
| (無回答)      | 1 人  | 7%  |

## 【4】イベントについて

## ①今後もこの緑地で開催される自然観察イベント等に参加したいですか？

|                |      |     |
|----------------|------|-----|
| 1) 参加したい       | 10 人 | 67% |
| 2) 都合が合えば参加したい | 4 人  | 27% |
| 3) 参加しない       | 0 人  | 0%  |
| (無回答)          | 1 人  | 7%  |

## ②イベントに、里のさち(わらび、栗など)を食べる企画を追加することについて

|               |      |     |
|---------------|------|-----|
| 1) 有料でも参加する   | 12 人 | 80% |
| 2) 無料ならば参加したい | 0 人  | 0%  |
| 3) 食べる企画は要らない | 2 人  | 13% |
| (無回答)         | 1 人  | 7%  |

### （３）平成 27 年度 行動計画の実施

平成 27 年度はワーキンググループやイベントの運営で一緒に活動したつくば環境フォーラムと連合体をつくり、茨城県からの事業を共同で受託しました。

#### ①里山クラブの設置

平成 26 年度に作成した行動計画に沿って、市民協働で緑地の保全を行っていく母体として、里山クラブを設置しました。里山クラブの活動内容は緑地の散策や自然観察のようなものから、森林整備まで多岐にわたります。設置にあたって要綱などを決めましたが、葛城地区大規模緑地のビジョンに賛同できる方ならどなたでも登録でき、当面は登録料も無料としました。まずは、多くの方に登録していただいて、緑地に来てもらうことが重要だからです。将来的に事務局機能も内部でまかなえ、会員発信でイベントの運営などが出来るような自立した団体となっていくイメージがありましたので、そのための人材を発掘するには母数は多い方がいいということもあります。会員の募集のために、里山クラブのリーフレットを作成し、これを近隣の公共施設や店舗、小学校等に持っていきしました。



（里山クラブ リーフレット）

#### ②キックオフイベントの開催

当該緑地は、現在公園としての供用開始前であるため、一般の方の立ち入りが禁止されています。そのような状況で興味を持ってもらうためには、まず緑地に来るきっかけを作る必要がありました。そこで平成 27 年 5 月 29 日（日）に里山クラブの設立キックオフとして、緑地の存在を周辺の人にアナウンスするイベント「ネイチャーウォーク&森がつなぐ交流会」を開催しました。

インストラクターとともに森の散策をしながら野草摘みやゲームを行い、また、散策ミッションというものを設けて、散策後には交流会を行いました。

た。散策中に摘んだ野草は天ぷらにして、おにぎり、けんちん汁とともに昼食になりました。インストラクターはつくば環境フォーラムに所属して筑波山でガイドを行っている方や自然に詳しい方などをお願いしました。

ゲームは「ネイチャービンゴ」というものです。これは、通常数字で埋められているビンゴカードに森の中で見つかる動植物や事象の絵が描かれていて、散策中に絵に該当するものを観察出来たらマスを消し、ビンゴを目指すというものです。絵は「赤い実」「黄色い花」のような具体的なものもあれば「いいにおい」「とげとげ」のような感覚的なものもあり、低年齢の子供でもゲームに参加できるようになっています。絵に該当するアイテムを見つけるために散策路の脇や足元、頭の上など、あちこちに目を向けるので、ただ前を見て歩いているより深く観察ができるプログラムです。

散策ミッションは「森のすてきを集めよう」という課題で、散策中に森の中で「すてき！」と感じたものは何か考えてもらい、散策後に発表する、というものです。全体を3つの散策班に分けて、班ごとに取組んでもらいました。散策後の交流会では参加者同士で話し合う時間を設けて、班の意見をまとめてもらいました。どの班もたくさんの意見が出て、発表は盛り上がりしました。

交流会の会場はつくば環境フォーラムの管理している民有地の広場をお借りしました。会場にはツタを利用した天然のブランコや木にロープを張ったアスレチックなどの「森のあそび場」を設置して、お昼ご飯や交流会の合間に自由に遊べるようにしたところ、子供達に大人気でした。イベント後のアンケートの「おもしろかったもの」に対する回答では79%（19名中11名）の子供がこの「森のあそび場」を選択していました。次いで人気だったのは「ネイチャービンゴ」で71%（19名中10名）の子供が選択していました。

会場の設営、参加者誘導、交流会の準備等を研究学園グリーンネックレスの会の会員さんにお手伝いいただき、また、お手洗いは「筑波ハム陣屋」で貸していただくなど、様々な方のご協力を得て開催に至ったイベントでした。

今回の反省点として日程調整があります。近隣の小学校の子供たちをターゲットにしているというのに、なんとイベントの前日に近隣小学校の多くが運動会だったのです。運動会当日に雨が降ればイベントの日に振り替えになりますし、無事に運動会が開催されれば翌日はのんびりと過ごすでしょうから、事前申し込みの必要なイベントにはなかなか参加しにくいのではないかと思います。日程変更の検討もしましたが、スタッフのスケジュールや梅雨間近であることなどから難しく、そのまま開催となりました。結果的に参

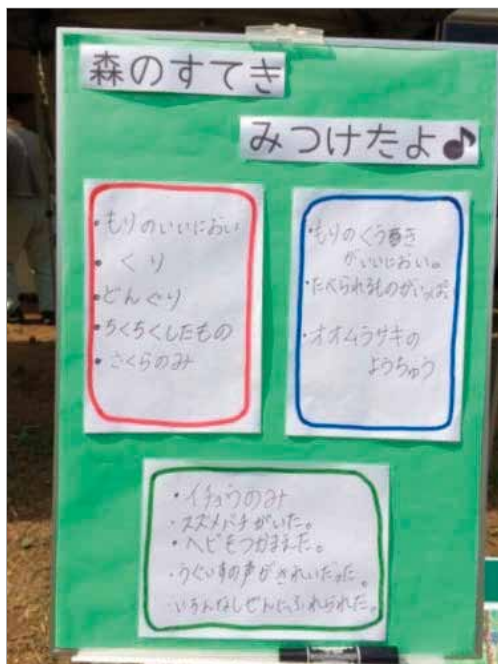
加者は18組45名（当日キャンセル7名）となりました。実は想定していた定員の半分なのですが、当日のスタッフの人数と会の盛り上がり方を考えるとちょうど良い人数だったと感じています。しかし、今後は早めに競合イベントの把握をする必要があるということが分かりました。



親子で散策



国蝶・オオムラサキの蛹を観察



散策ミッションでみつかった

たくさんの「すてき」



大人気・ツタのブランコ。足元にはワラを敷き詰めてふかふかに

## キックオフイベント 参加者アンケート

平成 27 年 5 月 31 日(日曜日)

## 《大人用》

○参加者 23 名 ○回答者数 19 名(男性 13 名 女性 6 名)

○回答者年齢層

| 30 代 | 40 代 | 50 代 | 60 代 | 70 代 |
|------|------|------|------|------|
| 6 人  | 10 人 | 2 人  | 0 人  | 1 人  |

## 【1】今回のイベントは何で知りましたか？

|      |      |     |     |     |     |
|------|------|-----|-----|-----|-----|
| 学校   | 13 人 | 68% | チラシ | 3 人 | 16% |
| 知り合い | 2 人  | 11% | その他 | 3 人 | 16% |

\*複数回答あり

## 【2】①申込みのきっかけになったプログラムはなんですか？(複数回答可)

②楽しかったプログラムはなんですか？(複数回答可)

|          | 【2】-① |     | 【2】-② |     |
|----------|-------|-----|-------|-----|
| 自然観察ツアー  | 17 人  | 89% | 3 人   | 16% |
| ネイチャービンゴ | 6 人   | 31% | 1 人   | 5%  |
| 森のあそび場   | 3 人   | 16% | 2 人   | 11% |
| 野草摘み     | 6 人   | 31% | 3 人   | 16% |
| 散策ミッション  | 4 人   | 21% | 2 人   | 11% |
| その他      | 0 人   | 0%  | 0 人   | 0%  |

## 【3】大規模緑地について

①森があることを知っていましたか？

|        |      |     |
|--------|------|-----|
| 知っていた  | 12 人 | 63% |
| 知らなかった | 7 人  | 37% |

②森に入ったことはありましたか？

|          |      |     |
|----------|------|-----|
| 入ったことがある | 10 人 | 83% |
| 入ったことがない | 2 人  | 17% |

## 【4】フォレスターについて

①フォレスターに興味はありますか？

|           |      |     |
|-----------|------|-----|
| 興味がある     | 7 人  | 37% |
| 興味はあるが難しい | 11 人 | 59% |
| ない        | 0 人  | 0%  |

②「興味はあるが難しい」の理由はなんですか？(自由記述)

- ・活動日が平日のため (7 名)
- ・時間がないため (4 名)
- ・子育てとの両立が難しい (1 名)

## 【5】今後の活動について

①里山散歩に参加したいですか？

②植樹に参加したいですか？

|        | ①散歩  |     | ②植樹  |     |
|--------|------|-----|------|-----|
| 参加したい  | 4 人  | 21% | 4 人  | 21% |
| 都合が合えば | 15 人 | 79% | 14 人 | 74% |
| 参加しない  | 0 人  | 0%  | 0 人  | 0%  |
| 無回答    | 0 人  | 0%  | 1 人  | 5%  |

## 《子供用》

○参加者数 22 名 ○回答者数 14 名（男性 8 名 女性 6 名）

○参加児童年齢

|     |     |     |     |     |     |      |      |
|-----|-----|-----|-----|-----|-----|------|------|
| 3 歳 | 4 歳 | 5 歳 | 6 歳 | 7 歳 | 9 歳 | 10 歳 | 11 歳 |
| 1 人 | 4 人 | 2 人 | 3 人 | 4 人 | 6 人 | 1 人  | 1 人  |

【1】おもしろかったプログラムはどれですか？（複数回答可）

【2】つまらなかったプログラムはどれですか？（複数回答可）

|          | 【1】おもしろかった |     | 【2】つまらなかった |     |
|----------|------------|-----|------------|-----|
| 森を歩いたこと  | 8 人        | 57% | 2 人        | 14% |
| ネイチャービンゴ | 10 人       | 71% | 0 人        | 0%  |
| 森のあそび場   | 11 人       | 79% | 0 人        | 0%  |
| 野草摘み     | 5 人        | 36% | 3 人        | 21% |
| お昼ご飯     | 10 人       | 71% | 1 人        | 14% |
| 散策ミッション  | 8 人        | 57% | 1 人        | 14% |
| その他      | 0 人        | 0%  | 1 人        | 14% |

【3】また参加したいですか？

|         |      |     |
|---------|------|-----|
| 参加したい   | 13 人 | 93% |
| 参加したくない | 0 人  | 0%  |
| 無回答     | 1 人  | 7%  |

### ③定期イベント・里山散歩の実施

里山クラブの定期的な活動として、毎月一回の里山散歩があります。インストラクターが案内しながら緑地を散策し、季節の植物や虫などの観察を行うのですが、一般開放されていない緑地に入る機会として、また、定期的に緑地を訪れ四季の移り変わりなどを感じることで愛着を持ってもらうという二つの目的で開催しています。当初は、里山クラブの既存会員向けのイベントとして考えていましたが、始めてみると、里山散歩への参加をきっかけに会員登録される方が多く、新規会員獲得の意味もかなりあることが分かりました。告知に関しては、会員向けのメール、当財団ホームページへの掲載、つくば環境フォーラムのホームページ等がメインです。

参加者の人数は 1 回目の 6 月には 8 人、7 月に 34 人、8 月に 16 人、9 月に 9 人、10 月に 24 人、11 月に 17 人、12 月に 13 人と、かなりばらつきがあります。6 月はキックオフイベントから日がたっていないことや、前週につくば環境フォーラム主催で開催された散策会に参加された方が多かったことなどから参加者はあまり集まりませんでした。一方、7 月には昆虫に詳しい講師をお招きして「求む！虫好き少年少女たち！」とテーマを打ち出したところ親子連れの参加者が多数集まりました。そこで、8 月も「夏の森を散歩しよう！」とテーマを設定したのですが、昆虫ほどの分かりやすさがなかったためか 7 月ほどの人数にはなりませんでした。



7 月/真夏でも森の中は涼しい

キックオフイベントを近隣小学校への広告で開催したため、当初は親子連れの参加者が多かったのですが、次第に大人一人やご夫婦での参加者が増えました。これは、つくば環境フォーラムの会員さんが里山クラブにも登録してくださったことと、会員登録の web フォームを開設したことで個人登録者が増えたことが理由と考えられます。また、ここ数回では毎月のように参加する方も現れ、参加者同士が顔見知りになってきた様子も見受けられます。

緑地内には集合できる場所がないためキックオフイベントと一回目の里山散歩は緑地から徒歩 20 分程度の広場に集合していました。しかし、2 時間の

散策のうち往復で 40 分もの時間を移動に費やすのはもったいない、どこか集合できる場所はないかと考えました。そこで、緑地に隣接する「スーパーセンタートライアル」に出向き、緑地と里山クラブについての説明を行い、里山散歩の際に駐車場を貸していただけないかとお願いしたところ快諾していただき、それ以降はほぼ毎回トライアルの駐車場を集合場所にしています。集合前にトライアルで飲み物を買ったり、解散後にお昼ご飯を買ったりしている参加者も見られ、お互いにメリットのある関係になれているのではないかと感じています。トイレや駐車場など足りない設備が整うのはしばらく先になるでしょうから、それまでは近隣の店舗に貸してもらおうというのは、地域とのつながりを作るという点からもいい方法と言えそうです。

《キックオフイベント・里山散歩 参加者数》

| 実施日    | 参加人数 | テーマ                    | 天気    |
|--------|------|------------------------|-------|
| 5月31日  | 45人  | ネイチャーウォーク&森がっ<br>なぐ交流会 | 晴れ    |
| 6月14日  | 8人   | (テーマ設定なし)              | 曇り    |
| 7月12日  | 34人  | 求む！虫好き少年少女たち           | 晴れ    |
| 8月9日   | 16人  | 夏の森を散歩しよう！             | 晴れ    |
| 9月13日  | 9人   | 小さい秋を探そう！              | 晴れ    |
| 10月18日 | 24人  | 秋の森の散策                 | 晴れ    |
| 11月8日  | 17人  | (テーマ設定なし)              | 雨     |
| 12月13日 | 13人  | 落葉と野鳥の観察               | 曇り/小雨 |



6月/木の赤ちゃん



12月/落葉の散策路

#### ④市民による森林整備（フォレスター活動）

昨年はイベントとして 1 日のみ行った下草刈りや散策道づくりなどの森林整備を、市民協働での森づくりとして継続的な活動にしていくために、里山クラブの中にフォレスターという森林整備部隊を組織しました。里山クラブの中に、と言いましたが、現段階で里山クラブの会員のみで組織するには人材不足です。そこで、まず初年度は平成 26 年度の維持管理イベントで協力してくださった「つくば森林クラブ」と連携して活動している「つくばフォレストクラブ」に呼び掛けてフォレスターとして活動していただくことになりました。平成 26 年度に作成した行動計画から、フォレスターは受託者と雇用契約を結び有償で活動することになっていました。無償のボランティアではないとはいえフォレスターはあくまでも里山クラブの一員として緑地の整備をするという意識をもってもらうことが重要です。そこで、担い手育成研修を開催しました。

担い手育成研修はビジョンを共有し、里山としての森林整備について理解を深める「里山ビジョン研修」と、刈払機を使った森林整備を行う上で受講していただく必要のある「刈払機取扱作業安全講習」の 2 つの研修を 2 日にわけて行いました。

里山ビジョン研修は、フォレスター候補者全員に受けていただきました。葛城地区大規模緑地の概要や里山の成り立ち・現状などの講義から始まり、今後の整備の計画や施工図面などの確認をし、その後、現地視察を行いました。ビジョンや計画の全体像、施工計画まで理解した上で視察に入ったため、現地ではどのように進めるべきか、実際の作業を具体的に話し合うことが出来ました。

刈払機安全講習は、1 度受けると有効期限はないので、これまで受けたことのない方に受講していただきました。林業・木材製造労働災害防止協会茨城支部から講師の方に来ていただき、刈払機の基本的な使い方、事故防止のための注意、事故事例など講義していただきました。ほとんどの受講者が刈払機の使用経験があったのですが、作業を行うにあたって注意すべき熱中症や、振動障害とその対策についてなど、ただ自宅で使用しているだけでは分からなかった話が聞けて有意義だったというご意見をいただきました。2 日間も研修のために時間をとっていただいているので、このような意見をいただけると安心します。この研修を経て 30 名のフォレスターが誕生しました。

## 《担い手育成研修》

## 6月29日 里山ビジョン研修 (受講者…30名)

1. 葛城地区大規模緑地における茨城県事業の概要
2. 里山クラブ・フォレスターの概要
3. 里山について その成り立ちと現状
4. つくば環境フォーラムにおける保健保安林の取り組み  
自己紹介
5. これからの整備について (ゾーン図、施工区域図を見ながら)
6. 組織体制について  
昼食 (現地に移動)
7. 現地にて実際の場所と作業について
8. 作業の手順と安全管理について

## 6月30日 刈払機取扱作業者安全衛生講習 (受講者…20名)

1. 刈り払い機に関する知識 (1時間)
2. 刈り払い機を使用する作業に関する知識 (1時間)
3. 刈り払い機の点検及び整備に関する知識 (30分)
4. 振動障害及びその予防に関する知識 (2時間)
5. 関連法令 (30分)
6. 実技教育 (1時間)



里山ビジョン研修



刈払機取扱作業者安全衛生講習(実技)

初年度は7月と9月の2回に分けて、約65,000㎡の下草刈りを行いました。作業が始まる前に、森林整備の前後でどのように変化があるかを調べるために対象エリアの植生調査を行い、それと同時に、刈り残したい植物にテープを巻きました。下草を一様に刈るのではなく、これから森を形成するクヌギやコナラの実生、山椒・山桜のように葉や実・花の利用価値がある植物など里山景観の中に残しておくべきものは刈り残してもらうのです。これはとても気を遣う作業で、市民協働だからこそできる森林整備といえます。担い手育成研修を行い、フォレスターのみなさんと、里山としての森林管理を行うという方針を共有して初めてできることです。

作業は毎日12人程度のフォレスターの方が作業するように事前にシフトを作りました。1日の作業時間は振動障害予防や夏の暑さ対策などから4時間とし、こまめに休憩を取る事、気温だけでなく湿度にも注意し熱中症に気を付ける事など安全に作業することを徹底しました。施工範囲はクズが多く、クズが絡み合って背丈よりも高い木を覆い尽くしていて足を踏み入れることもできないような状態なのですが、フォレスターのみなさんの経験と技術の高さはプロの業者顔負けで、あっという間に刈り払われて見通しのきく森に変わっていきました。これまで草が生い茂っていたところで作業をしていると近くを通りかかった人たちの目にも着くようで、興味を持って話しかけて下さることが何度かありました。近隣にお住いの方に葛城地区大規模緑地の概要と里山クラブ、フォレスターの説明をする機会が得られ、フォレスターの活動自体が広報に繋がることを実感しました。

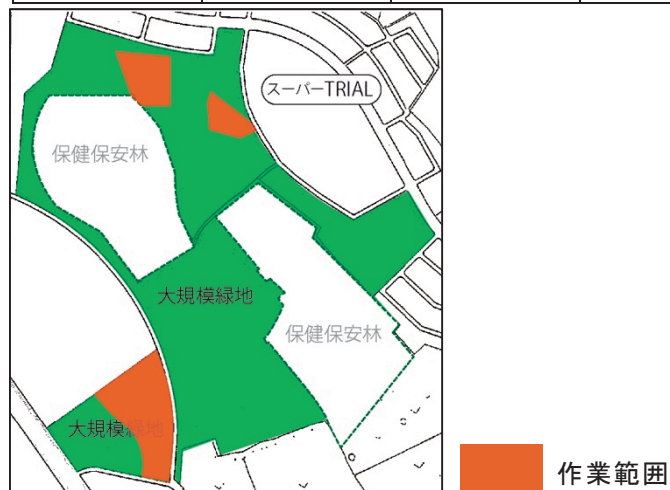
7月は小雨や曇りの日が多かったために、うまく真夏の暑さを避けて作業することができました。しかし、9月は連日の大雨で1週間すべての作業を中止としました。そこでまるまる翌週に持ちこして改めてシフトを組みなおしたのですが、なかなか人数が集まらず、結局日数を増やすことで予定していた範囲の作業を終えることができました。

7月と9月のそれぞれの作業終了後に作業についての感想や意見を出し合う「フォレスターの集い」を開きました。話し合いでは、今回の作業の改善点や、来年度はどのように進めていくといいかといった話を、フォレスターの皆さん自身に考えてもらうことが出来ました。特に多かったのが1回目の作業時期が7月では遅すぎるというご意見で、1回目を春先にやればもっと楽に処理できる、来年の作業時期を見直すべきだとのことでした。また、今回は刈った後の下草はその場に捨て置いたのですが、この後の処理をすることで翌年の作業が楽になるとのご意見もありました。

## 《フォレスター 作業面積と人数》

7月 作業面積 19,340 m<sup>2</sup>

| 6日<br>(月) | 7日<br>(火) | 8日<br>(水) | 9日<br>(木) | 10日<br>(金) |
|-----------|-----------|-----------|-----------|------------|
| 11人       | 13人       | 9人        | 15人       | 11人        |

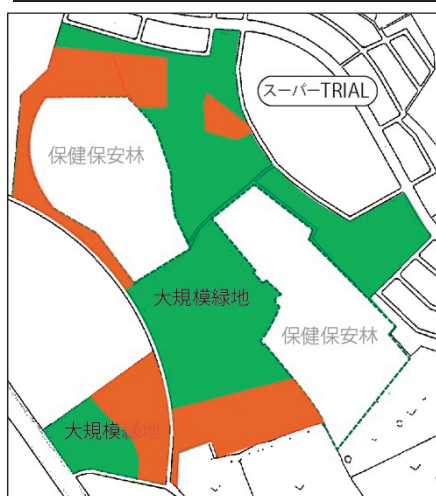
9月 作業面積 45,690 m<sup>2</sup>

| 1日<br>(火) | 2日<br>(水) | 3日<br>(木) | 4日<br>(金) |
|-----------|-----------|-----------|-----------|
| 13人       | 9人        | 10人       | 11人       |

| 7日<br>(月) | 8日<br>(火) | 9日<br>(水) | 10日<br>(木) | 11日<br>(金) |
|-----------|-----------|-----------|------------|------------|
| 中止        | 中止        | 中止        | 中止         | 中止         |

\*9/12以降は雨で中止になった日の振替日

| 12日<br>(土) | 14日<br>(月) | 15日<br>(火) | 16日<br>(水) | 24日<br>(木) | 25日<br>(金) |
|------------|------------|------------|------------|------------|------------|
| 3人         | 3人         | 10人        | 5人         | 5人         | 4人         |



9月は7月に刈った場所の2度刈りと新規箇所を刈る



6/29 現地視察時、ササをかき分けて進む



7/10 作業後、隠れていた木がすっきり姿を現す

### ⑤マイツリー植樹

平成 27 年度の最後の活動として、平成 28 年 3 月に植樹を計画しています。この植樹は市民の手による里山再生の出発点となる活動です。マイツリーとは、植樹した苗木に植樹者の名前が書かれた樹木名プレートを取り付けて、植えた後も木のお手入れをして成長を見守るというもので、ただ植樹して終わりではなく、その後も継続して緑地に足を運ぶきっかけとなるように植樹場所など工夫して計画しています。また、植樹の直前の 2 月の里山散歩は植樹に向けた特別な内容にして、里山とはどのようなものなのか、どんな木があったらいいか、といったお話をする予定です。それと同時に、小さな苗木が大きくなるとどんな木になってどんな花が咲くのか、10 年後、20 年後にどんな森になっているのかということを想像してもらい、自分の植える樹種などを選んでもらいます。キックオフイベントと同様に近隣の小学校へも参加者の募集を行う予定です。植樹後も継続的に関わってもらおうことになるので、通える範囲に住む子供にはぜひ参加してもらいたいイベントです。

## （４）課題

### ①里山クラブ

5月の設立から12月現在の里山クラブの会員数は160名です。当初の目標100名を大きく超えて、多くの方に葛城地区大規模緑地と里山クラブの事を知っていただけました。しかし、目標の人数には達しましたが様々な課題も見えてきました。

研究学園グリーンネックレスの会の様に数年である程度自主的に活動していけるような団体を目指していましたが、これはかなり時間をかけないとむずかしいことが分かってきました。研究学園グリーンネックレスの会では、勉強会から始まり、自分たちでまちづくりをしていきたいという人たちが集まって設立に至った団体です。一方、里山クラブは設立してから会員を集めており、現在は事務局が提供するイベントに参加するために登録したという人も多くいて、まだ会員同士のつながりや組織としてのまとまりがありません。会員の構成も1、2歳～小学生高学年の子育て真最中の家庭が多く、今はイベントに参加するのが精いっぱいなようです。このような状況でクラブの自立をすすめようと期待するのは、かえって会員がクラブへの関わり自体に負担を感じる原因となりかねません。数年の間は、定期的な散策や森の整備をお手伝いするイベントなどを続けて、ゆっくりと緑地への愛着を育んでもらうこと、交流会等で会員同士のつながりをつくること、そして市民協働の中心となりうる活発な人材を見つけるために会員数を増やしていくことが里山クラブの活動方針として適当だと思われます。

また当該緑地は現在未供用のために、一般の方の立ち入りは禁止されています。まだ整備が出来ていないところが多く、枯れ枝が落ちてきたり、木が倒れてきたりして怪我をする可能性がゼロではないので、里山クラブの会員といえども自由に緑地を訪れて散策することが出来ません。しかし本当は、会員になれば緑地の散策が出来る、とか、自分の好きな時にマイツリーのお手入れが出来る、といった自由さがあった方が、里山クラブの会員である自覚や、当該緑地に対する愛着も増すのではないかと思います。現在は、事務局が主催するイベントに参加しなければ緑地に入ることはできませんが、里山公園としてこの緑地が解放されるまでの間に、もう少し敷居を低くできないかと模索しています。

## ②フォレスター

今年度の活動を通して、年 2 回では植物の成長に追いつかず、整備が行き届かないということが分かりました。これは時期の設定が影響していて、植物が成長の勢いを増す 7 月に刈っても、またすぐに伸びてきてしまうために整備された状態が長く保たれませんでした。特にクズの繁茂するエリアでは顕著で、作業から数日で青々としたツルが延びてきてしまいました。フォレスターの皆さんからも、本来ならば春先の、植物が成長を始めた直後に一度刈ってしまうと効率がいいというご意見をいただきました。この「時期の悪さ」は業者施工エリアについても同様で、植物成長に合わせた発注・施工というのは難しいようでした。また、9 月の整備活動では雨による作業の中止と振替日の人数確保に悩まされました。

これらの課題は、平成 27 年度には市民と業者によって分担して整備した全エリアを、今後は市民のみで整備するという方法で解消できるのではないかと考えています。施工面積は約 3.8 倍になりますが、平成 27 年度に一度刈っていることもあり、適切な時期に施工できれば負担は面積に比例しません。またもう一つの作戦が常駐フォレスターの設置です。平成 27 年度同様のまとまった整備活動に加えて、週 2~3 日程度の頻度でこまめな見回りや整備を行うフォレスターの仕組みを設定するのです。散策路沿いや日当たりがよく草の育ちやすい部分などはこまめに草を刈ることで徐々に植物の勢力をそぐことが出来ますし、天候への柔軟な対応も可能です。また定期的に見回することで、倒木等で危険な状態にも早く対処でき、犯罪や不法投棄などに対しての抑止力にもなります。

フォレスターについての課題には「高齢化」があります。平成 27 年度のフォレスターの平均年齢は約 68 歳。まだできたばかりの団体ですが、今から後継者を探していく必要があります。平日昼間の活動が主なので、定年退職後の活動として検討してもらえるように、60 歳前後の方へのアプローチは有効だと考えられます。また、キックオフイベント時のアンケートをみると、子育て世代の方もフォレスターに興味はあるようです。仕事や子育てで忙しく、今は活動に参加することは難しいようですが、次々世代のフォレスター獲得のためにはこの層へのアプローチも大切です。まずはフォレスターの活動を知ってもらい、身近に感じてもらうために里山クラブの会員とフォレスターが交流できる機会があると良さそうです。

### (5) ヒト・モノ・カネ

最後に、この事例をヒト・モノ・カネの観点で再整理したいと思います。

まずヒトについては2つあると考えます。1つ目はフォレスターと里山クラブの会員がこれにあたります。フォレスターは緑地の整備を中心的に担う存在として早い段階で人材の確保を行いました。今後も持続的な組織とするために、常に先々の人材確保に力を入れていく必要があると考えています。一方、里山クラブの会員は緑地のファンクラブという位置づけで、関わり方も人それぞれということになるかと思います。供用開始前は里山散歩やマイツリー植樹とその後のお手入れ活動などで定期的に緑地に関われる体制を用意することが大切です。そして、ゆくゆくはクラブ会員が自主的に活動に取り組めるようになることも必要と考えています。2つ目のヒトは近隣に住む方々です。この方々に里山クラブの会員として緑地に関わっていただければ一番いいのですが、だれもかれもが自然が好きなわけではありません。ですが、この緑地の存在を許容してもらうということは絶対に必要です。例えば、スギ花粉が飛ぶからこんな緑地はいらない、とか、虫がわくから殺虫剤を撒いてほしい、というようなマイナスの感情をこの緑地に持つ人が緑地のすぐ隣に住んでいるかもしれません。ファンにならなくとも、この気持ちを少しでもやわらげて、家の隣に緑地があってもいいか、と思ってもらいたいのです。そのためには緑地が気持ちのいい空間であるように整備することと、里山クラブの活動を広く広報し理解してもらうことが大切だと考えています。

次にモノですが、ここでは場所や設備をモノとして考えていきます。現在緑地には人が集えるような場所はありませんし、水道、トイレ、駐車場といった設備也没有ありません。これらは緑地で作業をするにしてもイベントを開催するにしても必要なものですが、整備されるまではかなり時間がかかりそうです。しかし、これまでにイベント開催やフォレスターの作業を行う際には筑波ハム、にれ工房、スーパートライアルなど緑地周辺の商店などでお借りすることでまかなってきました。このように地域との連携で足りない部分を補っていくというのはまさに「地域住民に愛される里山公園」ではないかと思っています。

カネに関しては、この事例は茨城県からの受託事業であり、その中で里山クラブの運営資金、維持管理活動費などをまかなっています。現状はこれで動いていけますが、今後活動は活発化、多様化していく事が考えられます。一方で県の予算には枠があるため、必要な経費すべてをまかなうことが出来なくなった時にどのように資金調達するかが課題です。例えば、市民や企業

からの寄附を募ったり、企業の CSR 活動と連携するなど、様々な方法が考えられますが、いずれにしても将来に向けて行政、里山クラブ、関係機関、地域などがどのような体制、協力関係を築けるか、持続可能な仕組み作りの検討が必要です。

5 月の設立から約 7 か月が経ち、毎月 1 回の里山散歩に繰り返し参加してくださる方が少しずつ増えてきました。何か月かあけて久しぶりに参加される方もいます。定期的に行っていると、それぞれのペースで緑地に関わることができると思っています。現在は 3 月のマイツリー植樹に向けて準備を進めていますが、この植樹に参加していただくと、その後のお手入れなどで緑地を訪れるきっかけとなり、里山散歩への参加にもつながると考えています。まずは 1 度でも実際に緑地に足を運んでいただけるように、企画・広報など工夫していきたいと思っています。

## 魅力いっぱい！里山づくり

夏の雄木井は下草がいっぱい。  
魅力ある里山にするために、新しい散策路を作ろう！

参加費  
無料！

### 【第1弾】 葛城地区大規模緑地の下草刈りイベント

広く市民に愛され、里山の自然がいつまでも保たれるよう、  
市民参加の里山づくりイベントを開催いたします。  
里山の魅力を知って、人の手が入ることにより、  
自然が持続していくことを、一緒に学びましょう！

【日 時】 平成26年8月1日(金) 9:00~12:00  
雨天顺延(予備日8月8日)

【集合場所】 筑波ハム 陣屋駐車場(駐車場あり)《裏面地図参照》  
現地まで徒歩移動5分程度

【持ち物・服装】 軍手、帽子、飲み物、タオル、作業しやすい服装  
(長袖、長ズボン) ※サンダル不可

【作業内容】  
・水源地周辺緑地のセイタカアワダチソウ抜き、ツル切り(手作業)  
※鎌等はご自分で準備いたします

共催：一般財団法人つくば都市交通センター ・ NPO法人つくば環境フォーラム

(このイベントは、筑波ハム・つくば都市交通センターが裏面を協賛している「平成26年度葛城地区大規模緑地ビジョン及び行動計画(草案)」の取組みの一つです。)

◇お申し込みは裏面「申込みフォーム」より◇



どなたでも参加できます！  
(小学生以下は保護者同伴で)




### 【集合場所及び作業予定場所】



★申込みフォーム★

①お名前・年齢 (      ) (      )

②住所 \_\_\_\_\_

③電話番号 \_\_\_\_\_ ④所属団体 \_\_\_\_\_

⑤E-mail(あれば) \_\_\_\_\_

※雨天中止の場合は、前日夕方までに申込者へご連絡いたします。なお、当日欠席等の連絡先については、080-2010-1158までお問い合わせください。

# 魅力いっぱい！里山づくり

広く市民に愛され、里山の自然がいつまでも保たれるよう、市民参加の里山づくりイベントを開催いたします。  
里山の魅力を知って親しみ、人の手が入ることにより、自然が持続していくことを、一緒に学びましょう！

in 智城大規模農地

## 【第2弾】 自然観察と森のお手入れ体験イベント！

～身近な里山での自然観察と、栗拾い体験～

筑波山麓産の美味しい新米おにぎり、手作りのけんちん汁、ほくほく焼き栗も魅力♪

【日 時】 平成26年10月4日(土) 9:30～14:00 (昼食付き)

雨天順延(予備日 10/5(日))

【対 象】 親子20組(3歳以上の子供さんより参加可)

【参 加 費】 1人あたり 500円

【集合場所】 ハウジングパーク西側 芝生広場(駐車スペースあり)  
つくば駅方面より: 新土曜コナカの道を右折(裏面地図参照)

【持ち物・服装】 飲み物・軍手・ビニール袋・動きやすい服装

【内 容】 ・自然観察(ガイドツアー)  
・森のお手入れ体験(雑草ひき抜き)と栗拾い  
・焼き栗づくり、「つくばのオオムラサキ」試写・ネイチャークラフト

【申込方法】 Eメール、FAXで裏面の必要事項をお知らせの上、9月30日までにお申し込みください  
※参加者多数の場合、定員に達し次第、先着順にて締め切らせていただきます。

共催: 一般財団法人つくば都市交通センター ・ NPO法人つくば環境フォーラム

(このイベントは、茨城県上戸(一)つくば都市交通センターが委託を授け実施している「平成26年度筑波地区大規模農地(智城大)活用計画(農林部)」の取組みの一つです。)

※今日のイベントは、特別に了解を得て高の中での開催となっています。(通常は開放されておられません)



### 【当日スケジュール】

- ・9:00 受付開始
- ・9:30 集合(ハウジングパーク西側芝生広場)
- ・9:40 ガイドツアー出発  
自然観察、森のお手入れ体験  
(セイタカアワダチソウ抜き、ツル切り)
- ・11:00 栗拾い体験
- ・11:30 昼食場所(にれ工房)へ出発
- ・12:00 昼食・交流会(けんちん汁、おにぎり)
- ・13:00 焼き栗づくり  
DVD試写会(つくばのオオムラサキ)  
ネイチャークラフト
- ・14:00 終了、解散



### ★申込みフォーム★

①お名前・年齢 ( 歳 ) ( 歳 )

( 歳 ) ( 歳 )

②住所

③電話番号 ④学校名

⑤E-mail(あれば)

※雨天順延の場合は、前日夕方までに申込者へご連絡いたします。なお、当日欠席等の連絡先については、040-2010-1158までお願ひします。

# 魅力いっぱい！里山づくり

広く市民に愛され、里山の自然がいつまでも保たれるよう、市民参加の里山づくりイベントを開催いたします。  
里山の魅力を知って親しみ、人の手が入ることにより、自然が持続していくことを、一緒に学びましょう！

## 【第3弾】葛城を歩こう！里山発見散策イベント

～葛城の歴史・自然を知って、特別ルートで里山散策をしよう～

今回のイベントでは、特別了解を得て散策ルートを設定し森に立ち入ることができます。(現在は一般供用されておられません)

【日 時】 平成26年10月25日(土) 9:40出発 少雨決行 荒天断続(予備日 10/26(日))

【集合場所】 9:20ハウジングパーク西側芝生広場集合(裏面地図参照)

【コース】 芝生広場を出発し平塚の集落を通り、葛城地区大規模緑地(果有林)等を散策。  
歴史に詳しいガイド、自然に詳しいガイドが説明しながら散策します。

【参加費】 無料

【定 員】 30名

【持ち物・服装】 飲み物・底の厚い靴、動きやすい服装 (少雨の場合は雨具を持参してください)

【申込方法】 裏面の必要事項をお知らせの上、Eメール、FAXで10月20日までに申し込みください。  
※参加者多数の場合、定員に達し次第、先着順にて締め切らせていただきます。

共催：一般財団法人つくば都市交通センター・NPO法人つくば環境フォーラム  
協力：散策ルートマップ提案・現地ガイド 研究学園グリーンネットワークス カルチャーの会

☆協賛イベント☆  
散策後、協賛イベント企画として、つくば環境フォーラムが開催する「森フェスタ2014」へ参加することができます。  
お申込み、お問合せは「つくば環境フォーラム」まで。(事前予約が必要です)  
交通会参加費：おひとり様500円  
内容：交流会(おにぎり、けんちゃん汁などの昼食付)、ネイチャークラフト、丸太切り体験、ミニコンサートなど

【このイベントは、環境省「国・都道府県・市町村」が主催する「平成26年度国土形成計画推進型地域づくり推進事業」の取組の一環です。】

### ★スケジュール★

9:20 受付開始  
9:30 開会 挨拶・趣旨説明など  
9:40 散策スタート  
平塚の歴史に触れよう！  
特別ルートで森を散策し、里山ならではの魅力発見  
観察をしよう！  
10:50頃 トイレ休憩・アンケート記入  
11:30頃 くれ工房到着  
(「森フェスタ2014」に参加される方は  
こちらで解散となります)  
12:00 集合場所到着・解散

### ★申込みフォーム★

①お名前・年齢 ( 歳 ) ( 歳 )  
②住所  
③電話番号 ④所属  
⑤E-mail(あれば)

※雨天中止の場合は、前日夕方までに申込者へご連絡いたします。なお、当日欠席等の連絡先については、080-2010-1158までお願ひします。



**葛城大規模緑地とは…**

つくばエクスプレス研究学園駅から徒歩 20 分のところにある茨城県のもつ緑地で、隣接する民有林と合わせると 24ha もの広さになります。

ここはかつては里山として人々の生活に利用されてきたところで、現在でも様々な動植物の貴重な場所です。



ニホンアマガエル

**【葛城里山クラブ Q&A】**

Q. 里山クラブに入ると何が出来るの？  
A. 葛城大規模緑地で里山づくりの活動や懇話会に参加できます。またイベント情報や季節ごとの緑地の様子などをメールにてお知らせします。

Q. 誰が登録できるの？  
A. 里山クラブの理念に賛同する人が登録できます。ただし中学・生未満のお子さんは保護者の同意と一緒に登録をお願いします。

Q. お金はかかるの？  
A. 登録は無料ですが、イベントによっては参加費が別途です。

Q. 葛城里山クラブは誰が運営してるの？  
A. 茨城県から「1977年度葛城地区大規模緑地利活用推進事業」を受託した、一般財団法人つくば都市交通センターと特定非営利活動団体つくば環境フォーラムによる連合体が運営をしています。

**【登録方法】**

① 里山クラブのイベントに参加してその場で申し込みの場合  
→ イベント申込書に必要事項を記入し、事務局にお送りください。

② イベントに参加せずにも登録する場合は  
→ 下記お申込み欄に記入し、事務局へ FAX で送るか、つくば都市交通センターのホームページから「葛城里山クラブ登録申込み」のページを開き、登録フォームに必要事項を入力して送信してください。



**葛城大規模緑地  
里山クラブ**

入会のご案内



**お申込み欄**

お名前： \_\_\_\_\_

お電話番号： \_\_\_\_\_

ご住所： \_\_\_\_\_

メールアドレス： \_\_\_\_\_

**【お問い合わせ先】**

葛城里山クラブ事務局（つくば都市交通センター内）  
住所： 茨城県つくば市南 1-5-1  
電話： 029-851-0600  
FAX： 029-851-0211  
※つくば都市交通センターに繋がりますので「里山クラブの問合せ」とお伝えください。  
メール： machisodate@tutcc.or.jp

**葛城大規模緑地 里山クラブ**

葛城大規模緑地里山クラブ（葛城里山クラブ）とは、葛城地区に残った大きな緑地（葛城大規模緑地）を「豊かな里山をみんなで楽しみ守り育て、地域住民に愛される里山公園」として、いかに活動を進めていくクラブです。

初年度にあたる平成27年度は、公開型活動ではありませんが、活動を通して里山の自然に親しみ、これからの里山づくりをもとに育ちの手助けをしています。

まだ、整備が進んでいないために一般には開放されていませんが、葛城里山クラブの会員は、その活動の一環として、緑地を訪れての観察会や森づくり活動に参加することができます。

**【1977年度の活動予定】**

|       |                |
|-------|----------------|
| 5月下旬  | クラブ見学キックオフイベント |
| 6月～2月 | 里山散歩           |
| 3月上旬  | マイヅル観察会        |

葛城地区は毎月第2日曜日（10月のみ第3日曜日）午前中に、自然にやさしいインストラクターと一緒に緑地を散策し、四季折々の里山の自然を楽しめる活動です。

葛城里山クラブの会員になって、街中に残されたこの豊かな自然環境を体験してみませんか？

お一人でも、親子でも、どなたでもご登録いただけます。活動の詳細については会員メール等で随時お知らせします。



登録してね！

**ビジョン**

豊かな自然をみんなで楽しみ守り育て、地域住民に愛される里山公園

**3つの目標**

- 美しい里山の景観の復活  
野草の花が咲き、木々は葉の色を変えて季節ごとに目を惹きつけてくれる里山。
- 生物多様性の保全  
様々な種類の生き物、それぞれに適した多様な動植物が共存できる里山
- 自然とのふれあいの場の創出  
学びの場、安らぎの場として日常に人々が訪れる里山。森のお手入れ活動を通じて、人々の出会う場となる里山。



ニホンアマガエル

**里山って？**

集落の近くにあり、人々が生活の資源を得るために入っていた雑木林のことを里山と言います。

森のお手入れをすることで維持されてきたものですが、生活スタイルの変化とともに、利用されなくなり放棄され、ササやワシの生い茂る荒れ地となって荒れてしまいました。

今残る里山を豊かな自然環境にしていくためには人が入り維持管理することが必要不可欠なのです。



タチツボスミ

**葛城大規模緑地  
フォレスター**

下草刈りや伐打ち、間伐などの維持管理を中心に進めていくのが葛城大規模緑地フォレスターです。

森林整備の技術だけでなく、里山や市民協働での里山づくりについての知識を持ち、目指すビジョンを共有するために所定の担い手育成研修を受けていただきます。

※本冊子の監修は自然環境学博士（フォレスター）とあるが、これは誤りです。

資料⑤ 平成 27 年度 里山クラブキックオフイベント チラシ（表）

里山クラブ設立  
キックオフイベント  
参加者募集

葛城大規模緑地 位置図

葛城大規模緑地

里山にようこそ！

ネイチャーウォーク&森がつなぐ交流会

参加費  
ひとり  
500円

5月31日(日) 10:00~14:00  
雨天順延 予備日6/7(日)  
定員:親子など90名(4歳以上の子供さんより参加可)  
@葛城大規模緑地(集合場所:くぬぎの森芝生広場)

おにぎり、おはし、  
おわんを持ってきてね！

自然と  
友達になろう！  
ネイチャー  
ビンゴ

野草摘みと  
野草のたねづら

森の  
遊び場

軽食と  
交流会

散策  
ミッション！  
ミッションは秘密  
皆でワクワク♪

【主催】 つくば都市交通センター・つくば環境フォーラム連合体【後援】 つくば市教育委員会  
【問合せ】 一般財団法人つくば都市交通センター まち育て事業チーム

URL <http://www.tutc.or.jp/>

《このイベントは、茨城県より上記連合体が委託を受け実施している「平成27年度葛城地区大規模緑地利用促進事業」の取組みの一つです。》  
※今回のイベントは、特別に了解を得た森の中の開催となっております。(通常は開放されていません)

里山クラブ設立  
キックオフイベント

**里山にようこそ!**

**ネイチャーウォーク&森がつなぐ交流会**

【当日スケジュール】

- 9:30 受付開始
- 10:00 開会挨拶・趣旨説明・スタッフ紹介  
スケジュールとグループへのミッション伝達
- 10:15 グループに分かれて自己紹介後散策出発  
ネイチャービンゴを使って、里山の森を楽しく学ぶ
- 12:00 野草の天ぷらづくり  
森の遊び場
- 13:00 昼食・交流会  
各グループのミッションの発表会  
散策の振り返りワークショップ
- 14:00 終了

おいしい  
げんちん汁も  
あるよ!

【持ち物】

①昼食(おにぎりなど主食)飲み物 ②お箸 ③お椀  
④必要であれば虫よけ⑤タオル

【服装】

森を散策できる動きやすい恰好  
(帽子、長袖長ズボン着用で)  
運動靴など(サンダル不可。一部林の中を歩きます)

【集合場所 くぬぎの森 案内地図】

＜研究学園駅方面からの行き方＞

住宅線沿道・コナカのある交差点を北に入る  
↓  
森が切れたところの左手にある小道を左折  
↓  
すぐ右手の小道を右折  
↓  
右折すると間もなく砂利道になり、  
その左手の道が集合場所です！  
★イベント時のみ駐車場

（拡大図）

事前申込み(先着順)

◆申込み締切り

5月28日(木)◆

【申込み方法】

①メール [machisodate@tut.ac.jp](mailto:machisodate@tut.ac.jp)

件名に「ネイチャーウォークイベント申込み」、本文には下記申込み書に  
記載されている事項をご記入ください

| ネイチャーウォーク&森がつなぐ交流会 参加申し込み書 |    |     |                                   |                             |
|----------------------------|----|-----|-----------------------------------|-----------------------------|
| お名前(ふりがな)                  | 年齢 | 性別  | 里山クラブ登録<br>(登録希望の方は○<br>を付けてください) | 住所 〒                        |
|                            |    | 男/女 |                                   | 連絡先<br>TEL<br>FAX<br>E-MAIL |
|                            |    | 男/女 |                                   |                             |
|                            |    | 男/女 |                                   |                             |
|                            |    | 男/女 |                                   |                             |

※お預かりした個人情報は、参加者との連絡と保険加入のみに使用させていただきます。

### 3 音楽によるセンター活性化「音の宝箱」

音の宝箱・つくば 2015 企画運営会議 事務局長  
株式会社 SocialVitmain 代表取締役 奈良間英樹

“まちづくり”と言っても様々な形があり、その中には人々のつながりを創るための核となる何かが必要となる事も多いと思います。本事例ではその核として「文化」、特に「音楽」を核としたまちづくりについて考えていきたいと思います。もともと「市民主導」の音楽祭からスタートした本事例は、様々なステークホルダーを巻き込み「市民協働」の音楽祭へ進化し、さらに将来的には持続可能性を高めた形で「市民主導」へと帰し、最終的に地域にとってなくてはならない音楽祭、まちづくりの中核の一端を担える音楽祭を目指しています。そうした形で、平成 27 年 10 月 1 日および 4 日の両日、つくばセンター地区に於いて『音の宝箱・つくば 2015』と称した音楽祭を開催しました。

本事例紹介では、この音楽祭を主催した、様々な立場の構成メンバーによる音の宝箱つくば企画運営会議が、音楽祭開催に向けてどのように方向性をまとめ、どのように進めてゆき、開催までに至ったかについてまとめ、今後の方向性などについての筆者の考えをドラッカーの考え方なども交えながら考察してみました。

まだ道半ばで課題は山のようにある取り組みですが、組織作り、まちづくりの要素が含まれていることもあり、一度文章に取りまとめ、本誌の一事例として取り上げて頂ける事になりました。お読み頂いている方へ、何かのお役に立てばと思います。

#### (1) 音の宝箱・つくば 2015 開催の経緯

音の宝箱・つくば 2015 の前身として、過去 2 回にわたる市民音楽祭の開催があります。本音楽祭開催の経緯として、この過去 2 年間の動きを“前提”の話として簡単にお伝えしたいと思います。(本章はつくば・まちかど音楽市場ネットワーク (代表：三浦一憲氏、以下、まちかど音楽市場と記す) 三浦氏へのインタビュー内容とボランティア参加した筆者の実感を元にとりまとめています。)

##### ①つくば市民音楽祭 2013 “トライアル”

平成 25 年に実施されたこの音楽祭は、つくばにおいて約 10 年間にわたり

音楽によるまちづくりを提唱、実行し、様々な音楽祭やイベントをつくば市内で実施してきた、まちかど音楽市場が、フィリピンで発生した台風被害のチャリティとして企画し、つくば市へ持ち込んだものでした。結果として、平日空いていたノバホールを活用した音楽祭として実行する事が決まり、つくば市も共同主催者として、名を連ねて“開催”の運びとなりました。

『ノバホール市民音楽祭“トライアル”』と題したこの音楽祭は、ノバホールを一日“無料開放”し、大ホールおよびホワイエを活用して多くの演奏家に演奏してもらう企画として実施し、結果として多くの演奏家の方々に参加頂くことができました。

開催決定から開催までの時間が約 1 ヶ月と非常に短かく、準備、告知、集客の部分において、文字通り“トライアル”となってしまいました。すなわち、「まずは頑張って開催した」という様な状況であり、集客もままならない状況でした。とはいえ、まちかど音楽市場のこれまでの活動や音楽家とのネットワークがあった事、“ノバホール”と言う非常に優れたコンサートホールでの演奏企画と言うことも手伝って、多くの演奏家にご参加頂く事ができました。各演奏の内容は大変素晴らしく、反対に観客の少なさが際立ち、運営に携わった者として、本当に残念に感じた事を覚えています。

### ＜つくば市民音楽祭 2013 基本情報＞

|                |                                                                                                                               |
|----------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 【タイトル】         | つくば市民音楽祭 2013 “トライアル”                                                                                                         |
| 【日時】           | 平成 25 年 12 月 12 日（木）                                                                                                          |
| 【開催場所】         | つくば市ノバホール                                                                                                                     |
| 【主催】           | ノバホール市民音楽祭実行委員会、つくば市、公益財団法人つくば文化振興財団（実行委員会メンバー：つくば・まちかど音楽市場ネットワーク、株式会社 SocialVitamin、NPO 法人スマイルステーション、つくば朝のサロンコンサートの皆様、市民の皆様） |
| 【協力】           | ラヂオつくば、NPO 法人子連れスタイル推進協会                                                                                                      |
| 【デザイン・ビジュアル協力】 | 若松氏                                                                                                                           |
| 【内容】           | 第 1 部（10:00～16:00 子供乳幼児可）<br>第 2 部（17:00～21:00 未就学児不可）                                                                        |

# ノバホール市民音楽祭 “トライアル”



ノバホールを市民の皆さまに無料開放し「市民音楽祭」を開催いたします。

普段、何気なく耳にする、さまざまな音楽を気楽に楽しんでいただければ幸いです。

どうぞお気軽にお越しください！

大ホールではノンジャンルで、多彩な音楽家が出演し、ホワイエではギター弾き語りなどのミニステージを開催。

出演者はご応募いただいた市内の音楽家をはじめゲストのプロの演奏家の皆さまです。

\*出演の演奏家の詳細は「つくば・まちかど音楽市場ネットワーク」のホームページか、face bookでご確認下さい。

## 12月12日(木)

第1部 10:00～16:00  
子供乳幼児可

第2部 17:00～21:00  
未就学児不可

無料開放日

つくば市 ノバホール [大ホール] [ホワイエ] **入場無料**

台風30号による壊滅的な被害を受けたフィリピン状況を | 募金は実行委員会の  
踏まえ会場入口に募金箱を設置させていただきます | 自主開催です

主催 | ノバホール市民音楽祭実行委員会、つくば市、公益財団法人つくば文化振興財団  
ノバホール市民音楽祭実行委員会メンバー[つくば・まちかど音楽市場ネットワーク、Social Vitamin、スマイルステーション、つくば朝のサロンコンサートの皆様、市民の皆様]

協力 | FM 84.2MHz ラヂオつくば NPO法人 子連れスタイル推進協会 デザイン、ビジュアル協力：若松織男

\*当日ボランティア募集：入場整理、場内誘導、演奏家誘導など

ボランティアのお申込み、音楽祭についてのお問い合わせ



つくば市 ノバホール

つくばエクスプレス「つくば」駅から徒歩5分車でお越しのお客様はノバホールには駐車場がありませんので、近隣の有料駐車場をご利用ください。自転車でお越しのお客様は近隣の自転車専用有料駐車場をご利用下さい。ホール前などは駐輪禁止ゾーンです。

[www.novahall.tsukubacity.or.jp/](http://www.novahall.tsukubacity.or.jp/)

## ＜ノバホール市民音楽祭“トライアル”チラシ＞

### ＜演奏家詳細＞ 大ホール演奏者

- ① 10:00～10:30 ママプラス blanco プラスバンド 総勢25名
  - ② 10:30～12:00 つくば朝のサロンコンサート 演奏家の皆様  
松永みづほ(チェロ) 末吉千枝子(フルート) 古寺由希子(ファゴット)  
奥田千春(ピアノ) 榊原道子(ピアノ) 山口泉恵(ピアノ) 大橋あゆみ(ヴァイオリン)  
森 裕美(ヴァイオリン) 山田圭子(ヴァイオリン) 脇田優子(ヴィオラ)
  - ③ 12:00～12:45 水岡のぶゆき&CAMARU (ピアノ&ボーカル)  
スペシャルゲスト! プロフェッショナル・ジャズデュオ
  - ④ 12:45～13:30 Miho&Kana エンジェルズ (Vo・オカリナ・アコーディオン&ピアノ)  
坂田佳奈子 松田三補 ポップス、クラシック、各国伝統音楽、唱歌など
  - ⑤ 13:30～14:00 水上喜子 (ギター演奏&弾き語り) 演奏、オリジナル、叙情歌、童謡
  - ⑥ 14:00～14:10 クレイグ・コールマン (ヴァイオリン演奏)
  - ⑦ 14:10～15:00 大満族 (レクイエム、ヒーリングライブ) (ピアノ) 大泉 究  
(フルート) 宇高杏邦、(ボーカル) 大和弥生(チェロ) 大和田雄一 (クリスタルボウル他) 大泉彰由樹
  - ⑧ 15:00～15:50 フィオリーナ・マンドリン・アンサンブル (マンドリン演奏) 10名
  - ⑨ 18:00～18:30 大泉彰由樹 (クリスタルボウル・ヒーリングライブ)
  - ⑩ 18:30～19:00 梶野康裕(かどのやすひろ)パロックギター、17世紀ヨーロッパの舞曲
  - ⑪ 19:00～19:10 大泉 究 (ピアノ演奏)
  - ⑫ 19:10～19:30 ピアノクラブ 大人1名 子供2名 (ピアノ演奏)
  - ⑬ 19:30～20:00 塚本英之 (ピアノ弾き語り)
  - ⑭ 20:00～21:00 ニの宮太鼓會 (和太鼓グループ) 6名
- 21:00～ 募金額中間発表 閉会の挨拶**

### ＜ホワイエ演奏家＞ エントランスの大空間

- ① 11:30～12:00 Miho&Kana エンジェルズ (ヴォーカル・オカリナ・アコーディオン&ピアノ)
- ② 12:00～12:30 (1回目) 14:00～14:30 (2回目) 荒牧 信允 (ギター弾き語り・叙情歌)
- ③ 15:00～16:00 辺保陽一&クレイグ・コールマン (リコーダー演奏&ヴァイオリン演奏)
- ④ 19:00～19:45 Blue Canary (アコーディオン、オカリナ演奏&ギター演奏) 坂田佳奈子
- ⑤ 19:45～21:00 ジャズセッション 愛田美樹(ヴォーカル) 後藤為助(サックス)  
塚本英之(ピアノ) パーカス安田(コンガ) 及川 克洋 (ベース)

**演奏家及び演時間は予告なく変更することがあります**

## ②つくば市民音楽祭 2014

平成 26 年は主催であるまちかど音楽市場の 10 周年ということもあり、つくば市の助成金を活用し、「市民主体の音楽祭と音楽文化を考える」というテーマでシンポジウムを企画していました。その折、“まちづくりへの寄与”をミッションとした一般財団法人つくば都市交通センター（以下、都市交通センター）からお声がかかり、つくばセンター地区での“音楽によるまちづくり”を意図した市民による音楽祭の企画が上がりました。当初まちかど音楽市場が企画していたシンポジウムと合わせ、ノバホール、シンポジウム、屋外ライブを中心とした述べ 3 日間に渡る大きな企画へ成長し、開催主体も「つくば市民音楽祭実行委員会」とし、まちかど音楽市場のみならず、都市交通センターや公益財団法人文化振興財団（以下、文化振興財団）、オークラフロンティアホテルなどのつくばセンター地区周辺の組織が関わる事になりました。こうして、多くの組織とともに開催する事で、実に多様性のあるイベントとなりました

初日のノバチャレンジは、つくばセンター地区に在る国内でも屈指のコンサートホールであるノバホールを一日借りきり、いろいろな人にノバホールを体験してもらおう！という企画です。優れた演奏家による演奏から、ほとんど初心者と言った方まで、様々な方による演奏が行われました。聴き応えのある演奏も多くありましたが、観客が少ない事が残念でした。

2 日目のシンポジウムでは、5 人のパネリストによる発表を実施した後、演奏家、つくば市副市長も交えて討論会を実施しました。

### ＜シンポジウムパネリスト＞

- ・小美玉市 中本正樹様、みの〜れ兼アピオス館長 山口茂徳様  
住民主導の文化センターの在り方、作り方について
- ・宮城県仙台市「定禅寺ジャズフェスティバル」前代表 佐々木和夫様  
市民実行委員会形式の日本最大の音楽祭の作り方など講演
- ・東北大学大学院経済学研究室 教授 福島 路様  
「市民が作る音楽祭ネットワーク」調査プロジェクトの研究成果講演
- ・株式会社ヤマハ「ヤマハの音マチプロジェクトリーダー」佐藤雅樹様  
「ヤマハの音マチプロジェクト」について
- ・つくばまちかど音楽市場ネットワーク 代表 三浦一憲様  
「つくばまちかど音楽市場ネットワーク」のこれまでの活動と現状について
- ・つくば市副市長 岡田久司様（討論会参加）
- ・プロジャズピアニスト 水岡のぶゆき様（討論会参加）

市民文化センターの活用を住民主導で行っている全国的に見ても先進的な事例や、市民が毎年楽しみにしている市民実行委員会形式では日本最大の音楽祭と言われる事例などが発表されました。内容はどれも非常に興味深く、どの発表においてもつくばでも参考になるような事例でした。しかしながら、シンポジウム全体の時間に対してパネリストの人数が多く、各パネリスト発表時間が少なくなってしまう、やや中途半端となってしまった気がしています。

3日目の屋外ストリートライブは、丸々一日つくばセンター地区でのライブであり、迫力のある演奏、聴き応えのあるアーティストが多く出演してくれました。演奏の内容はとても優れていたと感じています。課題は集客、ステージ設定、そして空き時間の3点。



今回、クレオスクエア特設ステージとセンター広場モニュメントステージの2ステージでの開催としましたが、それぞれのステージが離れすぎており、2ステージによる“連携”は全く無く、またお互いのステージが今どういう状況かすらわからないという状態で、とても“2ステージ”による屋外ライブとはなっていませんでした。また、演奏交代の際の“間”が長く、連続して演奏を聞きたい観客も席を立てってしまうケースが見られました。そして何より、集客がまだまだ少ないという状況でした。

その他、オークラフロンティアホテルでは、「カメラリア」でのランチタイム・コンサートや、「シエルブルー・コンチネンタル」でのディナーコンサートも行われ、様々な音楽イベントを実施しました。

また全体を通した運営の課題として、情報、状況の共有化が図られておらず、実行委員会メンバーの多様性や特徴を活かしきる事ができず、有機的な

役割分担と能動的な行動が結果的に困難な状況となってしまいました。

それぞれのイベントの課題も含め、様々な課題が顕在化した音楽祭であり、全日程を大過なく終了したものの、運営に携わったメンバーには、わだかまりが残る音楽祭となってしまいました。

今後、この音楽祭を継続してゆくのか否か、継続するとしてどのように継続してゆくべきかを考えていくきっかけとなった3日間となりました。

### つくば市民音楽祭 2014 基本情報＞

|             |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                      |
|-------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 【タイトル】      | つくば市民音楽祭 2014                                                                                                                                                                                                                                                                                                                        |
| 【日時】        | 平成 26 年 10 月 2 日（木）～10 月 4 日（土）                                                                                                                                                                                                                                                                                                      |
| 【主催】        | つくば市民音楽祭実行委員会                                                                                                                                                                                                                                                                                                                        |
| 【後援】        | つくば市、つくばセンター地区活性化協議会、㈱常陽リビング社                                                                                                                                                                                                                                                                                                        |
| 【協賛】        | オークラフロンティアホテルつくば、クレオスクエア、ラヂオつくば、情報誌「つくまる」                                                                                                                                                                                                                                                                                            |
| 【協力】        | 小美玉市役所、㈱ヤマハ、宮城県仙台市定禅寺ジャズフェスティバル実行委員会、東北大学大学院経済学福島研究室、つくば市商工会、つくば・まちかど音楽市場ネットワーク、東京ビジュアルアーツ音響科学生、一般財団法人つくば都市交通センター                                                                                                                                                                                                                    |
| 【開催場所および内容】 | <p>10 月 2 日（木）：ノバホール市民音楽祭「ノバチャレンジ！」（ノバホール）<br/>世界的な音楽空間を有する「ノバホール」で演奏してみたい、という演奏家を支援する企画。プロ・アマ問わずに演奏を楽しんで頂き、観客も多様な演奏を気楽に楽しんでもらう。</p> <p>10 月 3 日（金）：シンポジウム「市民主体の音楽祭、音楽文化を考える」（アルスホール）<br/>各方面で実績のある方々をお招きし、市民主体の音楽祭を考えるシンポジウム</p> <p>10 月 4 日（土）：街角ストリート音楽祭（つくばセンター広場&amp;クレオ「キュート」ステージ）<br/>市民と音楽を街角で「つなぐ」ストリート音楽祭。2 つのステージで開催。</p> |



### 音楽で人を「つなぐ」音楽祭！

地域、ジャンル、年齢、性別を超えて音楽で人をつなぐ  
つくばから音楽を通して未来の音楽文化を創造する音楽祭  
市民ボランティアが主体となる実行委員会が主催し、行政  
財団、地域企業と手を組んで開催します

## 2014年10月2日(木) 3日(金) 4日(土)

**2日＝ノバホール市民音楽祭** (0歳児から入場可能、未来を見据えた室内音楽祭、無料) 10:00～20:00

**3日＝市民主体の音楽祭、音楽文化を考える「シンポジウム」** (アルスホール) 14:00～16:30

**オープンカフェコンサート** (カフェテリアカメラ) 12:00～13:00 カフェ要飲食(雨天オークラロビー)

**コンチネンタルディナーコンサート** (有料) オークラフロンティアホテルつくば11階

**4日＝街角ストリート音楽祭** (センター広場&クレオ「キュート」ステージ) 11:00～17:00 (無料、雨天ノバホール)

**主催 つくば市民音楽祭実行委員会**

音楽祭詳細は裏面に→

実行委員長 三浦一憲 (市民ボランティア、つくば・まちかど音楽市場ネットワーク)

公益財団法人つくば文化振興財団、一般財団法人つくば都市交通センター、市民有志

後援＝つくば市、つくばセンター地区活性化協議会、(株)常陽リビング社

協賛＝オークラフロンティアホテルつくば、 クレオスクエア、 842  842  842  842  842  842  842  842  842  842  842  842  842  842  842  842  842  842  842  842  842  842  842  842  842  842  842  842  842  842  842  842  842  842  842  842  842  842  842  842  842  842  842  842  842  842  842  842  842  842  842  842  842  842  842  842  842  842  842  842  842  842  842  842  842  842  842  842  842  842  842  842  842  842  842  842  842  842  842  842  842  842  842  842  842  842  842  842  842  842  842  842  842  842  842  842  842  842  842  842  842  842  842  842  842  842  842  842  842  842  842  842  842  842  842  842  842  842  842  842  842  842  842  842  842  842  842  842  842  842  842  842  842  842  842  842  842  842  842  842  842  842  842  842  842  842  842  842  842  842  842  842  842  842  842  842  842  842  842  842  842  842  842  842  842  842  842  842  842  842  842  842  842  842  842  842  842  842  842  842  842  842  842  842  842  842  842  842  842  842  842  842  842  842  842  842  842  842  842  842  842  842  842  842  842  842  842  842  842  842  842  842  842  842  842  842  842  842  842  842  842  842  842  842  842  842  842  842  842  842  842  842  842  842  842  842  842  842  842  842  842  842  842  842  842  842  842  842  842  842  842  842  842  842  842  842  842  842  842  842  842  842  842  842  842  842  842  842  842  842  842  842  842  842  842  842  842  842  842  842  842  842  842  842  842  842  842  842  842  842  842  842  842  842  842  842  842  842  842  842  842  842  842  842  842  842  842  842  842  842  842  842  842

**10月2日（木）ノバホール市民音楽祭** 開催時間＝10:00～20:00

開催場所＝つくば市ノバホール 大ホール&ホワイエ

入場制限など＝10:00～17:00までは0歳児から入場できます 未来に「つなぐ」室内音楽祭  
17:00～からは大人の時間帯で10歳以下お子様の入場はご遠慮下さい

出演演奏家をつくば市ホームページなどで募集中です（詳細はつくば市のホームページで）

音楽ジャンル＝クラシック、ポップス、ジャズ、吹奏楽、邦楽など

**10月3日（金）オープンカフェコンサート** 開催時間＝12:00～13:00

オープンカフェコンサート オークラフロンティアホテル カフェテリア「カメリア」

出演演奏家＝プロジャズピアニスト水岡のぶゆき(P) & CAMARU (Vo) センター地区の賑わいを「つなぐ」

**10月3日（金）シンポジウム** 開催時間＝14:00～16:30

テーマ「市民主体の音楽祭と音楽文化を考える」 アイラブつくば「まちづくり」補助金対象事業

開催場所＝つくば市アルスホール 開催内容＝パネリストによる講演とパネルディスカッション

参加ご希望の方は事前申し込みをお願い致します。定員になり次第、締め切ります

＜参加パネリスト＞

- 小美玉市 みの～れ兼アピオス館長・山口茂徳様、小美玉市・中本正樹様

住民主導の文化センターのありかた、作り方など講演

- 宮城県仙台市「定禅寺ジャズフェスティバル」前代表 佐々木和夫様

市民実行委員会形式の日本最大の音楽祭の作り方など講演

- 東北大学大学院経済学研究室 教授 福嶋 路様

「市民が作る音楽祭ネットワーク」調査プロジェクトの研究成果講演

- （株）ヤマハ「ヤマハの音マチプロジェクトリーダー」佐藤雅樹様

- つくば市 副市長 岡田久司様（開会挨拶、討論会参加）

- プロジャズピアニスト 水岡のぶゆき様（討論会参加）演奏家の立場から音楽祭への関わり方

- つくば まちかど音楽市場ネットワーク 代表 三浦一憲

総司会＝鈴木もえみ

コーディネーター＝奈良間英樹（つくば まちかど音楽市場）

つくばの音楽文化の未来を  
「つなぐ」重要なイベント

＜シンポジウム協賛・大人のための未来に「つなぐ」コンサート&ライブ＞

コンチネンタルディナーコンサート オークラフロンティアホテル11階（有料）

第1部 受付 17:00～ 食事 17:30～18:20 コンサート 18:30～19:15

第2部 受付 19:30～ 食事 20:00～20:50 コンサート 21:00～21:45

出演演奏家＝プロジャズピアニスト水岡のぶゆき(P) & CAMARU (Vo)

ご予約・問い合わせ：オークラフロンティアホテルつくば「カメリア」

ストリートプロジャズライブ（場所時間未定）デュオ「タロッシ」山本太郎（Cr）山田よしお（G）

**10月4日（土）街角ストリート音楽祭** 開催時間＝11:00～17:00

テーマ＝市民と音楽を街角で「つなぐ」のストリート音楽祭（シンポジウム関連企画）

開催場所＝センター地区ペDESTリアンデッキ、モニュメントプラザ（雨天ノバホール）

クレオスクエア協賛ステージ＝キュートと西武の間の音響ストリートステージ（雨天キュート屋根下）

出演バンド＝プロ和装系ロック「MYST」、桜川市ジャズセッション、めりーらんど、おひさま楽団  
うくれれキッド&マカマカ、尾崎亜美カバーバンド「TOPAZ」、謎の馬鹿rhythm怪し之東風旅団 他

3日間の出演者詳細、タイムテーブルは当日配布のプログラムに記載します

9月4日時点の出演者

詳細など「つくば まちかど音楽市場」のホームページで 検索エンジンで「つくばまちかど」でTOP検索

シンポジウム事前申し込み 及び 問い合わせ先＝実行委員代表

# 2014年10月2日 つくば市民音楽祭 2014

## ノバホール市民音楽祭「ノバチャレンジ！」タイムテーブル

|                | 大ホール                                          | ホワイエ                                |
|----------------|-----------------------------------------------|-------------------------------------|
| 11:00<br>11:30 | ママプラス blancoーブランコ<br>プラスバンド 30名               | チャレンジすることに意味がある<br>参加してみようジャズセッション  |
| 12:15<br>12:30 | 根木マリサ（ピアノ）<br>中井 伶（サクソ）                       | 荒巻信允（ギター弾き語り）<br>叙情歌、童謡など           |
| 12:30<br>13:00 | ヴァイオリン 石沢美都<br>「バイオリスト石沢美都」のHP有り              |                                     |
| 13:00<br>14:00 | ピアノ連弾、ピアノソロ その他                               | 水岡のぶゆき&CAMARU<br>ジャズデュオ 13:00~13:45 |
| 14:00<br>15:00 | アンナ・スタルノフスカヤ（ヴァイオリン）<br>桜井 七重（ピアノ）            | チャレンジ・ジャズセッション<br>13:50~15:00       |
| 15:00<br>15:30 | 水上喜子（ギター演奏、弾き語り）<br>オリジナル、童謡、叙情歌など            | ホスト=水岡のぶゆき（P）<br>（B）塚本澄夫（Sax）       |
| 15:30<br>16:00 | 野末あけみ（ヴァイオリン）<br>城戸春子（チェロ）山口泉恵（ピアノ）           |                                     |
| 16:00<br>16:30 | 山下明裕（ピアノ） ポップス                                | 荒巻信允（ギター弾き語り）<br>叙情歌、童謡など           |
| 16:30<br>17:00 | 休憩                                            |                                     |
| 17:00<br>17:45 | 北村さおり（ピアノ）                                    |                                     |
| 17:45<br>18:30 | 『木曜の月』塚本英之（ピアノ弾き語り）<br>ヨッコ（ヴォーカル）リンコ（パーカッション） | チャレンジすることに意味がある<br>参加してみようジャズセッション  |
| 18:30<br>19:20 | クレイグ・コールマン（ヴァイオリン）<br>森 伸子（ピアノ）               | チャレンジ・ジャズセッション<br>18:30~愛田美樹（Vo）    |
| 19:20<br>20:30 | 柴藤淳子（ピアノ）他<br>ヴァイオリン、ピオラ                      | ホスト= （B）<br>塚本澄夫（Sax）               |

### ノバチャレンジ！ つくば市民音楽祭は演奏家応援します

世界的な音響空間を有する「ノバホール」「ホワイエ」で演奏してみたい！自分の音を確認してみたい！表現してみたい！チャレンジしてみたい！技術を磨きたい！などそんな演奏家を応援します。つくば市民、在勤者が基本ですが空いた枠に他市の演奏家も入ることができます。プロ、アマ問いません。観客の皆様も多様なジャンルの演奏を気楽に楽しんで演奏家、音楽文化へのご支援、ご理解をよろしくお願いいたします。 つくば市民音楽祭実行委員会

## (2) 3 回目の音楽祭へ向けて

つくば市民音楽祭 2014 を終え、反省会が催されました。

まずは市民音楽祭関係者で集まり、基本的には音楽祭を継続する方向で進めること、関係者で「市民音楽祭の在り方」勉強会と称し月 1 回のペースで集まり、平成 26 年度の総括と平成 27 年度へ向けてのアクションへの準備を進めました。

### ＜「市民音楽祭の在り方」勉強会の主な内容＞

|                                                                                                                                            |
|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| <b>○在り方勉強会 趣旨</b><br>平成 26 年 10 月に行われたつくば市民音楽祭 2014 の開催を踏まえ、主につくばセンター地区における、市民協働による持続的な音楽祭の在り方について議論し、平成 27 年以降のつくば市民音楽祭の方向性を検討することを目的とする。 |
| <b>◆在り方勉強会準備会(反省会):平成 26 年 11 月 20 日</b><br>・つくば市民音楽祭 2014 総括<br>・2014 アンケートの分析、課題抽出<br>・ブレインストーミングによる市民音楽祭の方向性を議論                         |
| <b>◆第一回勉強会:平成 26 年 12 月 18 日</b><br>・準備会での整理事項の確認<br>・進捗状況の報告<br>・市民音楽祭ビジョンの明確化                                                            |
| <b>◆第二回勉強会:平成 27 年 1 月 29 日</b><br>・進捗状況の確認<br>・市民音楽祭ビジョンの確認<br>・先進事例を参考とした運営組織の組成検討ならびに関係者の役割検討<br>・集客方策について議論、具合的方策の検討                   |
| <b>◆第三回勉強会:平成 27 年 2 月 18 日</b><br>・進捗状況の確認<br>・全体整理<br>・平成 27 年計画概要の報告および議論                                                               |

「市民音楽祭の在り方」勉強会は準備会という名の反省会も含め、4 回実施しました。

### ○課題はたくさん…だが

つくば市民音楽祭 2014 を実行した事により、かねてからの課題であった集客や広報の問題や、運営組織の問題、情報の共有化の問題などなど、様々な事が浮き彫りになりました。これまでまちかど音楽市場三浦氏一人の頭の中で考えられてきた音楽祭をより組織的に運営して行くために色々な“やり方の変革”が必要である事を感じていました。次回の音楽祭へ向け、解決のた

めに一つ一つ考えて行かなければならない所でしたが、もっとも根本的な課題は、実行委員として参加している方々あるいは組織の“方向性”や“立ち位置”がバラバラである事でした。まずは市民音楽祭の『コンセプト』を考えつつ、実行委員の方向性を一つにまとめる事が先決と考えました。

### ＜市民音楽祭における実行委員それぞれのミッションまたは目的＞

○実行委員サイドの組織、団体が音楽祭に求めること

#### 【市民】

- ・子どもの教育、観客の教育（音楽をより知ってもらう、触れる場を提供する）
- ・演奏家の教育（演奏家になりたい気持ちを育てる、演奏技術を高める、“観客を育てる”視点を持ってもらう）

#### 【まちかど音楽市場】

- ・音楽の文化を追求、発信
- ・市民ボランティア活動として
- ・音楽家は市外の方でも OK

#### 【都市交通センター】

- ・賑わい創出（センター地区）
- ・若手の演奏家の活動の場
- ・活性化協議会→会員企業へ賑わい波及
- ・人が集まる、何かが常にある→ツールとしての音楽祭

#### 【文化振興財団】

- ・市民の芸術・文化活動の振興に役立っていく、活動の支援  
→市民が心豊かに

#### 【つくば市】

- ・文化・芸術の振興
- ・ノバホールの利用（現在 80%→100%へ近づけたい）
- ・地域づくり、まち育て

※第一回「市民音楽祭の在り方」勉強会 議事録より抜粋

まず、各組織が考えている音楽祭の目的あるいはミッションについて、それぞれに「語ってもらう」ことからスタートしました。

こうして文字に記すと、どの目的・ミッションも間違っていないし、方向性としてもおかしいとは感じません。しかし、微かな表現の違いや優先としたいミッション、あるいはボランティアでの参加か仕事としての参加か、といった議論もあり、いくつかのトレードオフとなるような事象が散見され、これが思いのほか大きな溝となってしまっていました。この“方向性”をま

とめるに当たっては議論が紛糾し、それぞれに熱意があるだけに、一時、陰悪な雰囲気にもなりました。

会議のまとめ役として参加していた筆者は、この議論が紛糾することを事前に予期していたところもあり、チームの合意形成のために次のようなステップで進める事を考えました。

1. 各自のミッション、目的を発表してもらう（情報の見える化と共有化、上記表の内容）
2. 1 の内容をベースに自由に議論してもらう（ある程度紛糾することが前提、気持ちの吐き出しが目的）
3. 文字による情報と議論による気持ちの吐露から得られる情報のキーワード化
4. 3 の内容から各自の共通事項のピックアップ
5. ピックアップした共通事項が共通事項である認識をその場で共有し、共通事項を達成する事を一つの“方向性”とする事を宣言
6. “方向性”の宣言について納得感の確認
7. その他憂慮事項についてのケア

本件では議論をして行く中で、どの方々も“音楽を楽しもう”、“地域の資源をもっと活用しよう”と言う考えを根底に持っている事に気がつき、この2点を「共通事項」として考えて話を進めることで、この後の「ビジョンの作成」につなげてゆく事ができました。

とりまとめの際に重要と考えた事は、皆で合意形成しその情報を共有する事と、その他憂慮事項についてのケアをするという事でした。今回の「憂慮事項」は、「ボランティア（市民として）の参加か、仕事としての参加か」と言う部分でしたが、現状では市民活動だけではやっていけないため、“仕事でやっている人”も”ボランティア”も一緒に創っていく「市民協働」とし、将来的には「市民主導」に変化させていく、参加団体もそのように考えている、と言う事を伝え、納得して頂く事ができました。言い方が悪いかもしれませんが、「拘っている」部分を少しでも納得してもらいながら、大きな部分では皆が納得し合意できる方向性を決めて向かっていく、と言う事が重要ではないかと考えました。

## ○ビジョンの方向性

会議において見える化したそれぞれのミッションと、議論によって出てきた内容をベースに、つくば市民音楽祭 2015 のビジョンの方向性として 4 つのキーワードにまとめました。

**つくば市民音楽祭 2015 のビジョンの方向性**  
**“身近”、“演奏者と観客の双方向”、**  
**“コミュニティづくり・賑わいづくり”、“つなげる”**

少々“いいとこ取り”のような気もしますが、平成 27 年度の音楽祭の方向性が決まりました。

方向性が決まると色々な議論も比較的円滑に進める事ができるようになりました。時折発生する問題も、合意形成の際の状況を確認しつつ進めると、とりあえず納得し先に進む事ができました。改めて初めに方向性を決めておく事の重要性を感じました。

## ○その他の課題

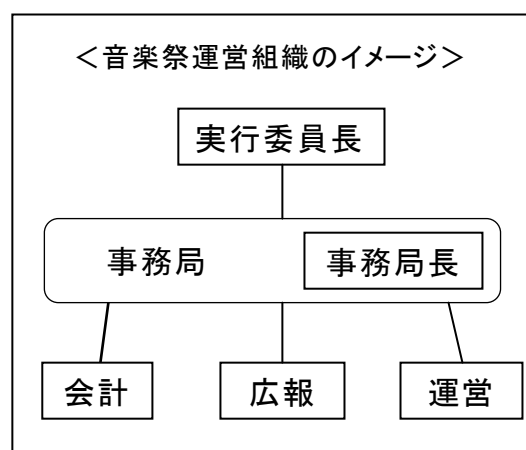
この音楽祭には他にもたくさんの課題がありました。概ね以下の 4 点です。

- ・情報の共有化
- ・組織形態の構築と役割分担
- ・人材の発掘と育成
- ・広報、集客の問題

組織形態はシンポジウムでの「定禅寺ジャズ・フェスティバル」の発表などを参考とし、右記のようなシンプルな組織形態とする事にしました。

また、その他の課題を解決するために、これまでの実行委員メンバーなら

びにメンバーの知人友人による新規参加者を交えて、次回の音楽祭としてどうあるべきか、どのようにすすめるべきかを議論する“茶話会”を開催することになりました。この“茶話会”の開催が、次の音楽祭への実質的なスタートとなりました。



### (3)『音の宝箱』始動！

平成 27 年度の音楽祭へ具体的に動き出すために、音楽祭に対するご意見を伺いながら一緒に活動して頂ける仲間を増やしていくための会として、“茶話会”を開催しました。これまで勉強会で実施してきた方向性とビジョンをベースに、意見を交えつつ少しずつ具体化していきました。

新たな参加メンバーは演奏家の方々や前音楽祭のシンポジウムにご参加頂いた方など、さらに多様性を増し、色々な視点で話し合いがなされました。

#### ＜茶話会の主な内容＞

|                                                                                                                                                                        |
|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| <p>◆第 1 回茶話会：平成 27 年 3 月 12 日</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・つくば市民音楽祭 2014 総括について聞き取り</li> <li>・音楽祭に関する課題抽出および意見交換</li> </ul>                             |
| <p>◆第 2 回茶話会：平成 27 年 4 月 9 日</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・音楽祭の名称（「音の宝箱・つくば2015」に決定）</li> <li>・プログラム構成について</li> </ul>                                    |
| <p>◆第 3 回茶話会：平成 27 年 5 月 14 日</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・プログラム構成について</li> <li>・進捗状況の報告</li> <li>・組織名称を「音の宝箱・つくば企画運営会議」と決定</li> </ul>                  |
| <p>◆第 4 回茶話会：平成 27 年 6 月 11 日</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・進捗状況の確認</li> <li>・プログラム構成について（主にノバホール午後の部）</li> <li>・役割分担について</li> <li>・広報活動について</li> </ul>  |
| <p>◆第 5 回茶話会：平成 27 年 7 月 8 日</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・進捗状況の報告</li> <li>・プログラム構成について</li> <li>・広報活動について（主にチラシ・ポスターについて）</li> <li>・役割分担の決定</li> </ul> |
| <p>◆第 6 回茶話会：平成 27 年 8 月 6 日</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・進捗状況の報告</li> <li>・チラシの内容について</li> <li>・その他広報活動について</li> <li>・広報活動スケジュールの決定</li> </ul>         |
| <p>◆第 7 回茶話会：平成 27 年 9 月 3 日</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・進捗状況の報告</li> <li>・広報活動について</li> <li>・音楽祭当日の運営とスケジュールについて</li> </ul>                           |

## ○タイトルの検討

茶話会の一番初めに決めねばならなかったことは、音楽祭の“タイトル”でした。これまで「つくば市民音楽祭」としていたタイトルは、つくば市内で開催されている「つくば市民文化祭」と混同される恐れがあるとの指摘から、インパクトのある別の名称に変更することになりました。様々な議論の末、本音楽祭のタイトルを「音の宝箱・つくば」とし、開催場所であるつくばセンターの名称も入れ、平成27年度の音楽祭を「音の宝箱・つくば2015～センター音楽フェスティバル～」と決めました。また、前年度の議論で決定していた、キーワードをベースに「音の宝箱・つくば2015 ビジョン」として、改めて下記のように決定しました。

### 音の宝箱・つくば2015 ～センター音楽フェスティバル～ ビジョン

つなぐ — 身近なところで、演奏者と観客が音楽を互いに楽しみ、  
学びあうとともに、賑わいづくり、コミュニティづくりを行う。 —

茶話会は全7回実施し、参加メンバーを「音の宝箱・つくば企画運営会議」として毎月の茶話会を実質的な決定機関として機能させていきました。プログラム内容の決定やチラシ・ポスターのデザイン決定、音楽祭の方向性など、様々な具体的な事について意見を交わしながら決めてゆき、着々と準備をすすめました。これまでの2回の音楽祭に比べて、準備は整っているものの、開催1ヶ月前になるとやはりバタバタとなっていました。チラシの配布準備や当日配布用のプログラムの作製、プログラム作製のための参加アーティストの情報取りまとめや各種保険の手配など、目を配るべきところは多岐に渡りました。会計や公的機関への申請、協賛金の対外交渉業務など事務的な部分一切を交通センター井上氏が一手に引き受けてくれたおかげで事無きを得ていました。また、アーティストとのやり取りをまちかど音楽市場 三浦氏がそのネットワーク力で対応してくれたおかげで形になりました。筑波学院大学 デザイン研究室 高島先生と学生のご協力により、素敵なデザインのポスター・チラシが出来上がりました。

他にも、気が付かない事、経験がない事を各メンバーが助言してくれたり、必要な書類などを提供してくれたりと言った事で“音楽祭の体”を作ることができました。まさに色々な経験をされている人々が集まったことで出来た“組織”としての機能が少なからず発揮されたと改めて思います。

## ＜音の宝箱・つくば 2015 行動内容＞

| 項目         | 実行時期                                                                                                                                 |
|------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 演奏家募集等     | 5/中 演奏者決定<br>9/1 ノバチャレンジ募集開始<br>9/1 バックステージツアー募集                                                                                     |
| 協賛金関連      | 7 月 7 社に対し協賛金の依頼                                                                                                                     |
| 各種申請等      | 7/1 つくば市後援申請<br>7/1 つくば文化振興財団支援事業申請<br>7/1 つくば市教育委員会後援名義使用申請<br>7/1 つくば都市交通センター後援依頼申請<br>7/1 つくばセンター地区活性化協議会 後援依頼申請<br>9/29 道路使用許可申請 |
| 広報・ポスター作製等 | 8/中 チラシ印刷<br>8/20 FBページ開設<br>9/初 ポスター印刷<br>9/初 チラシ増刷<br>9/下 プログラム印刷                                                                  |
| その他        | 8/下 社会福祉協議会ボランティア申請<br>8/下 ボランティア保険加入申請<br>9/上 損害保険手続き                                                                               |

#### (4)『音の宝箱・つくば 2015』開催！

##### ○初日、ノバホール

開催当日。

10月1日（木）の天気は曇のち雨。午前中はママブラス ブランコさんの演奏とゴスペルクワイア ゼンさんの演奏。ママブラスさんの演奏は多く



のお客様が“目当て”にしてくることもあり、比較的多くの方がお見えになってくれました。しかし、1000人規模のホールを埋めるにはまだ足

りませんでした。また、ママブラスさんの演奏からゼンさんへの演奏の切れ目が30分となってしまったことで、かなり多くのお客様が帰ってしまった事は、非常に残念であり、切れ目時間の短縮または別途のイベントなどの工夫が必要と感じました。



午後は“バックステージツアー”と“ノバチャレンジ”。バックステージツアーではノバホールの歴史や成り立ちなどを知って頂きつつ、ホールの“音響効果”を体感。可変音響設備を稼働させ、音の響かせ方の変化を感じてもらうツアーです。このツアーは非常に満足度が高く、取り組みとしては功を奏したと感じています。ノバホール館長のアテンドも満足度に拍車をかけていました。



また“ノバチャレンジ”では6組のアーティストが参加し演奏しました。参加者によるレベルの差はありましたが、そこは織り込み済みです。あるシニアの参加者は生涯学習でピアノを始め、ノバホールでの演奏に参加。ご自身で動画も撮影し、記念に残されたとの事で本当に良かったと思います。他にもプロの演奏もあり、とても素晴らしい内容となった。

ノバホール夜の部は茗溪学園吹奏楽部によるアンサンブル、ホワイエでのマリンバ&パーカッションの演奏、トリオゼフィールによるクラシックと質の高い演奏を提供することができました。本当に3者とも素晴らしい演奏であったのですが、やはり観客の少なさが課題として残されました。



また、今回はトリオのステージリハーサルも見据え、マリンバ演奏をホワイエで開催。その後ホールへ誘導する予定でしたが、マリンバの余韻とスタッフによる誘導のまずさから、トリオの方々には本当に素晴らしい演奏をして頂いたにもかかわらず、ホールのクラ

シック演奏への誘導があまり進みませんでした。これも大きな課題となりました。

#### ＜ノバホール 課題まとめ＞

| ノバホール                                              | ポイント、課題                                                                                      |
|----------------------------------------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------|
| ＜午前＞<br>ママブラス<br>ゴスペルクワイアゼン                        | ・ママブラスファンが多い<br>・ステージチェンジに時間がかかりすぎた<br>・最後まで残る観客が少なくなってしまった                                  |
| ＜午後＞<br>バックステージツアー<br>ノバチャレンジ                      | ・ツアーの満足度は高い、反面、もっと集客ができた可能性も高い<br>・ノバチャレンジは“意図通り”。観客が増えればなお良し                                |
| ＜夜＞<br>茗溪学園アンサンブル<br>マリンバ&パーカッション<br>トリオゼフィールクラシック | ・茗溪学園を聞きに来た観客が多い<br>・マリンバ(ホワイエでの演奏)からトリオ(ホールでの演奏)での観客の誘導(移動)が困難であった。<br>・演奏はどの組も素晴らしいものであった。 |
| その他                                                | ・集客はまだまだ頑張れる<br>・夜、仕事帰りの方々の集客はどうか<br>・ベビーカー置き場の設置などお子様連れの観客に配慮                               |

「ノバホール」と言う建物内での音楽祭であり、通りがかりの観客を呼び込むことは難しい、当日の天気も手伝い客足が今一つであった事も否めない。とはいえ、やはりママブラスや茗溪学園の集客力は素晴らしく、演奏への期待感が高い事も見て取れました。どの演奏も



みな素晴らしかったのですが、特に「マリンバ&パーカッション」の演奏は観客を巻き込み、とても感動しました。

続く「トリオ ゼフィール」のクラシック演奏も、本当にクオリティの高い



演奏をして頂きました。地元のプロの演奏に無料で触れて頂ける機会であったのですが、そこに多くの人を誘導できなかったことは本当に残念です。

各演奏家とも本当にレベルの高い演奏であるので、人的ネットワークをもっと創る事ができれば、集客もできるのかもしれないと思います。

今回のノバホールでのイベントは3つの時間帯にわけてそれぞれ異なる目的・ねらいを設けていました。午前中は「お子様連れでも気兼ねなく参加して音楽を楽しんで欲しい」。午後は「“おらがまち”のコンサートホールをもっと知ってもらいたい、もっと親しんでもらいたい」。そして夜は「本格的な音楽に触れ、楽しんで欲しい」。この3つのねらいに基づいて、プログラムを構成しました。一つの“ノバホール”というコンサートホールの使い方を様々な角度で試してみた、という形でしょうか。観客が少ないながらも、このねらいは良い方向性であったと感じています。そして今後、更に色々な切り口でこのコンサートホールを利用していけると面白いという気もしています。個人的にも楽しみです。

## 〇2日目、屋外ライブ

10月4日は屋外ライブ。初日の天気とは打って変わり、晴天に恵まれた2日目。当日は朝から機材の搬送などを行いセッティングを行い、11時から演奏開始です。通りすがりの方々なども入り、観客は少しずつ増え、前回と比べて賑わいを見せました。内容は、男性ソプラノソロからビックバンドまで多岐にわたり、各アーティストとも見ごたえ、聴き応えのある演奏を演じてくれました。



今回の屋外ライブは前回の課題であった「ステージチェンジ時間で間を開けない」工夫をするため、近くに設置した2つのステージで交互に演奏する2ステージ制として間を開けない工夫をしました。

しかし、この2ステージ法はステージチェンジ毎に観客に席を移動して頂く事を強いてしまうため、スムーズにご移動頂き両ステージが同じように賑わうという状況が作れず、また運営側もステージチェンジでもたつくなど別の課題も出てきました。

また、途中学生が運用しているステージでセッティング不具合により中断するという事態発生。30分に渡りステージが遅延すると言う運営上非常に大きな問題が発生しました。

### <屋外ライブ 課題まとめ>

|       | 課題                                                                                                                                                                                       |
|-------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 屋外ライブ | <ul style="list-style-type: none"> <li>・2ステージ交互演奏を実行したが、それぞれの音出しリハは他ステージに影響する</li> <li>・ステージチェンジで少々バタついた。</li> <li>・ステージチェンジによる観客の移動はかなり困難</li> <li>・後半のステージ遅延は問題、根本的な対策検討が必須</li> </ul> |
| その他   | <ul style="list-style-type: none"> <li>・運営のレベルアップが必要と感じる</li> </ul>                                                                                                                      |

音楽祭が終了すると毎回思う事、それは参加アーティストの演奏は本当に素晴らしいが、それに見合う観客動員ができないと言う事。ここがいつも悩みの種です。それでも、屋外ライブでは通りがかりの方々が足を止めて聞いていって下さり、(まだまだとは言え) そこそこの賑わいを創る事ができたと感じており、年々少しずつですが聴いてもらえる音楽祭になってきていると感じます。



また屋外ライブでのトラブル、ステージの遅延やステージチェンジのバタつきなどは、根本的な対策を行う必要があります。演奏家に参加頂き、観客を更に集めるには、運営側の質も高める必要があると感じました。

### ＜音の宝箱・つくば 2015 基本情報＞

|             |                                                                                                  |
|-------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 【タイトル】      | 音の宝箱つくば 2015 ～センター音楽フェスティバル～                                                                     |
| 【日時】        | 平成 27 年 10 月 1 日（木）、4 日（日）                                                                       |
| 【主催】        | 音の宝箱・つくば企画運営会議                                                                                   |
| 【共催】        | 公益財団法人つくば文化振興財団                                                                                  |
| 【後援】        | つくば市、つくば市教育委員会、一般財団法人つくば都市交通センター、つくばセンター地区活性化協議会                                                 |
| 【協力】        | つくばまちかど音楽市場ネットワーク、東京ビジュアルアーツ、つくば市商工会、筑波学院大学、(株)常陽リビング社、常陽新聞(株)、ラヂオつくば、情報誌「つくまる」、シニアふるさと通信、B-LIFE |
| 【協賛】        | 筑波都市整備(株)、一般財団法人研究学園都市コミュニティケーブルサービス、オークラフロンティアホテルつくば、つくば市金融団、株式会社 UR リンケージ、ミサワホーム東関東株式会社        |
| 【開催場所および内容】 | <p>1 日：ノバホール</p> <p>4 日：つくばセンター広場 屋外ライブ</p>                                                      |
| 【ヒト】        | 運営会議メンバー、東京ビジュアルアーツ学生ボランティアほか                                                                    |
| 【モノ】        | つくば・まちかど音楽市場（音響機材）、活性化協議会（音響機材、テント、イス等）、文化振興財団（レシーバー）、ミュージックプラント（音響機材）ほか                         |
| 【カネ】        | <p>収入：文化振興財団助成金、企業による協賛金</p> <p>支出：ホール会場費、アーティスト等謝金、ほか</p>                                       |

# 音の宝箱つくば2015

## ～センター音楽フェスティバル～

### 音楽で人をつなぐ音楽祭!

地域、ジャンル、年齢、性別を超えて音楽で人をつなぐ。  
つくばから音楽を通して未来の音楽文化を創造する音楽祭!  
市民ボランティアが主体となり、文化財団、地域企業と協力して開催します。素敵な演奏のほか、参加型イベントのバックステージツアーやノバチャレンジ、屋外での迫力あるライブなど盛りだくさんの内容で皆様のご参加をお待ちしております。

～入場無料・雨天決行～

**10月1日(木)**

ノバホール

大ホール&ホワイエ

10:30 ~ 21:00

**10月4日(日)**

センター広場 屋外ライブ

11:00 ~ 17:00

【主催】音の宝箱・つくば 企画運営  
会議(代表 鶴田昭則)

【共催】(公財)つくば文化振興財団

【後援】つくば市、つくば市教育委員会、  
(一財)つくば都市交通センター、  
つくばセンター地区活性化協議会

【協力】つくばまちかど音楽市場ネットワーク、  
東京ビジュアルアーツ、つくば市商工会、  
筑波学院大学、(株)常陽リビング、  
常陽新聞(株)、ラデオつくば、  
情報誌「つくまる」、シニアふるさと通信、  
B-LIFE

デザイン筑波学院大学デザイン研究、田中誠一



# 音の宝箱 つくば2015 ～ センター音楽フェスティバル ～ プログラム

**10/1(木)**

10:30～21:00

会場：ノバホール  
大ホール&ホワイエ

**午前の部 10:30～**

「0歳から入場できるコンサート」

演奏者：ママプラスblanco  
ゴスペル クワイヤ ゼン

**午後の部 13:00～**

「ラジカセ・バックステージツアー」

ラジカセ音源による大ホール、  
ホワイエの聴き比べ

解説・案内 ノバホール館長

「ノバチャレンジ」

ノバホールで演奏してみよう！

**夜の部 18:00～**

大ホール「吹奏楽アンサンブル」

茗溪学園吹奏楽部

ホワイエ「マリンバアンサンブル」

マリンバ：石橋亜矢子・阿部直子

大ホール・ホワイエ  
「演奏者と聴衆の交流」

演奏者：トリオ・ゼフィール  
ヴァイオリン：山田圭子  
チェロ：松永みづほ  
ピアノ：榊原道子

**10/4(日)**

11:00～17:00

会場：センター広場

モニュメントステージとフォーラムステージの交互演奏

**演奏者**

水岡のぶゆき&CAMARU  
(ジャズコンボ)

MYST  
(和装系ロックバンド)

DENSHI JISION  
(理系エンターテインメントバンド)

ソプラノ君  
(男性ソプラニスト)

スイングバックス  
(ビッグバンドジャズ)

サウンドガジェット  
(ビッグバンドジャズ)

地域密着ケンニイバンド  
(オリジナルポップロック)

ざぶとんず  
(ラテンポップス)

TOPAZ  
(昭和歌謡)

The Blues Blisters  
(ブルースバンド)

水上喜子めりーらんど  
(オリジナル叙情歌弾き語り)

出演順ではありません。詳細は当日のタイムテーブルをご覧ください。

【協賛】 筑波都市整備株式会社  
(一財) 研究学園都市コミュニティケーブルサービス  
オークラフロンティアホテルつくば  
つくば市金融団  
株式会社URリンケージ  
ミサワホーム東関東株式会社

お問い合わせは 音の宝箱・つくば企画運営会議  
music@socialvitamin.co.jp

## 第二章 事例3

[illegible]

## (5) 『音の宝箱・つくば 2015』の総括と次回への課題

音の宝箱・つくば 2015 の終了後、10 月 29 日に反省会を実施しました。反省会では様々な意見が出され音楽祭の課題だけでなく、組織の在り方についても意見がでました。

### <反省会 主な意見>

○10 月 1 日ノバホール

【AM】

プログラム構成を考える、2 組目の関連性、シニアへの PR

【PM】

・ノバチャレンジ:コンセプト・目的を説明、事前情報の発信(演奏時間など)

事前対応、電話受付など

・バックステージツアー

宣伝が圧倒的に足りない、運営の検討(時間の延長、人員の増加、生演奏など)非日常の体験

【夜の部】

開催時間の検討、間の問題、演奏場所の問題、客の誘導の問題

スタッフの意識と声掛け不足

○10 月 4 日屋外ライブ

【ステージの場所について】

ペDESTリアンでの実施検討(上の方が集まりやすいか)

地元アーティストだけ呼ぶと同じ顔ぶれとなってしまう、他イベントとの差別化

【進行について】

進行の遅れの問題、スタッフレベルの低さ、アーティスト・客の要望を理解していない

インターンシップの問題、プロの演奏相手にインターンはどうなのか？

○全体で

野外→面白い仕掛け、学生を使うとか→活かし、うまく繋いでゆく

ノバホール→どうやって人を連れてくるか？思い入れだけでなく、整理必要

ノバで借りていた駐車場を使われてしまった。人の配置が必要か

1F 入り口の確保、トラブルの時対応の明確化

音楽祭を開くときのビジョン、コンセプトからつめて広げてゆく

組織として誰が何をやるのか？担当は？全員で取り組むべきところは？

プロの力をプロとして使う感覚が必要、メンバー間で予算が共有化できていない

【その他】

ノバとライブでコンセプトを明確にしないといけない

2 日目はサイズダウンしてしっかりとやる

メンバーの立ち位置が中途半端→誰が実行委員で誰がゲストなのか

演奏家としてこうしたほうがいいのか、主催としてこうしたほうがいいのか

準実行委員、オブザーバー的な感覚がある

差し障りがあることとメリットの整理

一般市民のボランティアを増やす

他のイベントをやっている日にやって集客する

茶話会を大掛かりに開いて手を上げてもらう→どんな音楽祭がいいか

企画と当日手伝いは分けておく→意思表示をしてもらう→最終打ち合わせ

コンパクトにする→今日はホワイエ、とか絞ったほうがいいのか

## ○新たな組織形態を考える

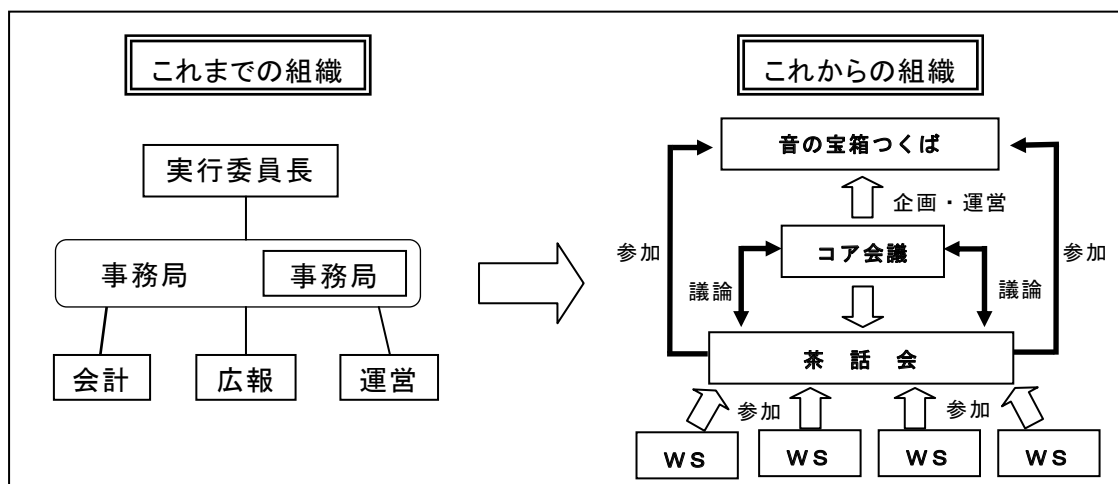
茶話会から変化した“企画運営会議”には事務局担当者やサポート組織のメンバー、さらには演奏家の方や司会の方など、様々なメンバーに加わって頂いて、方向性を構築し実行へと持っていきました。

しかし、反省会では、このイベントの“主体”がわからないという話題にもなり、より中核となるメンバーによる方針決定と実行、またその中核メンバーとその活動を支え、共に協力して頂く方々の集まりを作ることにより、責任の明確化や組織の継続性を高めることができるのではないかと考えています。

また、メンバーとして正に中核であり、この音楽祭の生みの親でもあるまちかど音楽市場 三浦氏が、本業へ集中したいとの事で離脱することになったことで、今後まさに継続性のある新たな組織体制を組み上げる必要が出てきました。将来的に、都市交通センター等によるバックアップから“市民活動”への移行も視野に入れた取り組みへと変容する必要性が、早くも具体化して来たのです。

当面の組織の方向性としては、音楽祭の企画・運営の中核となる“コア会議”を創り、具体的な方向性や会計・広報などを実施する。従来の“茶話会”は継続し、より気軽に、より広く様々な方々に参加して頂き、音楽祭について幅広く意見を頂ける場として活用していく。また茶話会への誘導として、テーマ別のワークショップ（WS）を数回開催し、音楽祭について共に考えて頂きながら、関わり合う場を積極的に創りだし、興味を持って頂ければと思っています。

### <これまでの組織図とこれからの組織図のイメージ>



## ○広報・集客活動について

前音楽祭では新たに専用のフェイスブックページを設立し情報発信を行いました。

情報発信力としてはまだ弱いのですが、発信する情報の内容やつくば地域での音楽情報など積極的に発信していく必要があるかと思います。またそのための作業協力者も必要であるので、前述の組織構築の中で仲間を増やして行きたいと思っています。

また広報・集客はなにより人から人への口コミが最も強力なツールと成りえるので、仲間を増やす、情報を発信する、と言う2点を重点とし、チラシやその他ツールを用いながら参加者が「毎年増してゆく」様に継続したいと思っています。

## ○組織の構築と運営について —筆者の考察—

音の宝箱の組織運営は、多くの方々の力を借りるために、コア会議、茶話会、ワークショップと様々な形に変化してゆく方向にあります。しかし、多様化する組織の中で、“ブレない軸”が必要になるのではないかと考えています。それが本来あるべき“ビジョン”の役割なのだと思います。

さらに、今後は市民活動としての“自立”も視野に入れる必要があります、色々な事を考えながら、継続的に活動ができる組織に成長する必要性が出てきました。筆者がたまたま、『ドラッカー学会』と言う会で色々な方々から学ばせて頂いてる事もあり、この「音の宝箱」の今後の組織づくりに、ドラッカーの組織運営の考え方を少しだけ入れてみてはどうかと考えました。

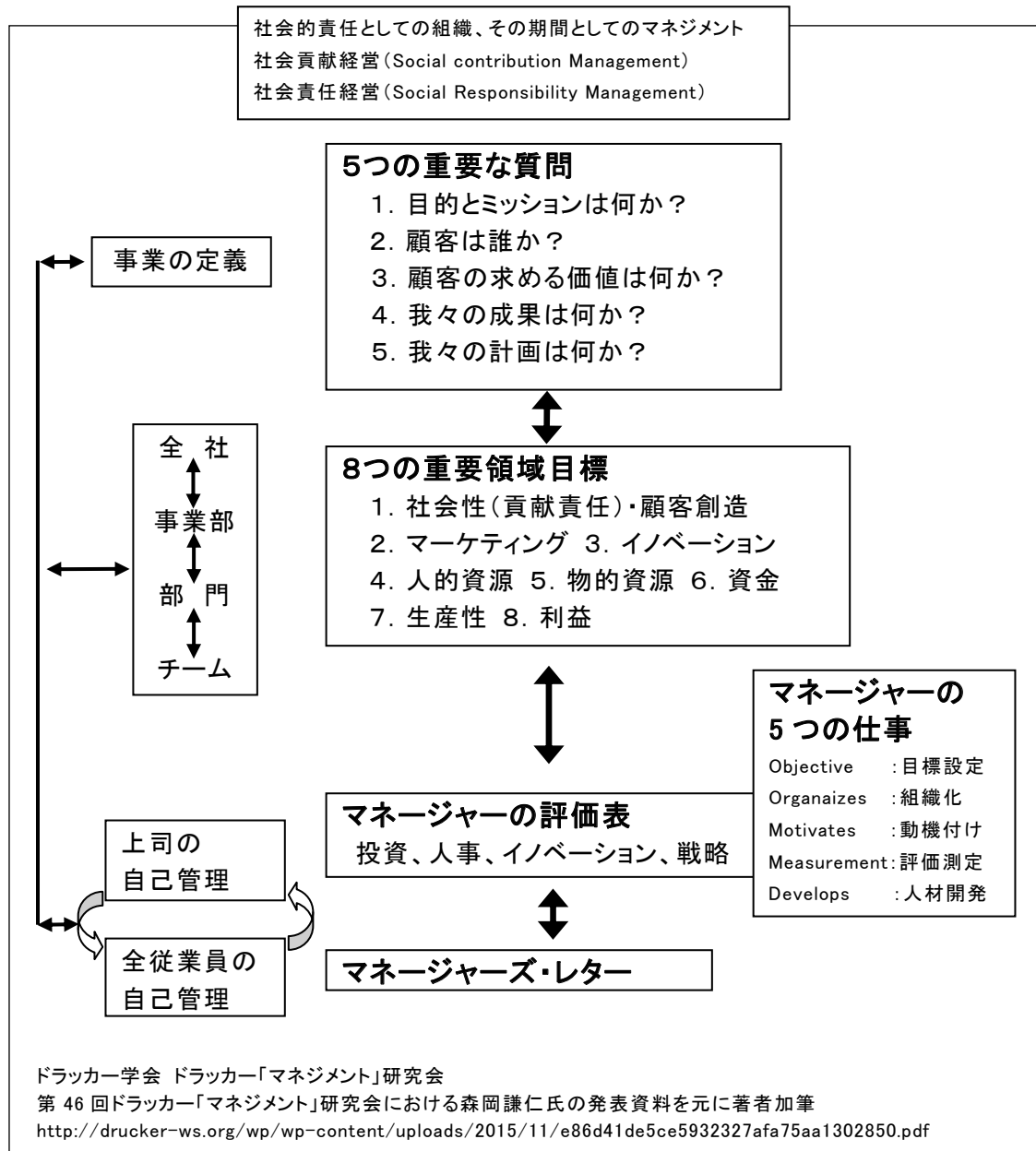
P・F・ドラッカー（以下、ドラッカーと表記）は『マネジメントの父』と称される方であり、経営や社会学的な見地での書籍を多数執筆された方で、経営者のみならず、多くの方々がドラッカーの考え方を活用して組織運営をされています。

少々突飛な話かもしれませんが、少し「考察」も兼ね、「音の宝箱・つくば」を一つの“組織”と考えてみたいと思います。

ドラッカーは組織の自己評価をするために「マネジメント・スコアカード」と言うものを考え、自らも企業のコンサルティングにおいて活用していたと言われています。ここではこの「マネジメント・スコアカード」（以下、MSCと表記）を使って考えていきたいと思っています

### マネジメント・スコアカード(MSC とは)

定義:ドラッカーが説いたマネジメントの活用を支援すると共に、その成果を評価する体系(システム)であり、組織の健康診断ツールとも言えるものである。



「5つの重要な質問」で事業の定義を考え、「8つの重要領域目標」で具体的な戦略へ落とし込みます。

このMSCをベースに考えてみると、例えば我々は顧客目線で音楽祭を開催できていただろうか、我々はどのような価値を提供できたか、と考えられるわけです。演奏家視点での音楽祭とは、観客から見た音楽祭はどうか、この視点をもっと考えて行く必要があります、その先には顧客の求める価値がど

のような事で、我々がどの様にその価値を提供できるのかを考える必要があるのだと思います。

また、ヒト、モノ、カネの要素を含む「8つの重要領域目標」についても今後の「市民主導」の自立した音楽祭として進化するためには、見据えなければならぬ部分となります。

ここでは、音の宝箱における「5つの重要な重要な質問」について考えてみたいと思います。

## 1. 目的とミッションは何か？

『音楽で人をつなぎ、街の音楽祭へと成長する事』

音の宝箱は音楽で人を“つなぐ”ことを大きなビジョンとしています。

音楽でつながる様々な方々に参加して頂きながら、多くの人に毎年楽しみにして頂けるような、街になくてはならない音楽祭へ成長してゆく事がミッションの様な気がしています。

## 2. 顧客は誰か？

『つくば市民、音楽家、協力関係者・ボランティア等すべての参加者』

音の宝箱における顧客は、先ずは観客たるつくば市民だと思います。しかし、観客として参加していない市民も「潜在的な顧客」として考え続けていきたいと思っています。また音楽祭で演奏家として参加して頂く音楽家の方々も顧客だと思います。運営などに協力して頂く方、ボランティアでの参加の方もある意味で顧客と言えると思っています。

## 3. 顧客の求める価値は何か？

|        |                     |
|--------|---------------------|
| 『つくば市民 | : 他とは違う楽しく、質の高い音楽   |
| 音楽家    | : 自分の音楽を発信できる場      |
| 協力者    | : 関わるに値する質の良い取り組み   |
| 全体として  | : 関わった方々が共に成長できる場 』 |

2において、顧客が大きく3者おりましたので、3通りの“価値”があると思いました。また全体としてこのような価値を提供できたら、と言う筆者の思いも込めて4つの価値をあげてみました。顧客の価値は顧客の立場が変われば、求める価値も変わりますので、顧客が増えればその分提供するべき価

値、考えなければいけない価値も増えるのだと思います。

#### 4. 我々の成果は何か？

『音楽祭の参加者の人数の増加と、評価の向上』

ドラッカーは、成果を評価測定する必要があると説いています。

音楽祭の成果としては、充実感や達成感等も含め考え方は色々あるかと思いますが、ここでは測定できるものとして参加者（観客や協力者など）の人数と参加者の音楽祭に対する評価の向上を挙げておきたいと思います。後者はアンケートの実施などで数値化するなど工夫したいと思います。

#### 5. 我々の計画は何か？

『毎年、秋に音楽祭を継続的に開催する』

計画としては細かい事は様々ありますが、なにより重要な事は、毎年継続的に音楽祭を実施して行く事だと思います。ですので、ここではこれを“計画”として挙げておきたいと思います。

「5つの重要な質問」についてこのように考えてみました。

これは筆者の個人的な考えですので、このように進められるかは、正直言えばわかりませんが、これらの事を踏まえて、運営に関わって行きたいと考えています。

改めて考えてみると、色々な事が自分自身でも見えてきます。とても面白いツールですので、皆様の活動でも是非ご活用頂ければと思います。

#### 〇まとめ

「音の宝箱・つくば 2015」を終え、反省会なども実施して、音の宝箱は来年に向けて動き始めています。文中にもありますように、次回へ向けての組織の在り方、参加メンバーの変容など、既に色々と変化が起こっています。これまでのメンバー、これから入るかもしれない新しいメンバーと共に、街に無くてはならない音楽祭へと成長できるように楽しんでいきたいと思っています。

次回の音楽祭がどのような形式になるかは本稿執筆時にはまだ決まっていますが、これまでの経験と新しい取り組みで、きっと今まで以上の音楽祭にしたいと思います。

またここまでお読み頂いた方々にとって、この取り組み事例やこの内容が何かしらの役に立てば幸いと考えます。お読み頂き、ありがとうございます。

【執筆者プロフィール】

奈良間 英樹（ならま ひでき）

音の宝箱・つくば企画運営会議 事務局長

株式会社 SocialVitamin 代表取締役

筑波大学医学群非常勤講師、高齢社会エキスパート（総合）、ワークライフバランス  
コンサルタント

特定非営利活動法人 セカンドリーグ茨城 理事、県南地域医療懇話会 理事、

つくば市シニアエキスパート登録講師

所属学会・団体：ドラッカー学会会員、千葉大学経済人クラブ絆会員

## 4 関連事業「葛城地区企業交流会」

一般財団法人つくば都市交通センター

企画業務部まち育て事業チーム チームリーダー

櫻井 豊

### (1) 市民活動における地域連携の重要性

#### ―財団による、企業と市民活動の橋渡し―

葛城グリーンネックレスのビジョンで提言しているように、まちづくりは、いろんな人が出来る範囲で実行するのがポイントです。

しかし住民の人たちだけで何かやろうとしても人手も資材も足りないのが現状であり、住民、行政、企業等が協力、連携していくことが重要と考えています。

一方、企業においては、社会貢献、地域貢献を掲げ、CSR 活動等を行っているところも多くあります。企業としても、何か地域に貢献しようと考えています。

では、それをマッチングさせれば、より良い活動になっていくのではないか。グリーンネックレスの会と地域企業の橋渡しを考え、葛城地区の地域活動を積極的にリードしている駅前のホテルと当財団が地区の各企業に声掛けし、企業交流会がスタートしました。

平成 25 年 9 月に初会合を開き、2～3 か月に 1 回のペースで集まっています。参加している企業等は当財団を含め現在 11 団体。様々な業種の企業が参加していますので、地域貢献をテーマに話し合うとともに、異業種交流、情報交換などを目的に会合を開いています。

### (2) 財団の役割

当財団はグリーンネックレスの会と企業交流会との橋渡しを目指して、グリーンネックレスの会の情報を企業交流会へ、また、企業交流会の情報をグリーンネックレスの会へと、それぞれの情報の収集と提供を行い、地域で協力、連携して活動できるよう取り組んでいます。

会合は幹事・会場持ち回りで開催していますが、現在のところは当財団が企業交流会の裏方として事務的な協力もしています。

### (3) 現在の状況と今後

#### ①現状 ―企業の得意分野を活かしての協力―

まだ、現在のところは、企業側には慎重論が根強く、交流会全体としてグリーンネックレスの会と一緒に活動するまでには至っていません。

しかし、各社の得意分野を活かして、個別には市民活動団体等に対しての協力は可能であり、現実に実施されています。印刷機器等の企業では地域イベントなどのチラシ印刷協力、種苗会社は花苗の提供などがあります。

葛城企業交流会の中心的メンバーである駅前のホテルは、発足当初からグリーンネックレスの会に物心両面で協力してもらっています。

駅前の不動産店は前述したように、まち育て講座「花とみどりのまちなみづくりセミナー」でモデル店舗になっていただいているほか、グリーンネックレスの会の活動にも積極的に参加しています。

また、企業交流会には時間的に参加が難しいのですが、地域活動のために無料で会議室を貸し出している信用金庫の支店もあります。この研究学園駅前周辺は公的な集会場所や気軽に集まることのできる居場所が少ないのが課題の一つですので、この会議室は地域の活動団体にとって、とても貴重な場所です。しかも、この支店では土、日曜営業とあわせて会議室も週末利用可としてくれていて、このことも地域の活動団体にとっては非常にありがたいことです。

そして、グリーンネックレスの会もこれらの協力を受けながら、日々活動しています。

まだまだ限られたものではありますが、企業によるこれらの協力、地域貢献は示唆に富んだ取り組みであり、さらに発展していく可能性を秘めていると思います。

企業の側としては無理のない範囲で地域貢献とともに自社PRなどを兼ねて、そして地域としてはそれを単に活用するだけでなく、そういう情報を掘り起こして地域の中で情報共有したり新たな地域貢献の出現や連携の可能性を探るなどしながら、ウィンウィンの関係として発展していけるようお互い努めていくべきと考えています。

#### ②今後に向けて ―企業交流会として一斉美化活動の取り組み―

企業交流会全体としても、何か実行に移そう、ということを以前から話し合っていました。平成27年、その第一歩を踏み出しました。

まずは環境美化の活動から、ということになりました。しかし、調べてみると参加各社は自社敷地の周辺が中心ですが、かなりの頻度で清掃、除草活動を行っていることが分かりました。全社がそのように実施している状況にあるので、「では、その取り組みを何らかの形で PR してみてもどうか」と展開していきます。

この取り組みを企業交流会から地域に発信して賛同者が増えていけば、一つ一つの取り組みは僅かですが、いずれは地区全体に広がり、それは大きな力になるのではないかと、ということです。平成 27 年 4 月、筑波研究学園都市の研究機関一般公開に合わせて、企業交流会に参加している研究所にこの取り組みを紹介するパネルを展示しました。

同年 10 月初旬には一斉美化週間として期間を定め、各社がその時期に自社周辺を中心に清掃、除草等を行うこととしました。各社はこの気運の中、自社周辺を中心としながらも、駅に向かう通勤経路や近隣の公園など実施エリアを広げていきます。

そして可能な社は期間の週末にまとまって、駅前を中心に雑草が繁茂しているエリアの除草活動を実施しました。この日は 5 社から計 17 名が参加し、軽トラ 6 台分の雑草を処分するほどの成果です。

これらの状況もパネルにして情報発信していく予定ですが、発信方法は各社のホームページや施設に掲示、また、マスコミへの情報提供など、これから会合を持って決めていくことになります。

繰り返しになりますが、まだ始まったばかり、取り組み内容も僅かなものではありませんが、続けていきながら地域への広がり、地域の活動団体と連携などを模索しながら進めていきたいと考えています。



(パネル案)

## あとがき

これまで、どうして駐車場を管理しているつくば都市交通センターが、街づくりや音楽祭を支援しているのだろうと不思議に思っておりました。今回、音の宝箱の取り組みに関わらせて頂き、また本書の執筆に関わらせて頂いたことで、つくば都市交通センターの重要ミッションが“街づくり”である事を知り、納得した次第です。

今回執筆者の一人として関わらせて頂くことで、つくば都市交通センターが関わっているつくばでの取り組みについて深く知る事ができました。本書に記載されている事例は決して画一的でなく、とてもユニークだと感じます。街づくりと言いながら、大規模緑地の維持整備活動であったり、地域の市民活動のサポートであったり、音楽祭の開催支援であったり、一見街づくりではない取り組みです。しかしこれらの取り組みは、既に出来上がった“ハード”としての街に、生命感を吹き込むような“ソフト”としての街づくりを目指しているのだと気がつきました。

コミュニティが崩壊していると言われる昨今ですが、こうした取り組みがコミュニティを新たな形に再構築する手助けになるのかもしれませんが。1年や2年くらいではわからない、10年くらいたった時に今この取り組みがあればこそ、という“ソフト”としてのコミュニティがつくばの中で機能しているかもしれません。

この取り組みが将来、多くの方にとって“住みよい地域”として実感頂けるようになればと願いつつ、また本書が同じような取り組みに携わっている方に少しでもお役に立つ事を願い、あとがきとさせていただきます。

最後までお読み頂き、心より感謝致します。

平成 28 年 1 月 吉日

音の宝箱・つくば企画運営会議 事務局長  
株式会社 SocialVitamin  
奈良間英樹



発行日 平成28年2月

発行所 一般財団法人 つくば都市交通センター

〒305-0031

茨城県つくば市吾妻1-5-1

Tel 029-855-7211

